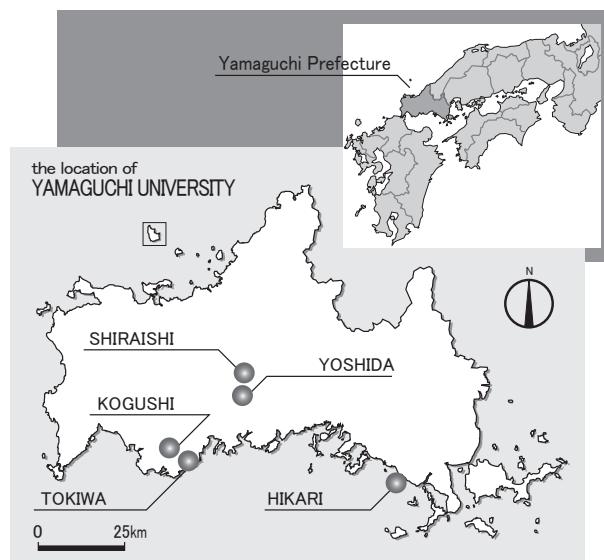


山口大学構内遺跡調査研究年報XIX

2022

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学構内遺跡調査研究年報XIX



2022

山口大学埋蔵文化財資料館

序 文

この年報には、山口大学埋蔵文化財資料館が実施した平成 11 年度の発掘調査成果を収録しています。当館では、平成 15 年度以降の発掘調査成果については『山口大学埋蔵文化財資料館年報』として刊行していますが、現在、未報告となっている平成 7・14 年度分の発掘調査報告については、今後引き続き整理作業を進めて、『山口大学構内遺跡調査研究年報』として刊行する予定です。

本書の刊行にあたって、宇部市教育委員会、宇部市都市開発部、埋蔵文化財資料館運営委員会、施設部をはじめとする関連部局、関係機関・関係各位のご高配に厚く御礼申し上げるとともに、今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

山口大学埋蔵文化財資料館
館長 根ヶ山 徹

例　　言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館が、埋蔵文化財資料館運営委員会の指示を受けて、平成 11 年度に山口大学構内で実施した調査と宇部市域遺跡発掘調査団が山口大学医学部構内遺跡で実施した宇部市土地区画整理事業関係の調査報告書である。
2. 現地における調査・研究は、資料館員 村田裕一（～平成 15 年 3 月 31 日 現人文学部准教授）・田畠直彦・金子大輔（平成 10 年 4 月 1 日～平成 13 年 3 月 30 日）が担当し、同館員 中村仁美（平成 11 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 30 日）が補佐した。出土遺物の整理と報告書の作成は平成 10 ～ 15 年度及び平成 29 ～令和 3 年度に行い、中村、神田真理子（平成 13 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 30 日）・乃美友香（平成 19 年 4 月 1 日～）が携わった。整理と報告書作成の統括は田畠が行った。
3. 本調査・研究における平成 11 年度の事務一般は、事務局庶務課研究協力係が統括し、実施面においては、各関係部局の事務部があたった。
4. 現地における遺構の実測などは、村田・田畠・金子・中村が行った。
5. 遺物実測は田畠、製図は田畠が行った。
6. 現地の写真撮影は村田・田畠・金子を行い、遺物写真的撮影は田畠が行った。
7. 韓式系土器については、岡山理科大学生物地球学部教授 亀田修一氏、愛媛大学埋蔵文化財調査室特任准教授 三吉秀充氏、京都大学大学院文学研究科教授 吉井秀夫氏、近世陶磁器については、元北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室佐藤浩司氏、石器の器種同定については村田裕一氏、山口県埋蔵文化財センター岩崎仁志氏、石器の石質鑑定については、山口大学大学院理工学研究科名誉教授加納隆氏に助言を仰ぎ、懇切なご教示を得た。
8. 英文の校正については、株式会社アルズに委託した。

9. 本書の執筆・編集は館員の補佐を得て田畠が行った。

10. 吉田構内、白石構内、光構内の調査担当は次のとおりである。

平成 11 年度

| | | | | |
|--------|----------|--------|-------|----------------------------|
| 調査主体 | 埋蔵文化財資料館 | 館長事務取扱 | 未島 浩 | (～平成 11 年 7 月 15 日) |
| | | 館 長 | 加納 隆 | (平成 11 年 7 月 16 日～) |
| | | 館 員 | 村田 裕一 | |
| | | 同 | 田畠 直彦 | |
| | | 同 | 金子 大輔 | (事務局庶務部教務補佐員) |
| | | 同 | 中村 仁美 | (事務局庶務部事務補佐員) |
| 事務局 | | 事務局長 | 高石 道明 | |
| 事務局庶務部 | | 部 長 | 橘 仁至 | (～平成 11 年 10 月 31 日) |
| | | | 金田 忠一 | (平成 11 年 11 月 1 日～) |
| | | | | (平成 11 年 11 月 15 日～平成 11 年 |
| | | | | 12 月 31 日 人事課長事務取扱) |
| 庶務課 | | 課 長 | 貴志 徹 | |
| | | 課長補佐 | 荒石 光明 | |
| | | 専 門 員 | 岡村 秀幸 | |
| 研究協力係 | | 係 長 | 宍戸 好隆 | |
| | | | 高藤 裕行 | |

令和 3 年度

| | | | | |
|------|----------|-------|-------|------------------|
| 調査主体 | 埋蔵文化財資料館 | 館 長 | 根ヶ山 徹 | |
| | | 副 館 長 | 藤間 充 | |
| | | 館 員 | 田畠 直彦 | |
| | | 同 | 横山 成己 | |
| | | 同 | 水久保祥子 | (総合技術部技術企画課技術職員) |
| | | 同 | 乃美 友香 | (学術基盤部学術推進課技術補 |
| | | | | 佐員) |
| 事務局 | 学術基盤部 | 部 長 | 多賀谷勇治 | (総務企画部長併任) |

| | | |
|---------|-------|-----------------------|
| | 次 長 | 田中 俊二 (学術基盤部学術推進課長併任) |
| 学術基盤推進課 | 副 課 長 | 田村 広明 |
| 総務係 | 係 長 | 大島 洋子 |
| | | 今秋 玲子 |
| | | 浅野 貴子 |
| | | 福原由希子 |
| | | 三浦 恵子 |

11. 吉田構内、白石構内、小串構内、光構内の調査研究にあたって下記の方々の多大なご協力と援助を受けた。

平成 11 年度

| | |
|--------|--|
| 事務局庶務部 | 人事課長 宮田久義 (～11月14日)、鈴木成巳 (1月1日～) 同 課長補佐 岩佐豈典、同専門員 柳井 進、任用係長 井下健二、 同係 三浦勝弘、西本志保、石田恭子、岡田育恵 |
| 経理部 | 部長 小林和久、主計課長 及川洋輝 (～7月31日)、渡邊悟司 (8月1日～) 同課長補佐 中村文穂、経理課長 結城昌伯、同課長 補佐 川本敏男、総務係長 山本直行、予算係長 中川憲治、監査 係長 伊藤篤紀、管財係長 篠原敏夫、管理係長 重本隆之 |
| 施設部 | 部長 山下 曙、企画課長 上田孝雄、同専門員 (企画係長併任) 小川賀津夫、建築課長 澄川 昇、同課長補佐 窪田秀正、設備課 長 才木敏雄、総務係長 中光博輝、企画係長 河田徹也、建築第一 係長 中谷幸一、同係 新里英明、建築第二係長 中谷幸一、 同係 澤谷弘美、電気係長 松田清司、同係 弘中智則、前田康 孝、機械係長 岡田吉彦、同係 板垣健一、藤林聖司、中村兵衛 |
| 学生部 | 部長 井上 武、学生課長 兵地正彬、同課長補佐 田村博幸、総 務係長 佐村研治、厚生係長 山根賀浩 |
| 教育学部 | 事務長 有吉 明、会計係長 高崎明祈、附属光小学校長 河合洋 祐、同副校長 佐藤純一、附属光中学校長 宮崎擴道、同副校長 井上需戸、光附属学校係長 伊藤伸司 |
| 医学部 | 事務部長 最所親志、同次長 粒見和義 (～1月3日)、中村徹 (|

1月4日～)、総務課長 山西昭一、同課長補佐 石川恒夫、管理
課長 木林 透、同課長補佐 牧原和仁、中島一雄、総務係長 久
保賢治、施設管理係長 萬代英夫、同係 永富まり子、林 直人、
建築係長 川西智幸、設備係長 山本安雄

光市シルバー人材センター

12. 小串土地区画整理事業関係の調査は下記の体制で行った。

平成11年度

調査主体 宇部市域遺跡発掘調査団

団長 西村太一 (宇部市教育長)

副団長 大塚 徹 (宇部市教育次長)

調査指導 豆谷和之 (奈良県田原本町教育委員会文化財保護課)

調査員 村田裕一 (山口大学人文学部助手 埋蔵文化財資料館)

田畠直彦 (山口大学人文学部助手 埋蔵文化財資料館)

金子大輔 (山口大学事務局庶務部 教務補佐員)

事務局 林 英樹 (宇部市教育委員会社会教育課課長)

坂野卓史 (宇部市教育委員会社会教育課課長補佐)

林 英樹 (宇部市教育委員会社会教育課課長補佐)

唐沢陽司 (宇部市教育委員会社会教育課文化係長)

渡辺英明 (宇部市教育委員会社会教育課事務職員)

石川 健 (宇部市教育委員会社会教育課事務職員)

作業員 宇部市シルバー人材センター

令和3年度

事務局 石津洋子 (宇部市教育委員会学びの森くすのき・地域文化交流課課長)

石川 健 (宇部市教育委員会学びの森くすのき・地域文化交流課係長)

鈴賀智幸 (宇部市教育委員会学びの森くすのき・地域文化交流課職員)

凡 例

- 吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割の A-24区南西隅を起点（構内座標 x=0, y=0）とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第Ⅲ系における座標値 (X, Y) と構内座標値 (x, y) とは下記の計算式で変換される。

$$x = X + 206,000$$

$$y = Y + 64,750$$

- 各遺構は下記の記号で表記することがある。

土坑……SK, 溝……SD, 柱穴・ピット……Pit, 落ち込み・不明遺構……SX

- 調査区位置図で使用した方位は、白石構内が磁北で他の構内は真北を示す。また、方位の標記がない図は上が真北を示す。

- 標高数値は海拔標高を示す。

- 本文中の遺物番号は、挿図・図版・出土遺物観察表の番号と一致させた。

- 土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1976) に準拠した。

- 土器・陶磁器の実測図は、下記のように器種分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶磁器

断面白抜き……縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器

本 文 目 次

| | | |
|--|------|----|
| 第1章 平成11年度山口大学構内遺跡調査の概要 | （田畠） | 1 |
| 第2章 宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査 | | |
| 1 調査の経過 | （田畠） | 5 |
| 2 層序・遺構 | | 5 |
| 3 遺物 | | 15 |
| 4 小結 | | 18 |
| 第3章 教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う 試掘・立会調査 | （田畠） | 21 |
| 第1節 試掘調査 | （田畠） | 21 |
| 1 調査の経過 | | 21 |
| 2 層序・遺構 | | 22 |
| 3 遺物 | | 29 |
| 4 小結 | | 39 |
| 第2節 立会調査 | | 44 |
| 第4章 平成11年度山口大学構内の立会調査 | （田畠） | 47 |
| 第1節 吉田構内の立会調査 | | |
| 1 第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備工事に伴う立会 調査 | | 47 |
| 2 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査 | | 51 |
| 3 第2学生食堂北西擁壁新設工事に伴う立会調査 | | 52 |
| 4 サッカー場南側防球ネット新設工事に伴う立会調査 | | 52 |
| 5 第1体育館・共通教育本館スロープ新設工事に伴う立会調査 | | 53 |
| 6 基幹環境整備工事（外灯新設）に伴う立会調査 | | 54 |

付 篇

| | | | |
|--------------------|-------|----------|----|
| 山口市荻崎遺跡出土土器について | | (田畠) ... | 55 |
| 山口大学構内遺跡調査要項 | | | |
| 山口大学埋蔵文化財資料館規則 | | | 63 |
| 山口大学埋蔵文化財資料館運営員会規則 | | | 64 |
| 山口大学構内の主な調査 | | | 66 |
| Summary | | | 81 |

図 版 目 次

<宇部市土地地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査>

- PL. 1 小串構内全景（南から）
- PL. 2 (1) G トレンチ調査前全景（南東から）
(2) G トレンチ全景（南西から）
- PL. 3 (1) G トレンチ全景（俯瞰）
(2) G トレンチ北東壁土層断面①（南から）
- PL. 4 (1) G トレンチ北東壁土層断面②（西から）
(2) G トレンチ南東壁土層断面・土坑3（南から）
- PL. 5 (1) G トレンチ用水路（南西から）
(2) G トレンチ用水路H—I断面（西から）
- PL. 6 (1) G トレンチ用水路J—K断面（東から）
(2) G トレンチ土坑1・2検出状況（南西から）
- PL. 7 (1) G トレンチ土坑1土層断面（北西から）
(2) G トレンチ土坑1完掘状況（南東から）
(3) G トレンチ土坑2（南から）
(4) G トレンチ土坑3（南東から）
- PL. 8 (1) H トレンチ全景（北西から）
(2) H トレンチ土層断面（西から）
- PL. 9 出土遺物①（土器）

PL. 10 出土遺物②（土器）

PL. 11 出土遺物③（土器・石器・金属器）

PL. 12 出土遺物④（錢貨）

＜教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査＞

PL. 13 光構内全景（南西から）

PL. 14 (1) A トレンチ全景（南西から）

(2) A トレンチ南東壁土層断面（北から）

PL. 15 (1) B トレンチ全景（北西から）

(2) B トレンチ北東壁土層断面（南西から）

PL. 16 (1) C トレンチ第1遺構面遺構検出・土器出土状況（拡張前 南東から）

(2) C トレンチ第1遺構面遺構検出・土師器出土状況（拡張前 東から）

PL. 17 (1) C トレンチ第1遺構面遺構検出・土器出土状況（拡張後 南東から）

(2) C トレンチ第1遺構面完掘状況（南東から）

PL. 18 (1) C トレンチ第1遺構面SK1半截状況（南東から）

(2) C トレンチ第1遺構面Pit1～4・SD1（南東から）

(3) C トレンチ第1遺構面土師器出土状況（北東から）

(4) C トレンチ第1遺構面磁器出土状況（南西から）

PL. 19 (1) C トレンチ第2遺構面遺構検出状況（南東から）

(2) C トレンチ第2遺構面遺構半截状況（南東から）

(3) C トレンチ第2遺構面遺構完掘状況（南東から）

(4) C トレンチ第2遺構面Pit6・南西壁土層断面（北東から）

PL. 20 (1) C トレンチ全景（南東から）

(2) C トレンチ北東壁土層断面（南西から）

PL. 21 (1) C トレンチ北西壁土層断面（南東から）

(2) C トレンチ南東壁土層断面（北西から）

PL. 22 (1) D トレンチ北東壁土層断面（南西から）

(2) E トレンチ南東壁土層断面（北西から）

PL. 23 (1) F トレンチ北東壁土層断面（南西から）

(2) G トレンチ全景（南西から）

PL. 24 (1) G トレンチ北西壁土層断面（南東から）

- (2) G トレンチ北西壁・南西壁土層断面（東から）
- PL. 25 (1) G トレンチ北東壁土層断面（南西から）
 - (2) G トレンチSK1検出状況（北西から）
 - (3) G トレンチSK1土層断面（北西から）
 - (4) G トレンチSK1完掘状況（北西から）
- PL. 26 出土遺物①（土器）
- PL. 27 出土遺物②（土器）
- PL. 28 出土遺物③（土器）
- PL. 29 出土遺物④（土器）
- PL. 30 出土遺物⑤（土器）
- PL. 31 出土遺物⑥（土器）
- PL. 32 出土遺物⑦（土器・鉄製品）
- PL. 33 (1) 立会調査区（北西から）
 - (2) H 地点埋甕検出状況①（南西から）
 - (3) H 地点埋甕検出状況②（南西から）
 - (4) I - 1 地点（南西から）
- PL. 34 出土遺物（土器）

＜平成11年度山口大学構内の立会調査＞

- PL. 35 吉田構内全景（南から）
- PL. 36 (1) C 地点全景（北西から）
 - (2) C 地点第5層検出状況（南から）
- PL. 37 (1) C 地点遺構検出状況（南から）
 - (2) C 地点遺構完掘状況（南から）
 - (3) C 地点北壁土層断面（南から）
 - (4) D 地点（西から）
- PL. 38 出土遺物（土器）

＜付篇 山口市荻崎遺跡出土土器について＞

- PL. 39 (1) 荻崎遺跡とその周辺（西から 1947年9月米軍撮影 国土地理院）
 - (2) 荻崎遺跡遠景（南西から 2021年9月）
- PL. 40 出土遺物（土器）

挿 図 目 次

<平成 11 年度山口大学構内遺跡調査の概要>

| | | |
|--------|----------------|---|
| Fig. 1 | 山口大学吉田・白石構内位置図 | 2 |
| Fig. 2 | 山口大学小串・常盤構内位置図 | 3 |
| Fig. 3 | 山口大学光構内位置図 | 4 |

<宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査>

| | | |
|---------|---------------------|-----|
| Fig. 4 | 調査区位置図 | 5 |
| Fig. 5 | G トレンチ平面図 | 7・8 |
| Fig. 6 | G トレンチ土層断面図① | 9 |
| Fig. 7 | G トレンチ土層断面図② | 10 |
| Fig. 8 | 用水路土層断面図 | 11 |
| Fig. 9 | 土坑 1 平面図・断面図 | 11 |
| Fig. 10 | 土坑 2・3 平面図・断面図 | 12 |
| Fig. 11 | H トレンチ平面図 | 13 |
| Fig. 12 | H トレンチ土層断面図 | 14 |
| Fig. 13 | 出土遺物実測図①（土器） | 16 |
| Fig. 14 | 出土遺物実測図②（土器） | 17 |
| Fig. 15 | 出土遺物実測図③（石器・金属器・錢貨） | 17 |

<教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査>

| | | |
|---------|------------------------|----|
| Fig. 16 | 調査区位置図 | 21 |
| Fig. 17 | 調査区詳細図① | 22 |
| Fig. 18 | 調査区詳細図② | 23 |
| Fig. 19 | A・B トレンチ土層断面図 | 23 |
| Fig. 20 | C トレンチ第 1 遺構面平面図・土層断面図 | 24 |
| Fig. 21 | C トレンチ SK1 断面図 | 24 |
| Fig. 22 | C トレンチ第 2 遺構面平面図 | 26 |
| Fig. 23 | D・E・F トレンチ土層断面図 | 27 |
| Fig. 24 | G トレンチ平面図・土層断面図 | 28 |
| Fig. 25 | G トレンチ北区 SK1 断面図 | 28 |

| | | |
|------------------------------------|--|-------|
| Fig. 26 | 出土遺物実測図①（土器） | 31 |
| Fig. 27 | 出土遺物実測図②（土器） | 32 |
| Fig. 28 | 出土遺物実測図③（土器） | 33 |
| Fig. 29 | 出土遺物実測図④（土器） | 34 |
| Fig. 30 | 出土遺物拓影 | 35 |
| Fig. 31 | 出土遺物実測図⑤（土器） | 36 |
| Fig. 32 | 出土遺物実測図⑥（土器） | 38 |
| Fig. 33 | 出土遺物実測図⑦（鉄製品） | 39 |
| Fig. 34 | 出土遺物実測図（土器） | 46 |
| <平成 11 年度山口大学構内の立会調査> | | |
| Fig. 35 | 調査区位置図 | 47 |
| Fig. 36 | C 地点平面図・土層断面図 | 48 |
| Fig. 37 | D 地点土層断面図 | 49 |
| Fig. 38 | 出土遺物実測図（土器） | 49 |
| Fig. 39 | 調査区位置図 | 51 |
| Fig. 40 | 調査区位置図 | 52 |
| Fig. 41 | 調査区位置図 | 52 |
| Fig. 42 | 調査区位置図 | 53 |
| Fig. 43 | 調査区位置図 | 54 |
| Fig. 44 | 調査区位置図 | 54 |
| <付篇 山口市荻崎遺跡出土土器について> | | |
| Fig. 45 | 荻崎遺跡位置図 | 56 |
| Fig. 46 | 出土遺物実測図（土器） | 59 |
| <山口大学構内の調査区位置図> | | |
| Fig. 47 | 吉田構内地区割及び主な調査区位置図（昭和 41 年度～平成 14 年度） | 83・84 |
| Fig. 48 | 小串構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度） | 85 |
| Fig. 49 | 常盤構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度） | 86 |
| Fig. 50 | 白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度） | 87 |

| | |
|--|----|
| Fig. 51 白石構内（中学校）調査区位置図（昭和 60 年度～平成 14 年度） | 88 |
| Fig. 52 光構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 12 年度） | 89 |

表 目 次

<平成 11 年度山口大学構内遺跡調査の概要>

| | |
|------------------------------|---|
| Tab. 1 平成 11 年度山口大学構内遺跡調査一覧表 | 1 |
|------------------------------|---|

<宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査>

| | |
|--------------------|----|
| Tab. 2 出土遺物観察表（土器） | 19 |
|--------------------|----|

| | |
|--------------------|----|
| Tab. 3 出土遺物観察表（石器） | 19 |
|--------------------|----|

| | |
|------------------------|----|
| Tab. 4 出土遺物観察表（金属器・錢貨） | 20 |
|------------------------|----|

<教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査>

| | |
|--------------------|----|
| Tab. 5 出土遺物観察表（土器） | 42 |
|--------------------|----|

| | |
|---------------------|----|
| Tab. 6 出土遺物観察表（鉄製品） | 44 |
|---------------------|----|

| | |
|--------------------|----|
| Tab. 7 出土遺物観察表（土器） | 46 |
|--------------------|----|

<平成 11 年度山口大学構内の立会調査>

| | |
|--------------------|----|
| Tab. 8 出土遺物観察表（土器） | 50 |
|--------------------|----|

<付篇 山口市荻崎遺跡出土土器について>

| | |
|--------------------|----|
| Tab. 9 出土遺物観察表（土器） | 62 |
|--------------------|----|

| | |
|-----------------------------|----|
| Tab. 10 山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会委員 | 65 |
|-----------------------------|----|

| | |
|------------------------|----|
| Tab. 11 山口大学構内の主な調査一覧表 | 66 |
|------------------------|----|

第1章 平成11年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・白石構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代の遺物が出土する小串構内など、周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺での既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合いなどを勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の方法によって調査を実施している。

平成11年度は事前調査1件、試掘調査1件、立会調査7件の計9件の調査を実施した。事前調査は平成10年度に引き続き宇部市域土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査を、宇部市域遺跡発掘調査団を調査主体として、宇部市教育委員会と山口大学埋蔵文化財資料館が合同で実施した。教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う立会調査については、同試掘調査と合わせて報告する。

Tab.1 平成11年度山口大学構内遺跡調査一覧表

| 調査区分 | 調査名 | 構内地区 | 構内地区割 | 面積(m ²) | 調査期間 | 調査担当 | 挿図番号 |
|------|--------------------------------|------|-------------------------------|---------------------|---------------------|-------|------------------|
| 事前 | 宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線) | 小串 | | 818.9 | 5月26日～ 9月13日 | 村田・金子 | Fig.48 No.33 |
| 試掘 | 教育学部附属光小・中学校 上水道（給水管）改修工事 | 光 | | 48.7 | 11月15日～ 12月10日 | 田畠 | Fig.52 No.19 |
| 立会 | 第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力 線路施設整備工事 | 吉田 | O-15・16, P-14 | 6.6 | 5月10～14日 | 田畠 | Fig.47 No.218 |
| | 九田川河川局部改良工事 | 吉田 | F・G-13, G・H-12 | 222 | 6月1日・8月9日 12月14日 | 村田・田畠 | Fig.47 No.219 |
| | 第2学生食堂北西擁壁新設工事 | 吉田 | N・O-14 | 43 | 11月25日 | 田畠 | Fig.47 No.220 |
| | サッカー場南側防球ネット新設工事 | 吉田 | G・H-22 | 3.2 | 3月10日 | 田畠 | Fig.47 No.221 |
| | 第1体育館・共通教育本館スロープ 新設工事 | 吉田 | H-15, K-15・16 | 201.1 | 3月22・23・ 30日 | 村田 | Fig.47 No.222 |
| | 基幹環境整備工事（外灯新設） | 吉田 | I-12, K・L-18, L-15, M・N-17 | 4 | 3月21・27・ 30日 | 村田・田畠 | Fig.47 No.223 |
| | 教育学部附属光小・中学校 上水道（給水管）改修工事 | 光 | | 179.3 | 2月7・14・21・ 3月3日 | 田畠 | Fig.52 No.19 |

吉田構内の調査（本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市吉田 1677-1、教育学部附属養護学校：同

吉田 3003 所在）

立会調査 6 件を実施した。第 2 学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備工事に伴う立会調査では、C 地点で遺物包含層と遺構面 2 面を確認し、弥生土器、古代の土師器、須恵器を主体とする遺物が出土した。また、D 地点では河川埋土を検出し、古代の土師器、須恵器が出土した。C・D 地点で出土した古代の須恵器の多くは第 2 学生食堂敷地で出土



Fig.1 山口大学吉田・白石構内位置図

した遺物と様相が近似している。C 地点の状況は第 2 学生食堂敷地で確認された遺構・遺物がさらに東側に展開していることを示し、D 地点の遺物は北側に位置する第 2 学生食堂・農学部実験畑から廃棄された可能性が高い。

その他の立会調査では顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

白石構内の調査（教育学部附属山口幼稚園：

山口市白石三丁目 1-2、同小学校：白石三丁目 1-1、同山口中学校：白石一丁目 9-1 所在）

当該地で掘削を伴う開発等工事は計画されなかった。

小串構内の調査（医学部、同附属病院、医療技

術短期大学部：宇部市南小串 1 丁目 1-1）

事前調査 1 件を宇部市教育委員会と埋蔵文化財資料館が合同で実施した。

宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う事前調査では、G・H のトレーナーを設定して調査を行った。今回の調査では、水田化以前の二次堆積層からはほとんど遺物が出土せず、全体を通して古代以前の出土遺物は僅少であった。遺構は造成前の水田耕作に伴うもの



Fig.2 山口大学小串・常盤構内位置図

である。G トレンチは医学部構内遺跡では過去最大の調査面積であり、用水路 1 条・水田暗渠 2 条・土坑 3 基を検出した。用水路は木や竹で補強されており、堆積と改修が繰り返されていたが、掘削時期は不明である。また、用水路の両側には通路があり、北側の一部では水田の区画を確認した。用水路の境に水田面の高さが異なることから、用水路は近世の開作時に遡る地割を反映している可能性がある。水田床土（第 3・4 層）からは図化していないものを含めて、18世紀後半～19世紀の陶磁器類が多数出土した。これらは真締川の旧河口が耕地化された時期を裏付けるものであろう。平成10年度から開始した宇部市土地区画整理事業に伴う発掘調査は終了したが、今回の調査では地域開発史に関わる成果を得ることができた。

常盤構内の調査（工学部：宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舎：同上野中町2658-3所在）

当該地で掘削を伴う開発等工事は計画されなかった。

光構内の調査（教育学部附属光小学校、同光中学校：光市室積 8 丁目 4 番 1 号所在）

試掘調査 1 件・立会調査 1 件を実施した。教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘調査では A～G トレンチを設定して行った。層序・遺構について時期別に述べる。調査の結果、B トレンチでは第 5 層から土師器片が少量出土した。詳細な時期は不明であるが、同層は古墳時代の遺物包含層と考えられる。C トレンチでは第 6 層で 5 世紀後半～6 世紀前半の土師器、須恵器、韓式系土器が出土した。また、第 7 層上面でピット 6 基を検出した。ピットからの出土遺物は僅少であるが、第 6 層出土遺物から 5 世

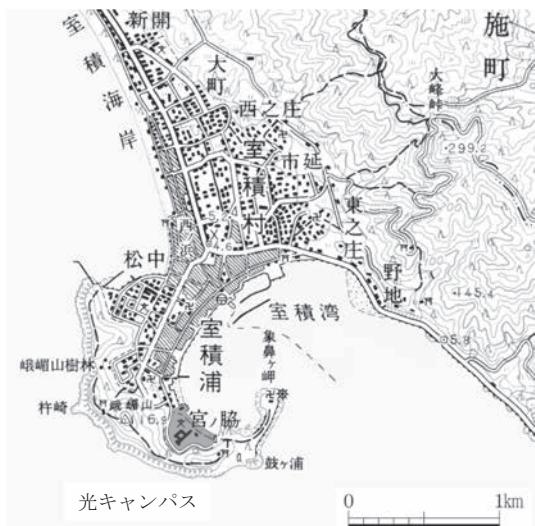


Fig.3 山口大学光構内位置図

紀後半～6世紀前半と考えられる。このほか、Dトレンチ第6～16層、Eトレンチ第11層も古墳時代の遺物包含層である可能性が高い。Gトレンチでは古墳時代と考えられる不明遺構1基・土坑1基を検出した。また、第11層から縄文土器片が出土した。

Gトレンチ第4層からは縄文土器片、古墳時代・中世の土師器片が出土し、直下の第5層上面で検出されたPit1は中世の遺構と考えられる。

Cトレンチ第5層は18～19世紀の遺

物包含層で、第6層上面では溝1条、土坑1基、ピット5基を検出した。このうちSK1からは18世紀前半～後半の磁器が出土した。これらの遺物包含層・遺構は安永年間に設置された室積会所に関連する可能性が高い。また、造成土の直下で検出されたA～Dトレンチ第4層・Gトレンチ第3層は近世～近代の遺物包含層である。Aトレンチ第4層は近代の遺構面形成層で、上面で石積を検出した。出土遺物で特に注目されるのは韓式系土器である。これらはいずれも軟質土器で甕・鉢・竈形土器がある。このうち、外面に鳥足文タキを施す竈形土器は全形がうかがえるきわめて貴重な事例である。

立会調査では、光構内で初となる近世～近代の埋甕をH地点で検出した。J-1・2地点では古墳時代と考えられるピットを3基検出した。このほか、I・K地点で古墳時代の遺物包含層を検出した。

以上の平成11年度調査の報告にあたり、既刊の年報に記載した各構内調査区位置図、平面図、調査面積、出土遺物の時期等を訂正した。

第2章 宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査

1 調査の経過

宇部市土地区画整理事業に伴い医学部構内に道路建設が計画されたことを受けて、埋蔵文化財調査を行うため、平成10年度に宇部市教育長を団長とする宇部市域遺跡発掘調査団が結成された。同調査団には資料館員の村田・田畠・金子が調査員として加わり、宇部市教育委員会と山口大学埋蔵文化財資料館が合同で発掘調査を実施した。¹⁾ 今回の調査は平成10年度に引き続き柳ヶ瀬丸河内線道路建設に伴うもので、同調査団が発掘調査を実施した。調査区名は平成10年度からの連番とし、建設予定道路の北辺にあたるテニスコートにGトレーニング、学友会館南側の駐車場にHトレーニングを設定した。調査期間は平成11年5月26日～9月13日で、調査面積はGトレーニング818m²、Hトレーニング71.9m²、合計818.9m²である。調査区の座標値は世界測地系（平面直角座標系第III系）で示した。

2 層序・遺構

(1) Gトレーニング (Fig. 5～10, PL. 2～7)

層序は、第1層：表土・造成土（層厚72～112cm）、第2層：水田耕土（層厚10～21cm）、第3層：水田床土I（暗黄灰褐色土・暗茶灰黃褐色土・暗灰黄色粘土・暗灰黄色粘土・暗茶灰黃褐色土等 層厚約2～15cm）、第4層：

水田床土II（暗灰褐色土・暗灰黃褐色土等 層厚3～17cm）、第5～7層（層厚70cm以上）：粘土・砂による堆積層である。

造成前には水田として利用されていた。用水路を境として、北西側の水田面（第2層上面）が南東側の水田より約20cm高い。水田床土はI・IIに大別できる。第5～7層は水田化以前の堆積層である。第5層はFig. 5のA地点付近で現地表下1.05m、標高1.48m、同F地点付近では現地表下1.23m、標高1.33mで検出した。平成10年度の調

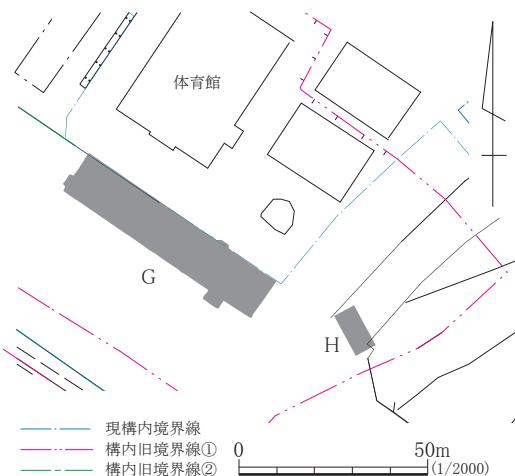


Fig.4 調査区位置図

査では水田化以前の二次堆積層から弥生時代終末～古墳時代前期の土器を中心とする土器片が多数出土したが、今回は認められなかった。

遺構は主に造成前の水田耕作に伴うものである。以下、混乱を避けるため、遺構名は調査時のものを使用する。

用水路 (Fig. 5, PL. 5・6 (1))

造成直前まで使用されており、第1層の直下、第2・3層で検出した。土層観察箇所を除き中央部付近のみ底面まで掘削した。流路方向は東一西方向で、検出面での幅は約1.95～2.4m、延長約13.6m、検出面からの深さは約0.7～0.9mである。両岸には、直径約15～20cmの木杭が約0.7m間隔で打ち込まれていた。また、両岸下半部には杭の間に直径2cm程度の竹を横方向に設置し、同上半部では一部で板を設置して土留めを行っていた。底面には直径約9cm・長さ約48cmの木材を流路と直交して設置していた。土層断面（H—I断面）からは堆積と改修が繰り返されていることが分かるが、掘削時期は不明である。裏込土がみられる北側の約0.6～1.0m、南側の約1.5mは通路になっており、北側の一部では水田の区画を確認した。また、この水路の境に水田面の高さが異なることから、近世の開作時に遡る地割を反映している可能性がある。埋土から近世～現代の陶磁器、鉄製品等が出土した。

暗渠 (Fig. 5・8, PL. 3 (1)・PL. 5(2))

暗渠1は第3層上面で検出した。検出面での幅は約40cmで、流路方向は南東一北西方向である。直径3～8cm程度の竹を数本束ねて直径30cm程度にして埋設していた。また、上記の竹の束に対してほぼ1.5mの間隔で直径2cm程度の竹を垂直に設置していた。暗渠2は用水路南側の通路との境界部で部分的に確認した。幅約46cm、深さ約36cmで、直径約10cmの竹を埋設していた。

土坑1 (Fig. 9, PL. 6 (2)・PL. 7 (1) (2))

第5層上面で検出した。平面形はやや歪みがある長方形で、長辺約4.3m、短辺約2.3m、深さ約0.32mである。埋土は黄灰色の砂で、上面には第4層がブロック状に混じり、土坑2・3と共に通する。土師器もしくは土師質土器片が出土した。

土坑2 (Fig. 10, PL. 7 (3))

第5層上面で検出した。平面形は長方形で、長辺約4.2m、短辺約1.9m、深さ約0.7mである。埋土は土坑1・3と共に通する。土師器もしくは土師質土器片、陶器片、磁器片が出土した。

土坑3 (Fig. 10, PL. 7 (4))

土層断面図では第4b層を検出面とする。平面形は長方形で、長辺約3.7m、短辺約1.2m、

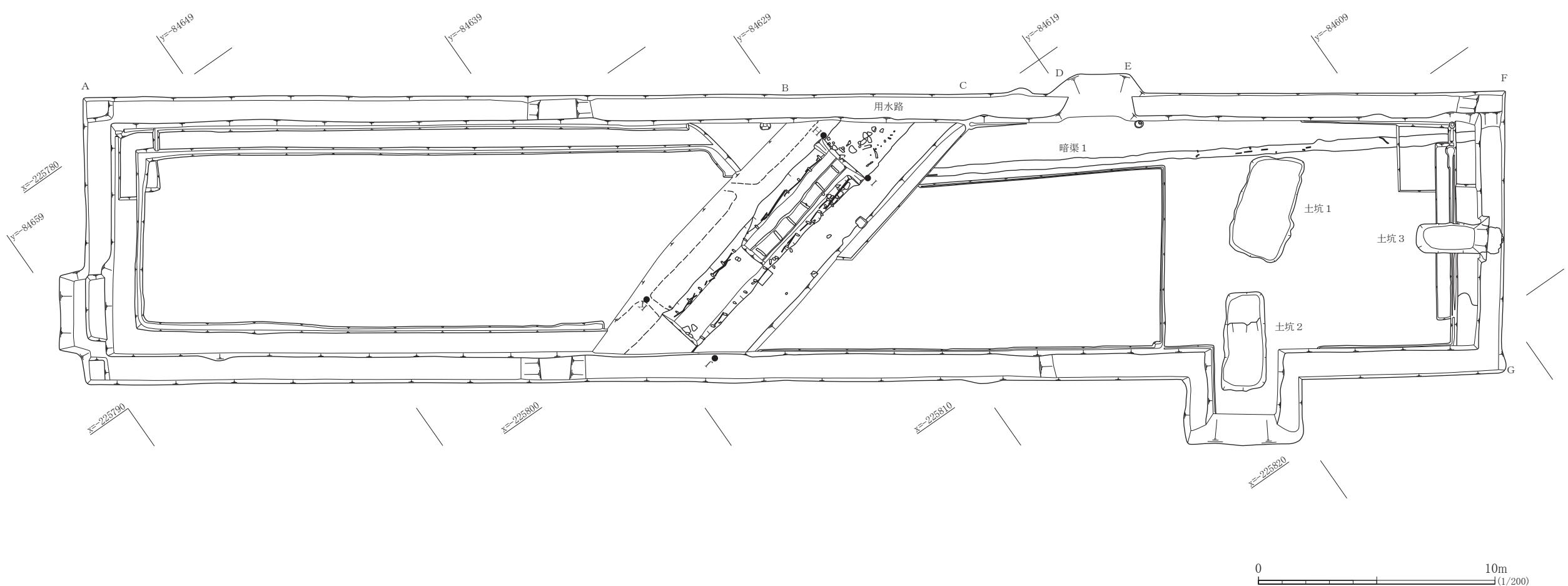


Fig.5 G トレンチ平面図

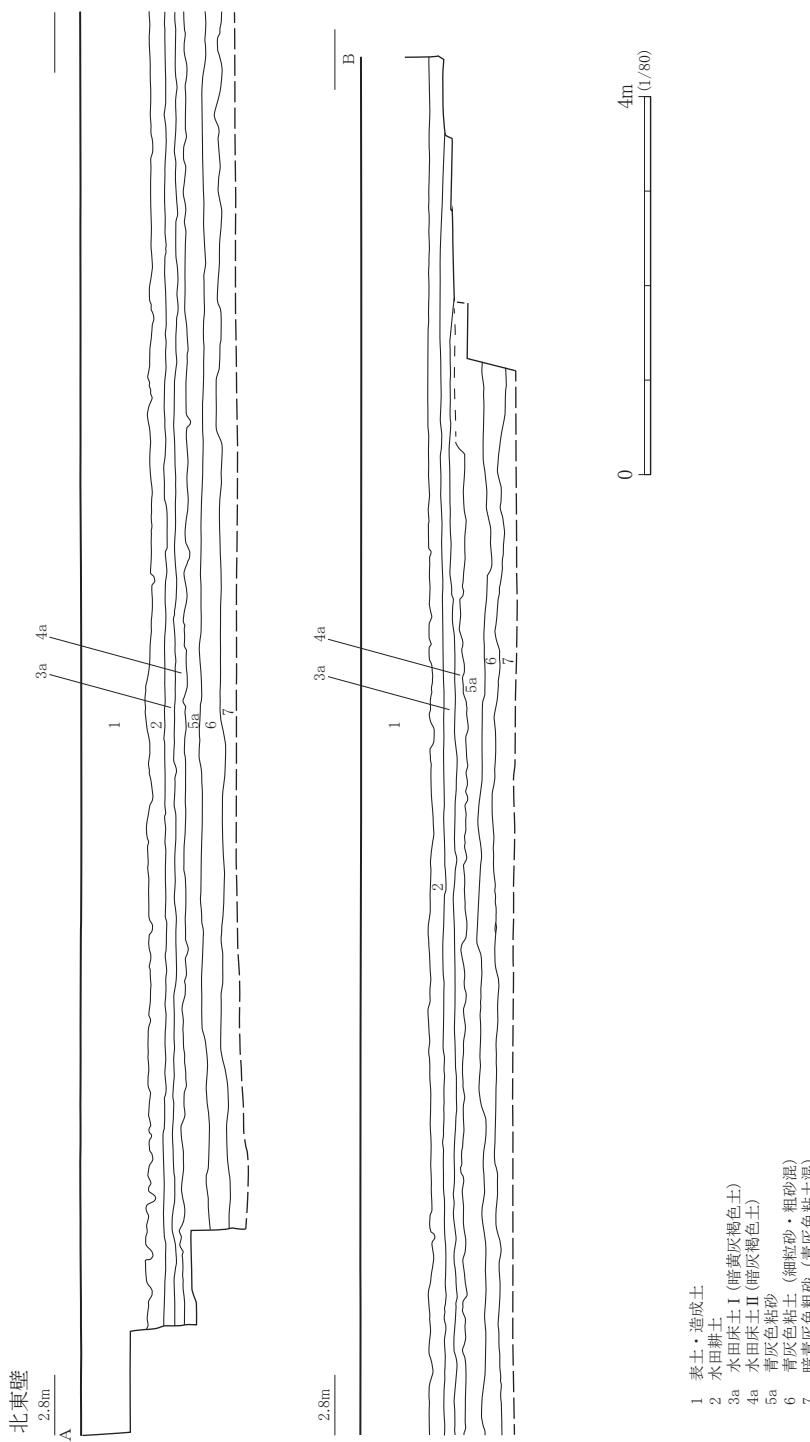


Fig.6 Gトレンチ土層断面図①

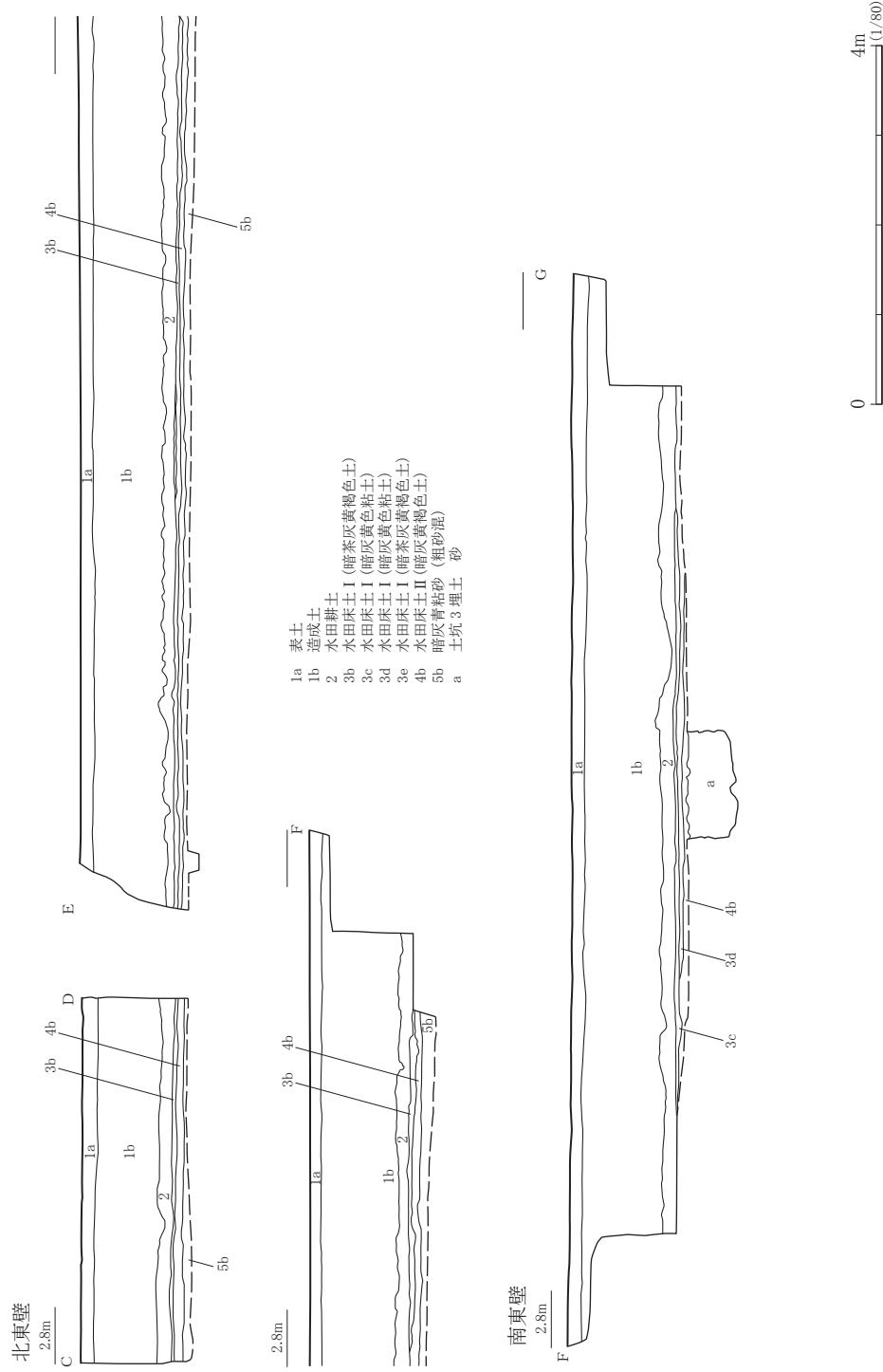


Fig.7 Gトレーンチ土層断面図②

層序・遺構

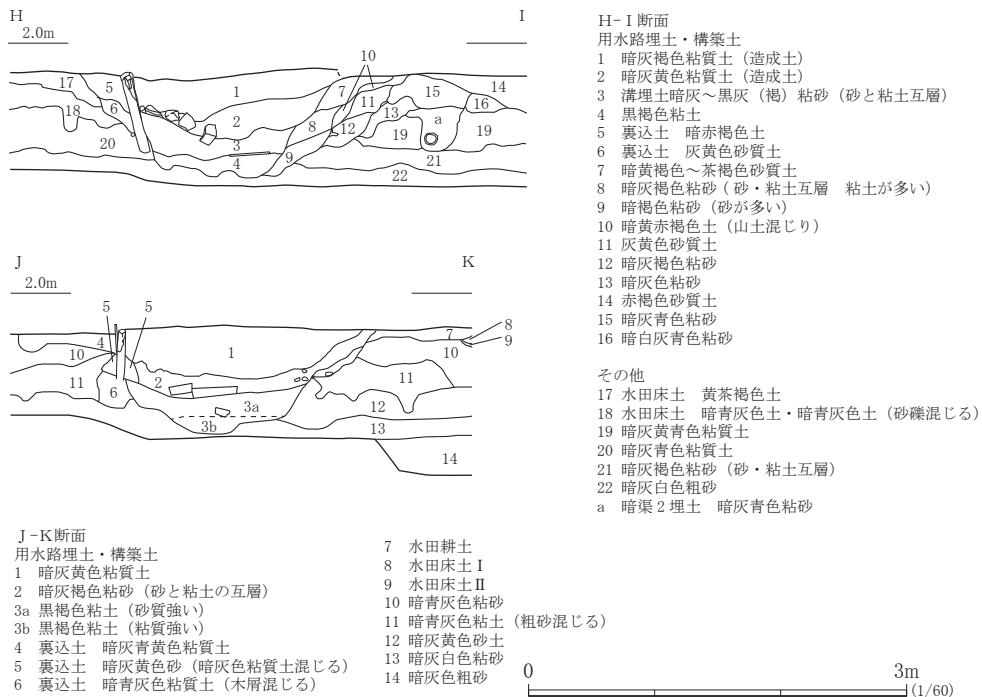


Fig.8 用水路土層断面図

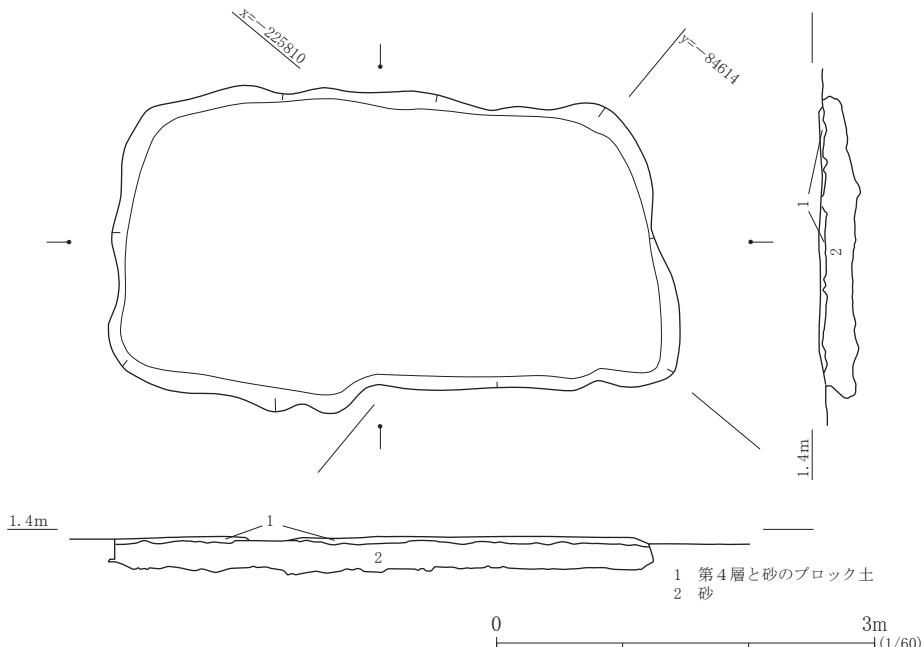


Fig.9 土坑1平面図・断面図

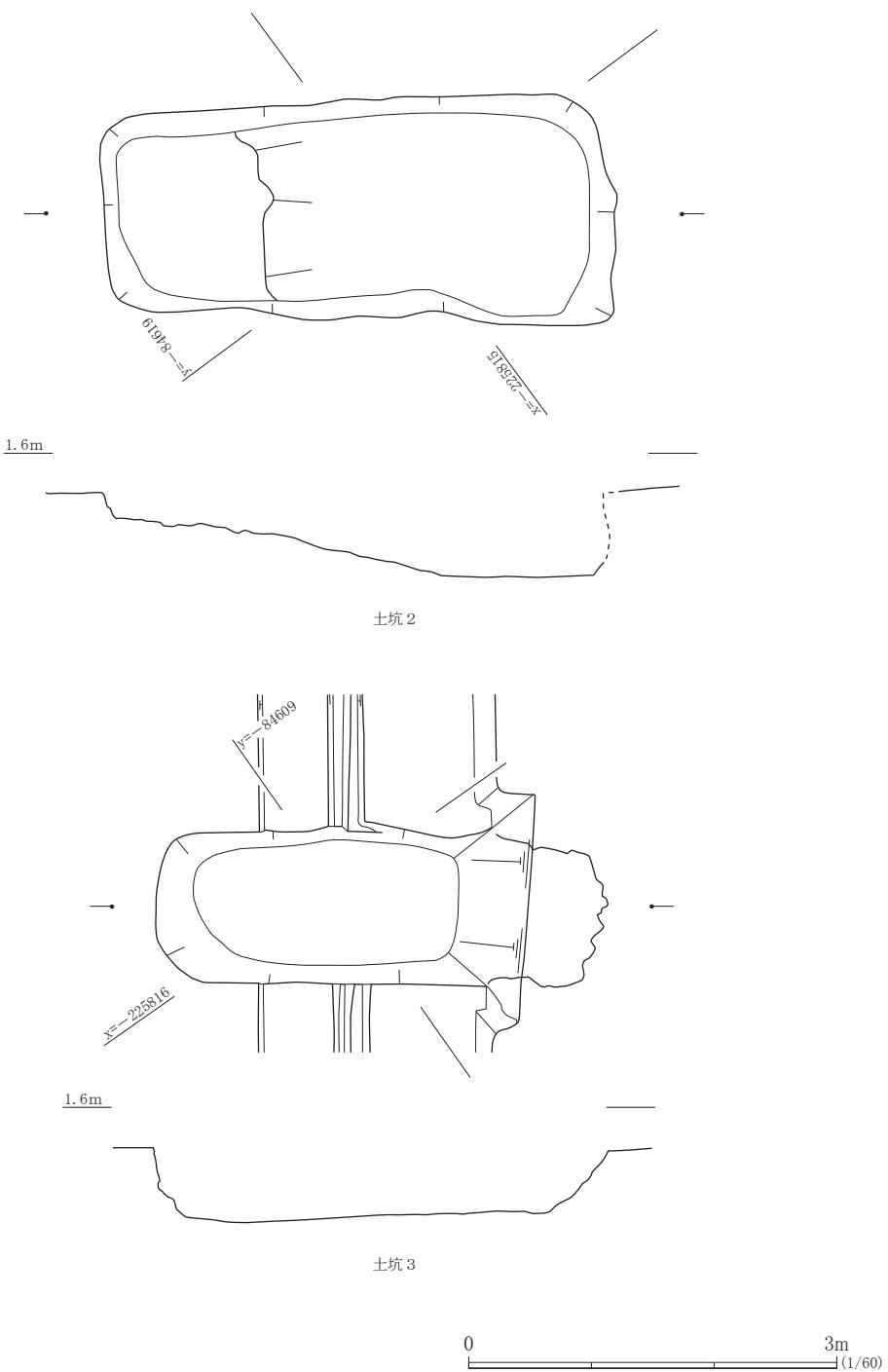


Fig.10 土坑2・3平面図・断面図

深さ約0.6mである。埋土は土坑1・2と共に通する。土師器もしくは土師質土器片が出土した。なお、完掘時の平面図は作成していない。

土坑1～3は断面形は異なるが、平面規模が近似し、埋土が共通する。また、壁面には鍬の刃先の痕跡が明瞭に残っており、掘削後すぐに埋め戻されたと考えられる。以上から、土坑1～3は粘土採掘坑であり、ほぼ同時期に掘削された可能性が高い。ただし、採掘された粘土は海成粘土であることからその用途については検討の余地があろう。土坑1～3とも出土遺物は小片かつ僅少なため時期比定は困難であるが、第4層もしくは第5層を検出面としていることから、開作時を上限とする近世に遡る可能性が高い。

(2) Hトレンチ (Fig.11, PL. 8)

造成土が厚いため、調査区南端では3段の段掘りを行った。層序は、第1層：表土・造成土（層厚116～135cm）、第2層：水田耕土（層厚8～20cm）、第3～10層：水田床土（層厚25～58cm）、第11～14層（層厚33cm以上）：粘土・砂による堆積層である。なお、床土以下については原図の一部に層序の記載がないため、調査時の写真を参考に記載した。

Gトレンチの状況を参考にすると、水田床土Iに第3～5層、水田床土IIに第6～10層が相当すると考えられる。水田化以前の堆積層である第11層は現地表下1.8m、標高1.0mで検出した。Gトレンチと比較すると、Fig.5のF地点第5層よりも約0.33m低い。遺構は検出していない。

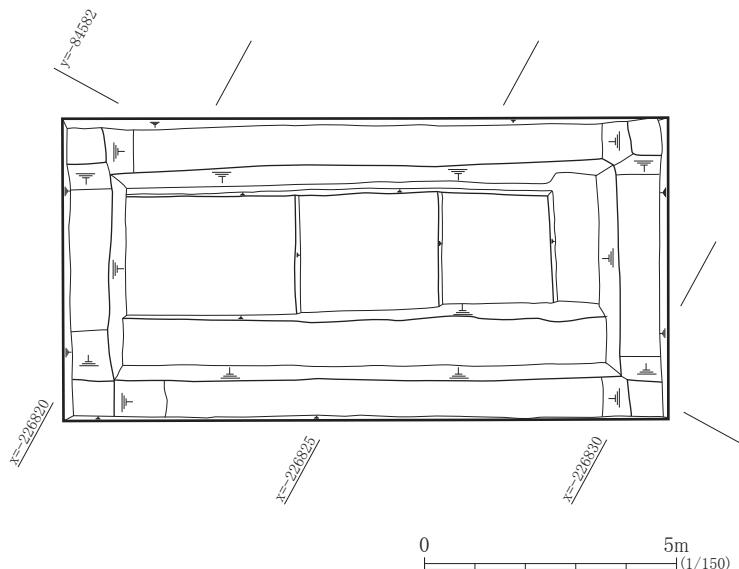


Fig.11 Hトレンチ平面図

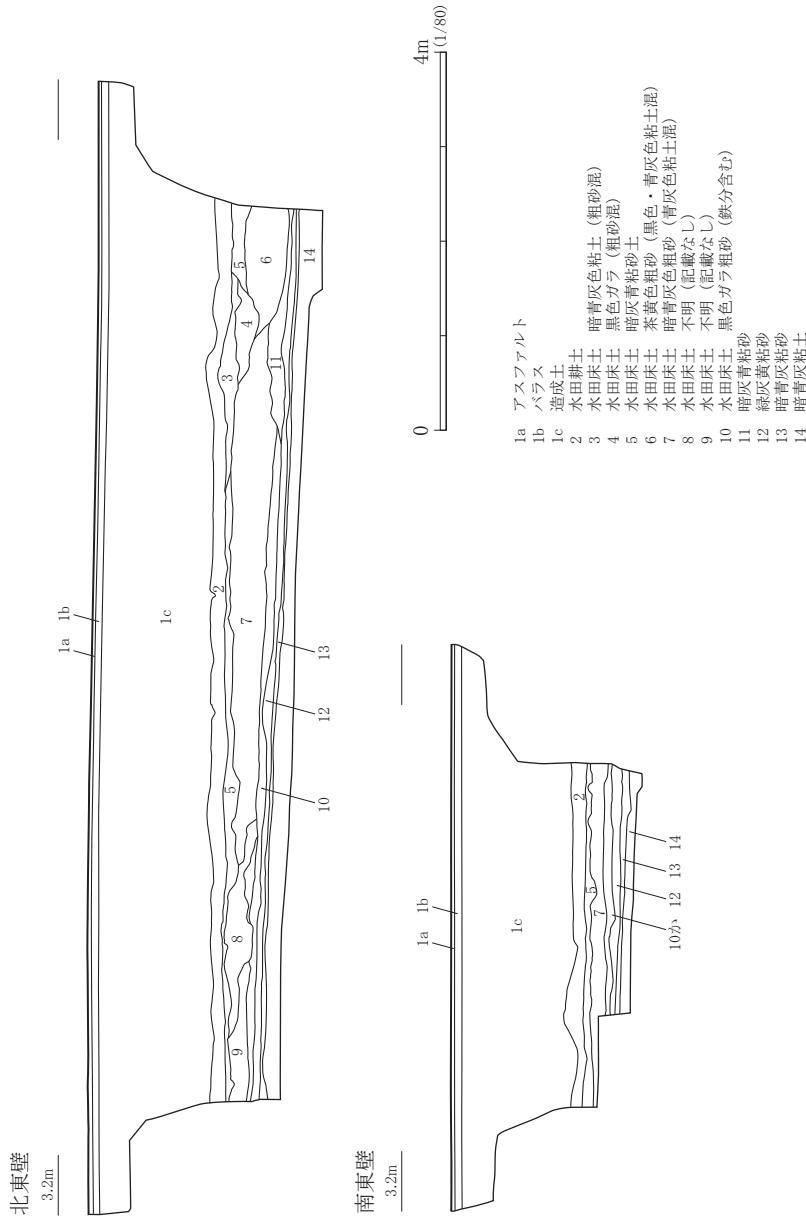


Fig.12 Hトレンチ土層断面図

3 遺物

以下で代表的な遺物を報告するが、近世以降の遺物については一部にとどめた。

(1) 土器 (Fig. 13・14, PL. 9~11)

1~5はGトレンチ用水路・同構築土出土土器。1は佐野焼（土師質土器）甕の口縁部。2は土瓶の注口部で外面に鉄釉を施釉する。3は肥前の広東碗底部。18世紀末~19世紀初頭。4は肥前系の染付小碗。外面に草花文を描く。18世紀後半~19世紀初頭。5は土師質土器のサナ。

6~23はGトレンチ第4層出土土器。6・7は瓦質土器足鍋の口縁~胴部。いずれも外面にはススが付着する。8は瓦質土器足鍋の脚部。9は瓦質土器擂鉢。内面の卸目は6条である。10は土師質土器鉢の口縁~胴部。外面にスタンプ文を施す。11・12は土師質土器焙烙。同一個体の可能性がある口縁~胴部で、口縁部が内傾する。13・14は瓦質土器焙烙。13は口縁~底部。口縁部内面を肥厚させ、外面にススが付着する。14は口縁~胴部で口縁部が直立する。15は瓦質土器の底部。器種は不明。内外面にナデを施し、下地のハケが残る。16は土師質土器の底部。器種は不明。底面に糸切り痕がある。17は土師質土器・焼塩壺の蓋。内面に布目痕がある。18は産地不明の陶器碗。19世紀。形態は端反碗を意識し、木灰もしくは土灰釉と藁灰釉を施釉する。見込には胎土目跡が残る。19は萩焼鉢の口縁~胴部。19世紀。20は産地不明の磁器碗底部。19世紀。21は肥前系染付丸碗の口縁~胴部。外面に草花文を描く。18世紀後半~末。22は肥前系の紅皿。18世紀。23は肥前系の染付皿。型打ち成形で、外面に松葉文、内面に樓閣山水文を描く。19世紀。

24はGトレンチ第3・4層出土。瓦質土器火鉢の把手か。獸面を型成形し、横方向に1箇所穿孔する。

25・26はHトレンチ出土土器。25は第3~10層（水田床土）出土。産地不明の磁器碗胴部。亀甲状を呈し、灰釉を施釉する。18世紀後半以降。26は床面清掃時出土。肥前系染付皿の口縁部。外面に唐草文を描く。18世紀後半。

(2) 石器・石製品 (Fig.15, PL.11)

27・28はGトレンチ第3・4層出土。27は楔形石器。石質は黒色メノウ。28は赤色頁岩製の赤間硯片。29はGトレンチ第2層出土の剥片。石質はメノウ。以上の詳細はTab. 5を参照されたい。他にGトレンチ第3・4層からは赤色砂質頁岩の剥片が出土している(PL.11)。

(3) 銅製品・銭貨 (Fig.15, PL.11~12)

30・31は銅製の煙管。30はGトレンチ第4層出土の雁首。31はGトレンチ第3・4層出土

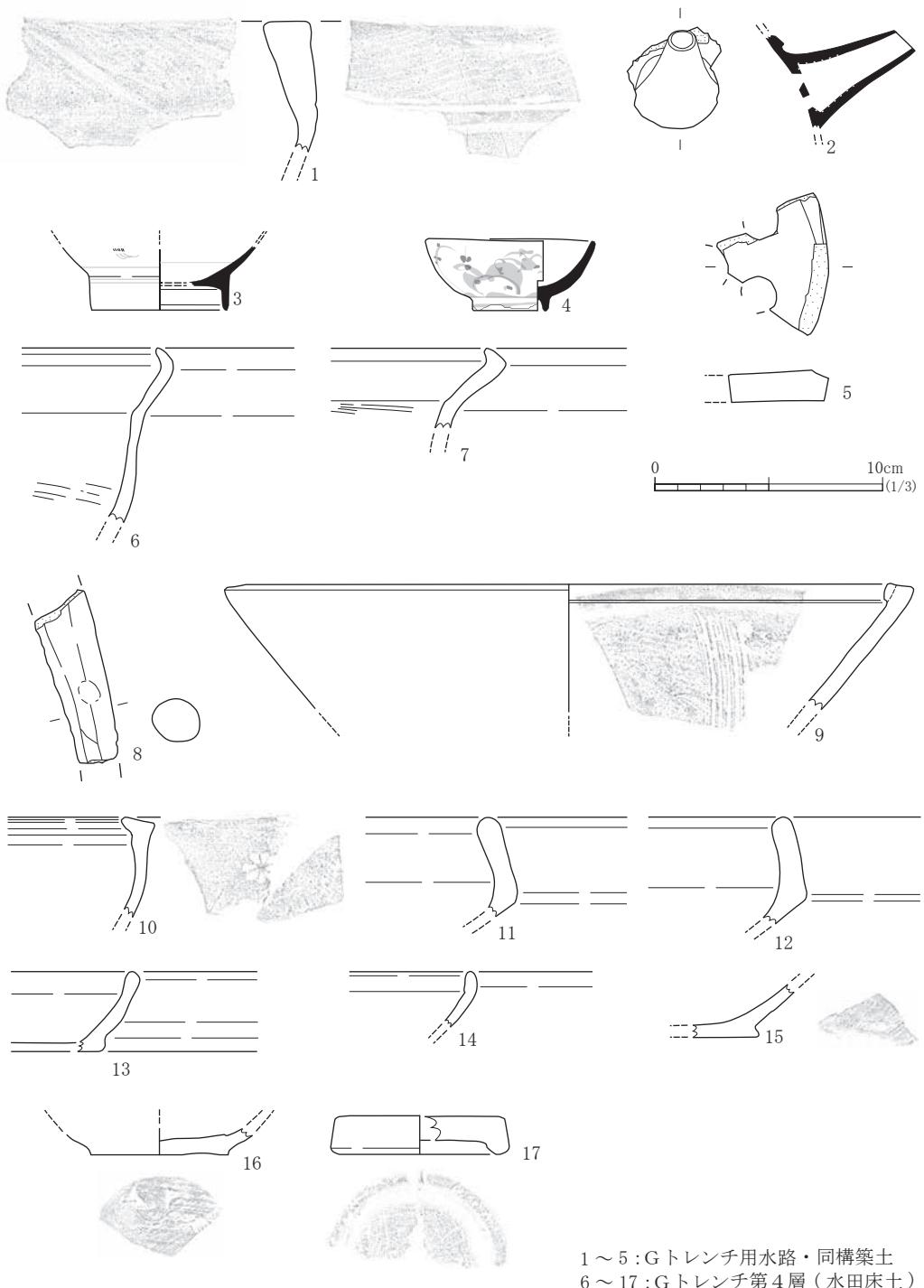


Fig.13 出土遺物実測図①(土器)

遺物

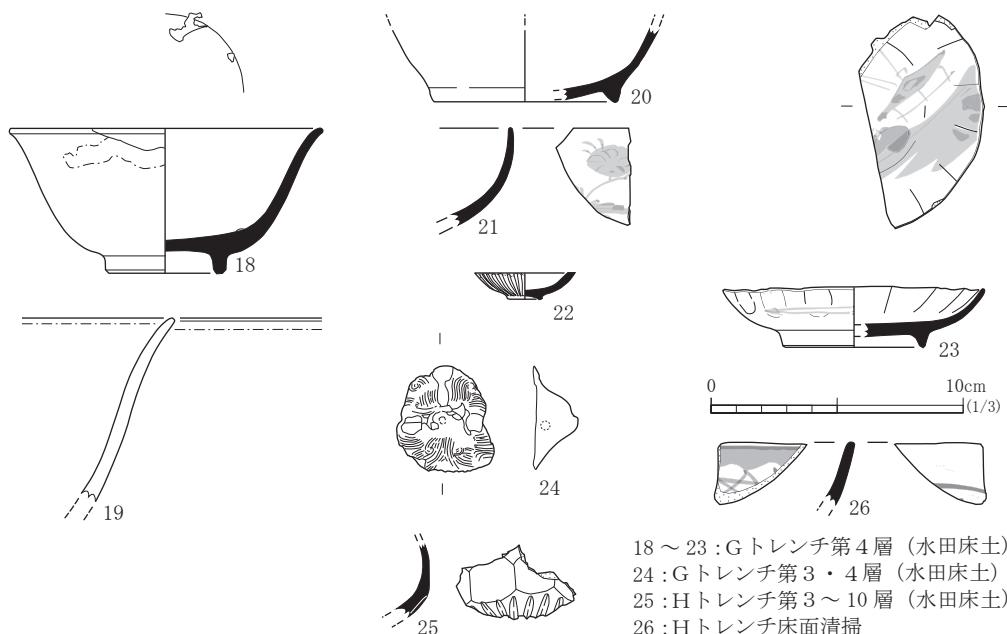


Fig.14 出土遺物実測図②(土器)

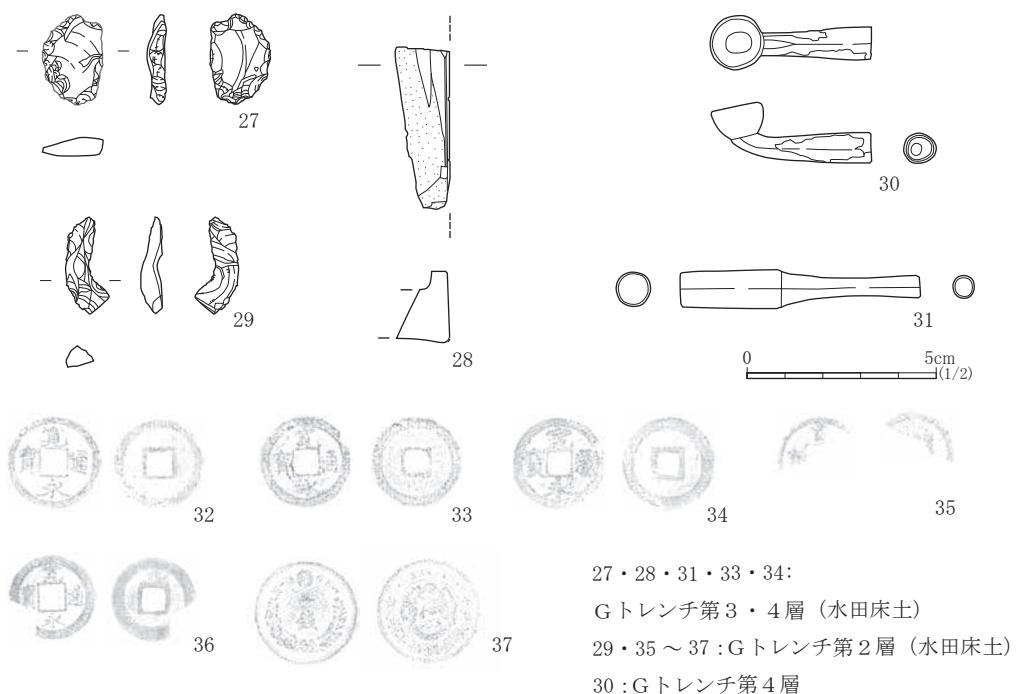


Fig.15 出土遺物実測図③(石器・金属器・錢貨)

の吸口。32～36はGトレーナー第2～4層出土の寛永通宝。欠損が多い35を除くと、34が古寛永で他は新寛永とみられる。37はGトレーナー第2層出土の竜一銭銅貨。以上の詳細はTab. 5を参照されたい。

4 小結

今回調査を行ったG・Hトレーナーでは、水田化以前の堆積層からはほとんど遺物が出土しておらず、全体を通して古代以前の出土遺物は僅少であった。遺構は造成前の水田耕作に伴うものである。以上の状況はGトレーナーの北側に位置する医学部体育館敷地においても確認されている。²⁾ Gトレーナーは医学部構内遺跡では過去最大の調査面積であり、用水路1条・水田暗渠2条・土坑3基を検出した。用水路は木や竹で補強されており、堆積と改修が繰り返されていたが、掘削時期は不明である。また、用水路の両側には通路があり、北側の一部では水田の区画を確認した。用水路の境に水田面の高さが異なることから、用水路は近世の開作時に遡る地割を反映している可能性がある。

水田床土（第3・4層）からは図化していないものを含めて、18世紀後半～19世紀の陶磁器類が多数出土している。真締川の旧河口の耕地化は寛政11（1799）年4月に許可されたが³⁾、その直後から造成が開始されたことを裏付けるものであろう。

平成10年度から開始した宇部市土地区画整理事業に伴う発掘調査は今回の調査で終了となるが、今回の調査では地域開発史に関わる成果を得ることができた。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査」「宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部西側特殊道路）に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVIII』、2021年）
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「宇部（小串構内）医学部体育館新営に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報III』、1985年）
- 3) 小川国治「近世村落の成立と発展」（『宇部市史』通史編上巻、1992年）

出土遺物観察表

Tab.2 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

| 遺物番号 | 出土地区・遺構 | 層位 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 色調 ①外面②内面 | 胎土 | 備考 | |
|------|---------------|---------------|-----------|----------|------------|--------|--------|-------------------|---------------------|--------|-----|
| 1 | Gトレンチ 用水路 | 埋土・ 構築土 | 土師質 土器 | 甕 | 口縁部 | | | ①②灰白色 | 0.5~3mmの砂粒を少 量含む | 佐野焼 | |
| 2 | Gトレンチ 用水路 | H-I断面 第12層 | 陶器 | 土瓶 | 注口部 | | | 素地:暗褐色 釉:灰白色 | | | |
| 3 | Gトレンチ 用水路 | 埋土 | 磁器 | 碗 | 底部 | | (6.0) | 素地:灰白色 釉:透明 | 精良 | 肥前 | |
| 4 | Gトレンチ 用水路 | 埋土 | 磁器 | 碗 | 口縁~ 底部 | 7.4 | 3.2 | 釉:明オリー ブ灰色 | | 肥前系 | |
| 5 | Gトレンチ 用水路 | 埋土 | 土師質 土器 | サナ | | | 1.4 | ①② にぶい橙色 | 0.5~3mmの砂粒を少 量含む | | |
| 6 | Gトレンチ | 第4層 | 瓦質土器 | 足鍋 | 口縁~ 胴部 | | | ①黒色 ②灰色 | 0.5~2mmの砂粒を少 量含む | | |
| 7 | Gトレンチ | 第4層 | 瓦質土器 | 足鍋 | 口縁部 | | | ①黒色 ②灰色 | 0.5~1mmの砂粒を少 量含む | | |
| 8 | Gトレンチ | 第4層 | 瓦質土器 | 足鍋 | 脚部 | | | ①黒褐色 ②黄灰色 | 0.5~3mmの砂粒を少 量含む | | |
| 9 | Gトレンチ | 第4層 | 瓦質土器 | 擂鉢 | 口縁~ 胴部 | (30.2) | | ①灰黄褐色 ②灰色 | 0.5~3mmの砂粒を含 む | | |
| 10 | Gトレンチ | 第4層 | 土師質 土器 | 鉢 | 口縁~ 胴部 | | | ①浅黄橙色 ②にぶい黄橙色 | 0.5~2mmの砂粒を含 む | | |
| 11 | Gトレンチ | 第4層 | 土師質 土器 | 焰焰 | 口縁~ 胴部 | | | ①褐色 ②にぶい黄橙色 | 0.5~3mmの砂粒を少 量含む | 12と同一か | |
| 12 | Gトレンチ | 第4層 | 土師質 土器 | 焰焰 | 口縁~ 胴部 | | | ①にぶい黄橙色 ②にぶい橙色 | 0.5~3mmの砂粒を少 量含む | 11と同一か | |
| 13 | Gトレンチ | 第4層 | 瓦質土器 | 焰焰 | 口縁~ 底部 | | | ①灰白色 ②浅黄色 | 0.5~2mmの砂粒を含 む | | |
| 14 | Gトレンチ | 第4層 | 瓦質土器 | 焰焰 | 口縁~ 胴部 | | | ①浅黄色 ②灰白色 | 0.5~2mmの砂粒を含 む | | |
| 15 | Gトレンチ | 第4層 | 瓦質土器 | | 底部 | | | ①②灰白色 | 0.5~2mmの砂粒を少 量含む | | |
| 16 | Gトレンチ | 第4層 | 土師質 土器 | | 底部 | | (6.1) | ①② にぶい黄橙色 | 0.5~1mmの砂粒を含 む | | |
| 17 | Gトレンチ | 第4層 | 土師質 土器 | 焼塙壺 蓋 | 天井~ 口縁部 | | | ①② にぶい橙色 | 0.5~4mmの砂粒を少 量含む | | |
| 18 | Gトレンチ | 第4層 | 陶器 | 碗 | 口縁~ 底部 | (12.5) | (4.5) | 5.8 | 素地:オリーブ色 釉:浅黄色 | 精良 | |
| 19 | Gトレンチ | 第4層 | 陶器 | 鉢 | 口縁~ 胴部 | | | 素地:オリーブ黄色 釉:灰色 | 精良 | 萩焼 | |
| 20 | Gトレンチ | 第4層 | 磁器 | 碗 | 胴~ 底部 | | (7.2) | 素地:灰白色 釉:灰黄色 | 精良 | | |
| 21 | Gトレンチ | 第4層 | 磁器 | 碗 | 口縁~ 胴部 | | | 素地:灰白色 釉:透明 | 精良 | 肥前系 | |
| 22 | Gトレンチ | 第4層 | 磁器 | 紅皿 | 口縁~ 底部 | 4.0 | 1.2 | 1.1 | 素地:灰白色 釉:灰白色 | 精良 | 肥前系 |
| 23 | Gトレンチ | 第4層 | 磁器 | 皿 | 口縁~ 底部 | (10.4) | (5.7) | 2.45 | 素地:灰白色 釉:透明 | 精良 | 肥前系 |
| 24 | Gトレンチ | 第3・4層 | 瓦質土器 | 火鉢 | 把手か | | | ①灰白色 ②浅黄色 | 精良 | | |
| 25 | Hトレンチ | 第3~10層 | 磁器 | 碗 | 胴部 | | | 生地・釉: 灰白色 | 精良 | | |
| 26 | Hトレンチ 床面清掃 | | 磁器 | 皿 | 口縁部 | | | 素地:灰白色 釉:透明 | 精良 | 肥前系 | |

Tab.3 出土遺物観察表(石器)

| 遺物番号 | 出土地区・遺構 | 層位 | 器種 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 備考 |
|------|---------|-------|------|---------|---------|---------|-------|-------|----|
| 27 | Gトレンチ | 第3・4層 | 楔形石器 | 2.4 | 1.63 | 0.5 | 2.76 | 黒色メノウ | |
| 28 | Gトレンチ | 第3・4層 | 硯 | 4.0 | 1.48 | 1.9 | 13.29 | 赤色頁岩 | |
| 29 | Gトレンチ | 第2層 | 剥片 | 2.58 | 0.97 | 0.54 | 1.13 | メノウ | |

宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査

Tab.4 出土遺物観察表(金属器・銭貨)

| 遺物番号 | 出土地区・遺構 | 層位 | 器種 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|------|---------|-------|--------------|---------|---------|---------|-------|---------------------|
| 30 | Gトレーナー | 第4層 | 銅製 煙管 | 4.3 | | | 4.89 | 火皿径1.4cm 小口径0.8cm |
| 31 | Gトレーナー | 第3・4層 | 銅製 煙管 | 6.4 | | | 7.57 | 先端部径1.0cm、吸口部径0.6cm |
| 32 | Gトレーナー | 第4層 | 銅錢 「寛永通宝」 | | 直径2.43 | 孔辺0.67 | 2.65 | |
| 33 | Gトレーナー | 第3・4層 | 銅錢 「寛永通宝」 | | 直径2.43 | 孔辺0.62 | 2.55 | |
| 34 | Gトレーナー | 第3・4層 | 銅錢 「寛永通宝」 | | 直径2.46 | 孔辺0.68 | 2.7 | |
| 35 | Gトレーナー | 第2層 | 銅錢 「寛永通宝」 | | | | 0.76 | |
| 36 | Gトレーナー | 第2層 | 銅錢 「寛永通宝」 | | 直径2.46 | 孔辺0.61 | 1.82 | |
| 37 | Gトレーナー | 第2層 | 童一銭銅貨 | | 直径2.8 | | 6.68 | 摩滅が著しい |

第3章 教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査

第1節 試掘調査

1 調査の経過

教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事が計画された。工事は、正門から附属小学校運動場を経由して校舎に至るルートと校舎周辺で給水管の新設を行うものである。上記について埋蔵文化財資料館運営委員会が審議した結果、試掘調査が必要との判断が下された。上記を受け、埋蔵文化財資料館が平成11年11月15～12月10日に試掘調査を実施した。調査はAトレンチ（ 5.7m^2 ）、Bトレンチ（ 5.7m^2 ）、Cトレンチ（ 8.2m^2 ）、Dトレンチ（ 6.5m^2 ）、Eトレンチ（ 6.1m^2 ）、Fトレンチ（ 4.6m^2 ）、Gトレンチ（ 11.9m^2 ）を設定して行った。総調査面積は 48.7m^2 である。Fig. 16～18では試掘調査区と立会調査区を掲載した。

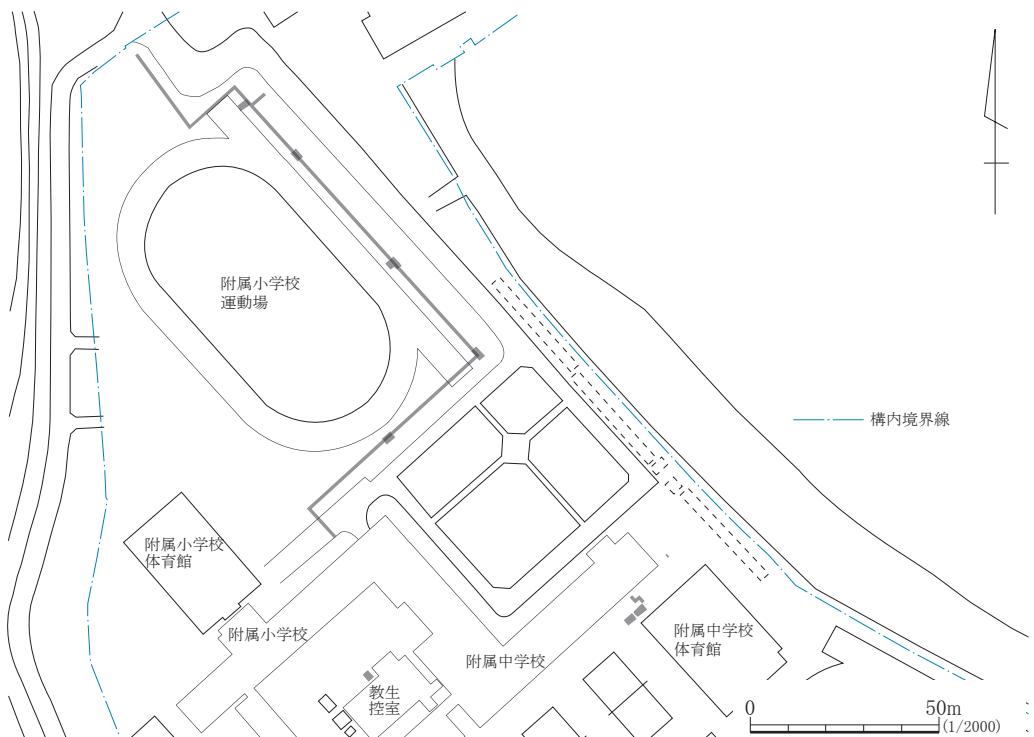
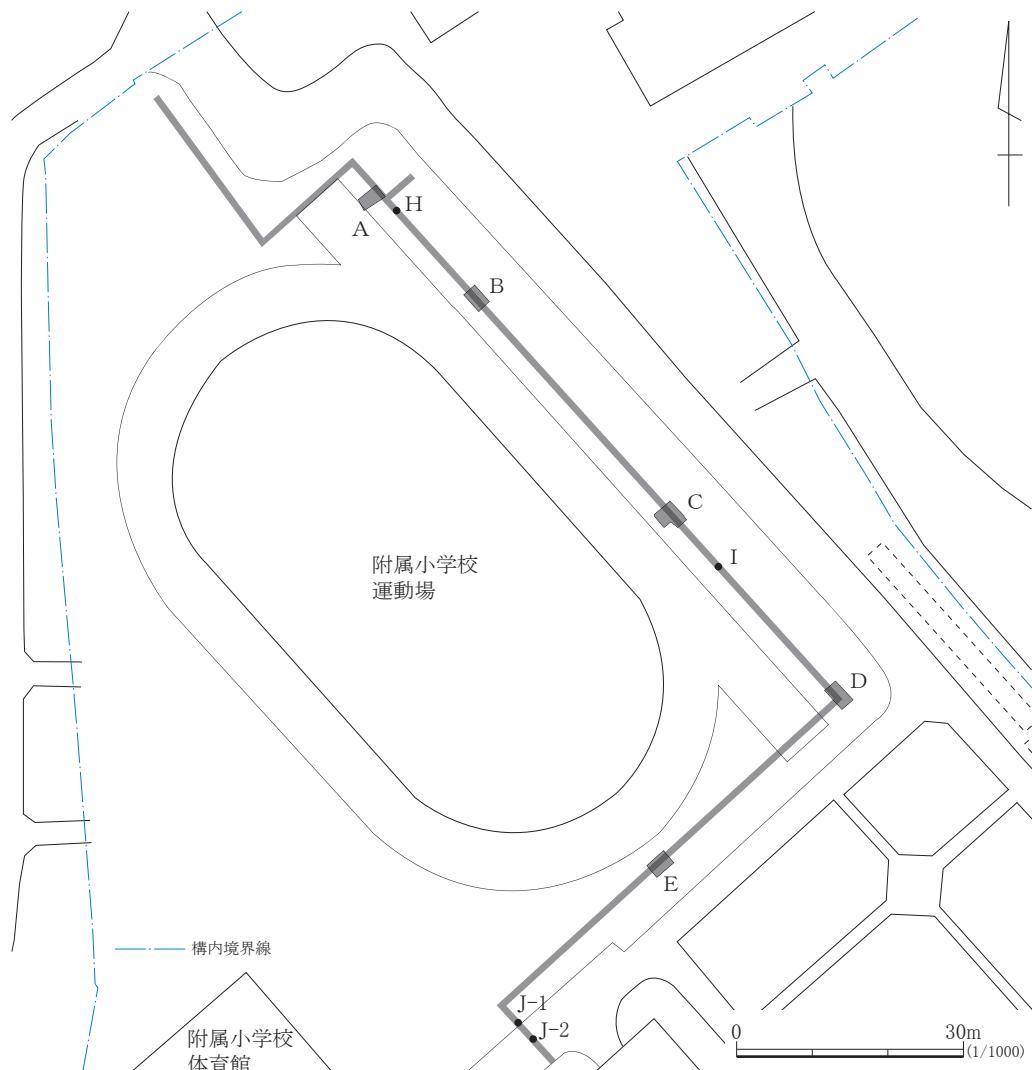


Fig.16 調査区位置図



2 層序・遺構

(1) Aトレンチ (Fig.17・19, PL.14)

以下の各トレンチの平面図で示した方位は磁北を示す。また、土層断面図に記載にある層序については、埋土に含まれる礫など、記載の一部を省略する。A トレンチの層序は、第1～3層：表土・造成土（層厚50～70cm）、第4層：近代遺構面形成層（明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂（層厚5～16cm））、第5層：近代遺構面形成層か（褐色（10YR4/4）粗砂（層厚9～25cm））、第6～11層（明黄褐色（10YR6/6・7/6・2.5Y7/6）礫・にぶい黄褐色（10YR5/3）礫・黄褐

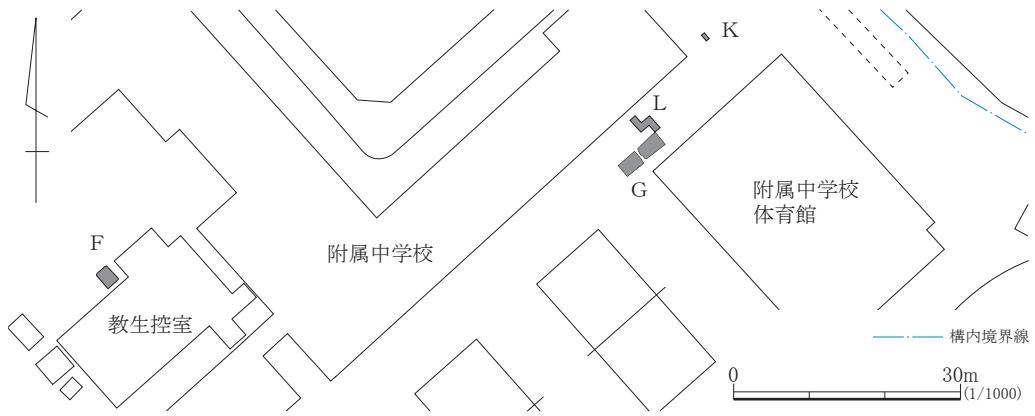


Fig.18 調査区詳細図②

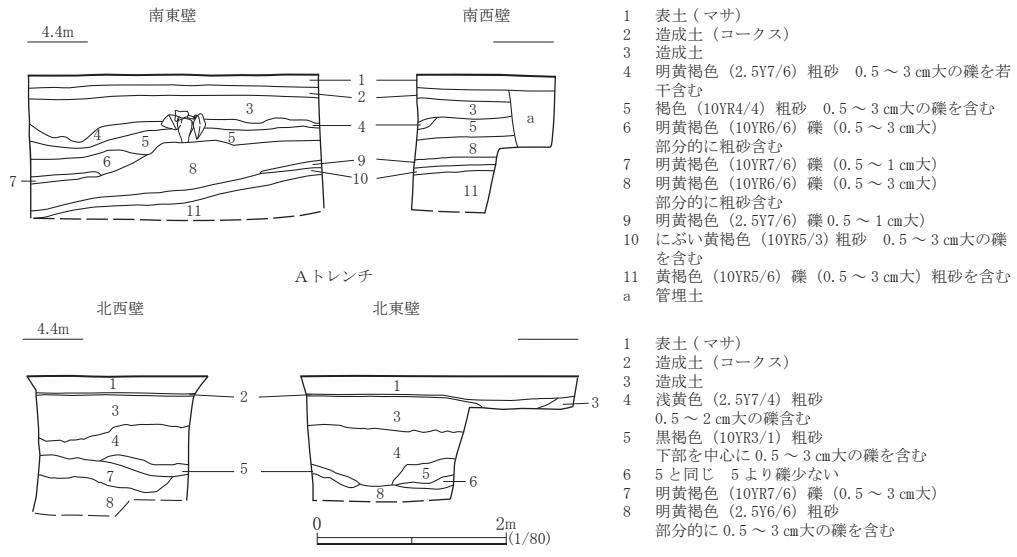


Fig.19 A・Bトレンチ土層断面図

色 (10YR5/6) 矶 (層厚84cm以上) である。南東壁第4層上面で近代の石積を確認した。また、第4層から土器片が少量出土した。

(2) Bトレンチ (Fig.17・19, PL.15)

層序は、第1～3層：表土・造成土（層厚52～69cm）、第4～8層：古墳時代以前の堆積層か(浅黄色 (2.5Y7/4) 粗砂・黒褐色 (10YR3/1) 粗砂・明黄褐色 (10YR7/6) 矶・明黄褐色 (2.5Y6/6) 粗砂 層厚94cm以上) である。遺構は検出していない。第4層・第5層から土器片が出土した。

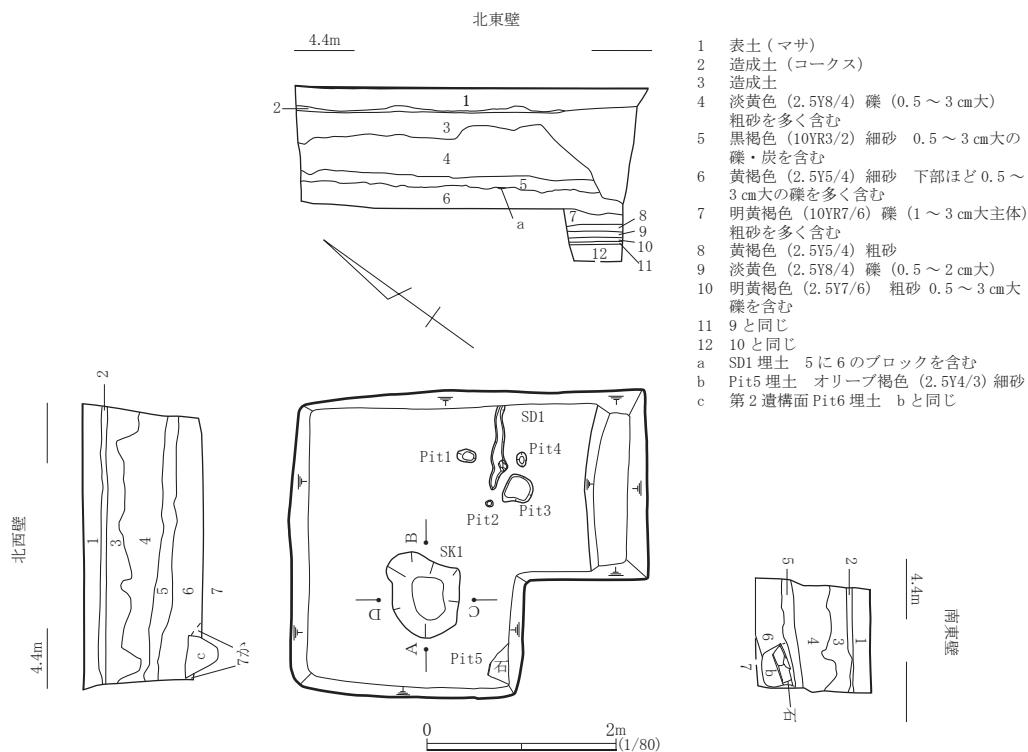


Fig.20 Cトレーニング第1遺構面平面図・土層断面図

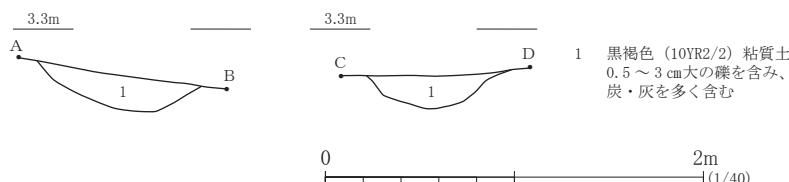


Fig.21 Cトレーニング SK1 断面図

(3) Cトレーニング (Fig.17・20～22, PL.16～21)

層序は下記の通りである。第1～3層：表土・造成土（層厚35～122cm）、第4層：近世～近代の堆積層（淡黄色（2.5Y8/4）礫 層厚9～57cm）、第5層：近世の遺物包含層（黒褐色（10YR3/2）細砂 層厚7～20cm）、第6層：第1遺構面（近世）形成層・古墳時代の遺物包含層（黄褐色（2.5Y5/4）細砂 層厚12～41cm）、第7層：第2遺構面（古墳時代）形成層（明黄褐色（10YR7/6）礫 層厚10～18cm）、第8～12層：古墳時代以前の堆積層（黄褐色（2.5Y5/4）粗砂・淡黄色（2.5Y8/4）礫・明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂 層厚40cm以上）。第4層から陶磁器片・鉄製品等、第5・6層から土師器、須恵器、韓式系土器、陶磁器片、鉄製品

が出土した。

第5・6層は厳密に分けて掘削を行うことが困難であった。また、第6層上面が近世の遺構面であるため若干の遺物の混在がある。第6層上面の第1遺構面で近世の溝1条、土坑1基、ピット5基を検出した。また、多数の遺物が出土し、遺物は調査区外にも分布することが確実視されたため、調査区の西側を拡張した(PL.16・PL.17(1))。第7層上面の第2遺構面では古墳時代のピット6基を検出した。

第1遺構面 SD1 (Fig.20, PL.16 (2)・PL.17 (1) (2)・PL.18 (2))

最大幅16cm、長さ90cm以上、深さは1.8～5.5cmである。埋土は第5層に第6層のブロックを含む。埋土から韓式系土器(竈形土器 Fig.29-37)と同一個体とみられる破片が1点出土した。

第1遺構面 SK1 (Fig.20・21, PL.16(1) (2)・PL.17 (1) (2)・PL.18(1) (2) (4))

不整形で平面形89cm×72cm、深さは17cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘質土に0.5～3cm大の礫・炭・灰を多く含んでいた。埋土から礫と磁器碗(Fig.27-1～2)、磁器皿(Fig.27-3)のほか、土師器竈形土器片、陶器片、磁器片、瓦片、鉄製品等が出土した。

第1遺構面 Pit1～5 (Fig.20, PL.16 (2)・PL.17 (1) (2)・PL.18 (2) (4))

Pit1は平面形14×20cm、深さ19cm、Pit2は平面形8×9cm、深さ2cm、Pit3は平面形27cm×80cm、深さ4cm、Pit4は平面形11×17cm、深さ約5cmである。Pit5は断面図で確認した。断面幅42cm、深さ33cmで、上面に根石とみられる石が据えられていた。埋土はPit1～4がSD1と同じで、Pit5がオリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂であった。このうちPit1から鉄釘(Fig.33-70)のほか土師器片が出土し、Pit2から摩滅が著しい須恵器甕口縁部片、土師質土器片が出土した。

第2遺構面 Pit1～6 (Fig.22, PL.19 (1)～(4)・PL.20 (1))

Pit1～6のうち、Pit6は第6層下部に礫が多く含まれていた関係で遺構面を明確に判断できなかつたが、第7層から掘り込まれたと考えられる。

Pit1は平面形24×28cm、深さ7cm、Pit2は平面形17×18cm、深さ5cm、Pit3は直径35cm、深さ10cm、Pit4は平面形28cm×34cm、深さ8cm、Pit5は平面形44×46cm、深さ16cm、Pit6は平面形25cm以上×42cm、深さ33cmである。埋土はPit1・2が、黒褐色(10YR3/2)細砂(0.5～3cm大礫・炭を少量含む)であった。以下、Pit3が褐灰色(10YR6/1)細砂(0.5～3cm大礫・炭を少量含む)、Pit4が黒褐色(10YR3/1)細砂(0.5～3cm大礫を含む)、Pit5が黄褐色(10YR4/3)細砂(0.5～3cm大礫・炭を少量含む)、

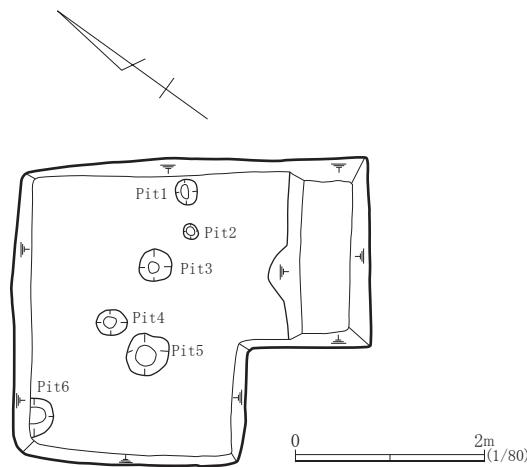


Fig.22 Cトレーンチ第2遺構面平面図

Pit6がオリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂であった。Pit1・2・5・6から土師器片とみられる土器片が出土した。

(4) Dトレーンチ (Fig.23, PL.22 (1))

層序は下記の通りである。第1～3層：表土・造成土（層厚52～96cm）、第4～8層：近世～近代の堆積層か（明黄褐色(2.5Y7/6)粗砂・浅黄色(2.5Y7/3)礫・オリーブ褐色(2.5Y4/4)礫・明黄褐色(2.5Y7/6)細砂・黒褐色(10YR3/1)礫（0.5～2cm大）層厚27～37cm）、第9～17層：古墳時代以前の堆積層（明黄褐色(2.5Y6/6)粗砂・オリーブ褐色(2.5Y4/4)礫・灰黄色(2.5Y6/2)粗砂・黄褐色(2.5Y5/3)粗砂・黄色(2.5Y8/6)粗砂 層厚73cm以上）。遺構は検出していない。第4層から土器片、磁器片、第6層から磁器片、13～16層から土器片が出土した。また、第6～16層掘削時に土器片が出土した。

(5) Eトレーンチ (Fig.23, PL.22 (2))

層序は下記の通りである。第1～3層：表土・造成土・搅乱（層厚56～168cm）、第4～12層：古墳時代以前の堆積層か（明黄褐色(2.5Y6/6)粗砂・黄褐色(2.5Y5/6)礫・灰黄色(2.5Y7/2)礫・灰黄色(2.5Y7/2)礫・淡黄色(2.5Y8/4)細砂・浅黄色(5Y7/4)礫・明黄褐色(10YR6/6)礫・にぶい黄色(2.5Y6/4)礫・灰白色(10YR8/1)粗砂 層厚126cm以上）。遺構は検出していない。第11層から土器片が出土した。

(6) Fトレーンチ (Fig.24, PL.23 (1))

層序は下記の通りである。第1層：表土・造成土・管理土（層厚51～72cm）、第2～5層：

層序・遺構

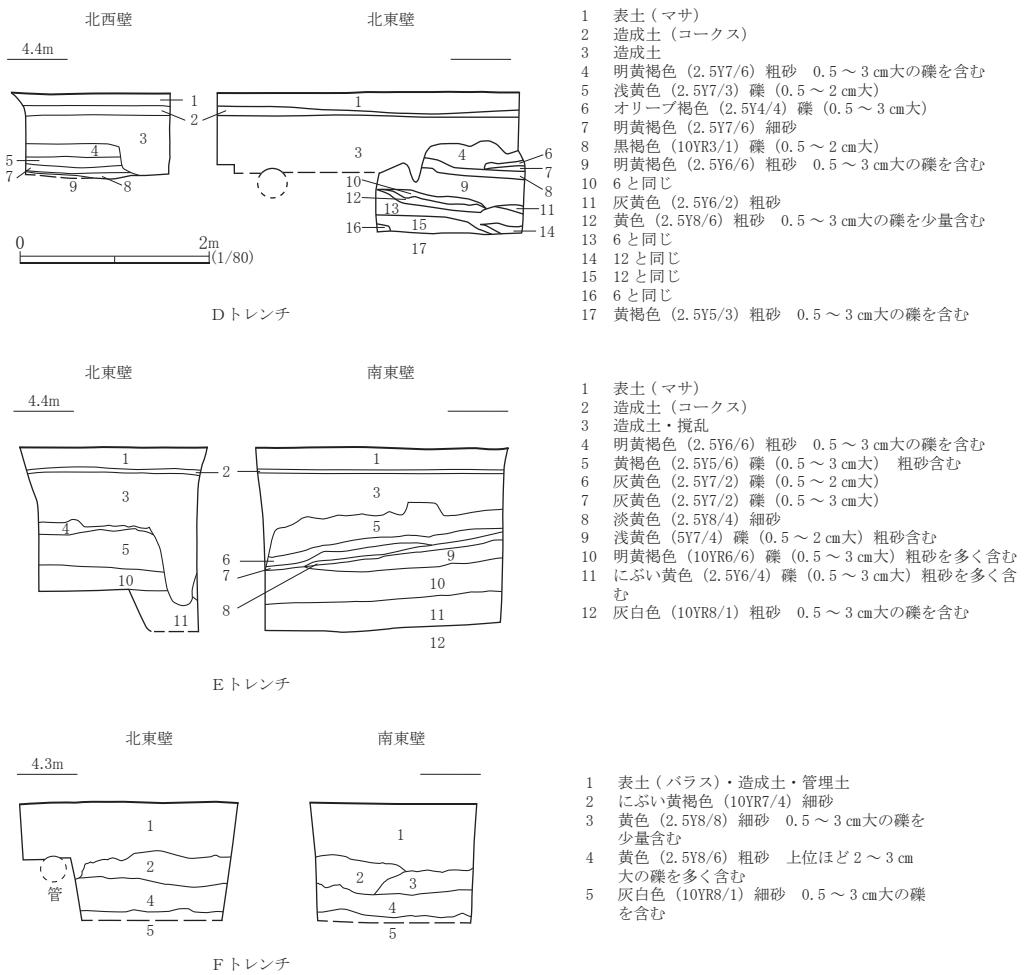


Fig.23 D・E・Fトレンチ土層断面図

古墳時代以前の堆積層か(にぶい黄褐色 (10YR7/4) 細砂・黄色 (2.5Y8/8) 細砂・黄色 (2.5Y8/6) 粗砂・灰白色 (10YR8/1) 細砂 層厚75cm以上)。遺構は検出していない。第1層から磁器片、土師器片、土器片が出土した。

(7) Gトレンチ (Fig.24, PL.23 (2)・PL.24 (1)・(2)・PL.25 (1)～(4))

各種配管により掘削が困難であったことから北東区と南西区に分割して掘削を行った。

層序は以下の通りである。第1～2層：表土・造成土・管理土（層厚52～92cm）、第3層：近世～近代の堆積層（黄褐色 (2.5Y5/6) 細砂 層厚 2～18cm）、第4層：古墳時代～中世の遺物包含層（オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粗砂 層厚22cm）、第5層：中世の遺構面形成層（暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粗砂 層厚 2～39cm）、第6層：中世の遺構面形成層（黄褐

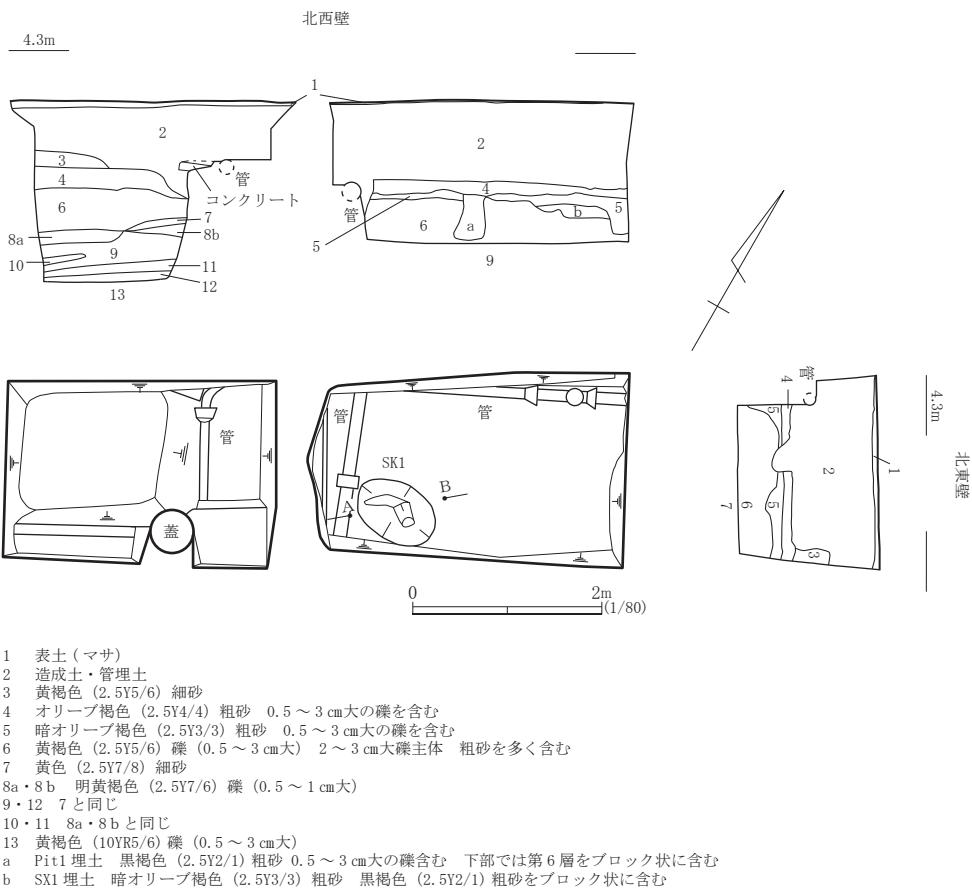


Fig.24 Gトレーニチ平面図・土層断面図

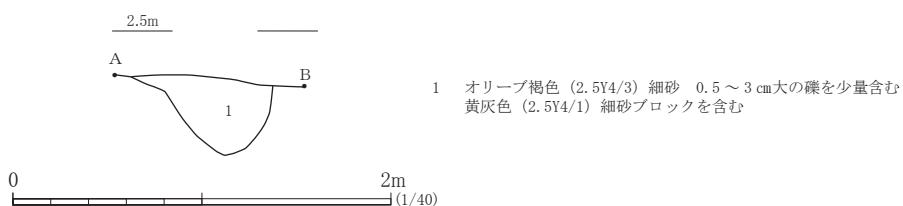


Fig.25 Gトレーニチ北区 SK1 断面図

色 (2.5Y5/6) 磨 (層厚 8 ~ 51cm)、第 7 ~ 8 層: 古墳時代～中世の堆積層 (黄色 (2.5Y7/8) 細砂・明黄褐色 (2.5Y7/6) 磨 (層厚 2 ~ 20cm)、第 9 ~ 10 層: 古墳時代の遺構面形成層 (黄色 (2.5Y7/8) 細砂・明黄褐色 (2.5Y7/6) 磨 層厚 24 ~ 33cm)。第 11 ~ 13 層: 古墳時代以前の堆積層 (明黄褐色 (2.5Y7/6) 磨・黄色 (2.5Y7/8) 細砂・黄褐色 (10YR5/6) 磨 層厚 20cm 以上)。

北東区の北西壁では第5層上面でPit1、第6層上面でSX1を検出し、北東区では第9層上面でSK1を検出した。また、第3層から陶磁器片など近世～近代の遺物が出土し、第4層から縄文土器片、古墳時代・中世の土師器片が出土した。Pit1から遺物は出土していないが、直上に堆積した第4層の遺物と遺構面形成層から中世と推測する。SX1・SK1は出土遺物と遺構面形成層から古墳時代と考えられる。第11～12層は古墳時代以前の堆積層で、第11層から縄文土器片が出土した。

Pit1・(Fig.26, PL.24 (1))

上面幅24cm、深さ48cm、埋土は黒褐色(2.5Y2/1)粗砂で、0.5～3cm大の礫を含み、下部では第6層をブロック状に含む。出土遺物はない。

SX1 (Fig.26, PL.24 (1)・PL.25 (2) (3) (4))

上面幅66cm、深さ14cm、埋土は暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗砂で黒褐色(2.5Y2/1)粗砂をブロック状に含む。出土遺物はない。

SK1 (Fig.25, PL.25 (2) (3) (4))

平面形は不整形で62cm×90cm、深さ41cmである。埋土はオリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂に0.5～3cm大の礫を少量含むほか、黄灰色(2.5Y4/1)細砂ブロックを含む。土師器の底部(器種不明)小片1点が出土した。

3 遺物

以下で、Cトレレンチを中心に代表的な遺物を報告する。なお、遺構出土を除く近世以後の遺物については一部にとどめた。

(1) 土器 (Fig.26～32, PL.26～32)

Cトレレンチ第1遺構面 SK1 出土土器 (Fig.26-1～3, PL.26)

1は肥前系染付碗の胴～底部。高台外面に1条の圈線を描く。また、見込に蛇の目状の釉剥ぎを行う。18世紀後半。2は肥前・波佐見の陶胎染付碗。外面に唐草文を描く。18世紀前半。3は肥前系の磁器皿底部。見込に蛇の目状の釉剥ぎを行う。18世紀後半。

Cトレレンチ第6層出土土器 (Fig.26-4～Fig.32-58, PL.26～31)

第5層出土土器と接合した土器(Fig.28-35・Fig.29-37)も合わせて報告する。4～9は土師器壺。4・5は同一個体と考えられる小型丸底壺。5は胴部外面にはミガキを施す。判然としないため図示していないが、部分的に丹塗が僅かに残存する。また、焼成後に内面から1箇所穿孔を行っている。内面はナデを施す。6は小型丸底壺の口縁部。内外

面にヨコナデ・丹塗を施す。7は小型丸底壺の頸～底部。頸部外面にはヨコナデ、胴部外面にはタテハケ後にナデ・丹塗を施す。内面にナデを施し、上端付近にも部分的に丹塗が残存する。8は口縁部が直立する長胴の小型壺。外面と胴部内面下半～内底面にタテミガキ、口縁部～胴部内面内面上半にタテ・斜方向のハケを施す。9は口縁部。口唇部をヨコナデによりつまみ上げ、内外面にヨコミガキを施す。

10～20は土師器甕の口縁部と口縁～胴部。このうち、10・11・13・14・16の内面には口縁部と胴部の境界に明瞭な稜がある。10は口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にはケズリ後ナデを施す。11は口縁部内外面にヨコナデ、胴部外面にハケ、同内面に斜方向のケズリを施す。12は口縁部内面にヨコナデを施す。13は口縁内外面に右上がりのハケ、胴部内面にナデを施す。14は口縁部外面上半、同内面にヨコナデ、口縁部下半にタテハケ、胴部内面にケズリ後ナデを施す。15は口縁部外面にタテハケ後、ヘラ描による文様、内面にヨコナデを施す。16は胴部外面に右上がりハケ後ナデ、同内面に横ケズリ後ナデを施す。17は外面の調整不明。口縁部内面にヨコナデ、胴部内面に右上がりのケズリを施す。18は口縁部を強く折り曲げる。口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にヨコケズリを施す。19も口縁部を強く折り曲げ、内外面にヨコナデを施す。甕としたが、その形状から把手付鍋（ハガマ）である可能性がある。20は胴部にタテハケ後、上半はナデを施す。内面は摩滅する。

21～23は土師器坏。いずれも口縁部は内湾ぎみに立ち上がり、内外面にヨコミガキを施す。

24～27は土師器竈形土器。24は掛口～胴部。掛口は直立する。外面にタテハケ、内面にケズリを施す。庇がないことから背面部と考えられる。25は掛口部で、内外面に粗いヨコナデを施す。土師器に含めたが、色調は外面が橙色、内面が明赤褐色で37に色調が近似することから韓式系軟質土器である可能性がある。26は底部・炊口部。付け庇で先端を欠損する。底部は接合部で剥離しており、2枚の粘土板を貼り合わせている。内外面にナデを施す。27は底部。付け庇で基部が残存する。その形状から正面から見て左側の庇と考えられる。接合面で剥離しており、2枚の粘土板を貼り合わせている。ヨコハケ・ナデを施す。

28～44は韓式系軟質土器とその可能性が高いと考えられる土器である。内外面の色調は橙色もしくは赤褐色系が多い。28は甕。口縁部内外面にヨコナデ、胴部外面に格子目タタキ、同内面にタテナデを施す。29～34は甕もしくは鉢の胴部片。いずれも外面に格

遺物

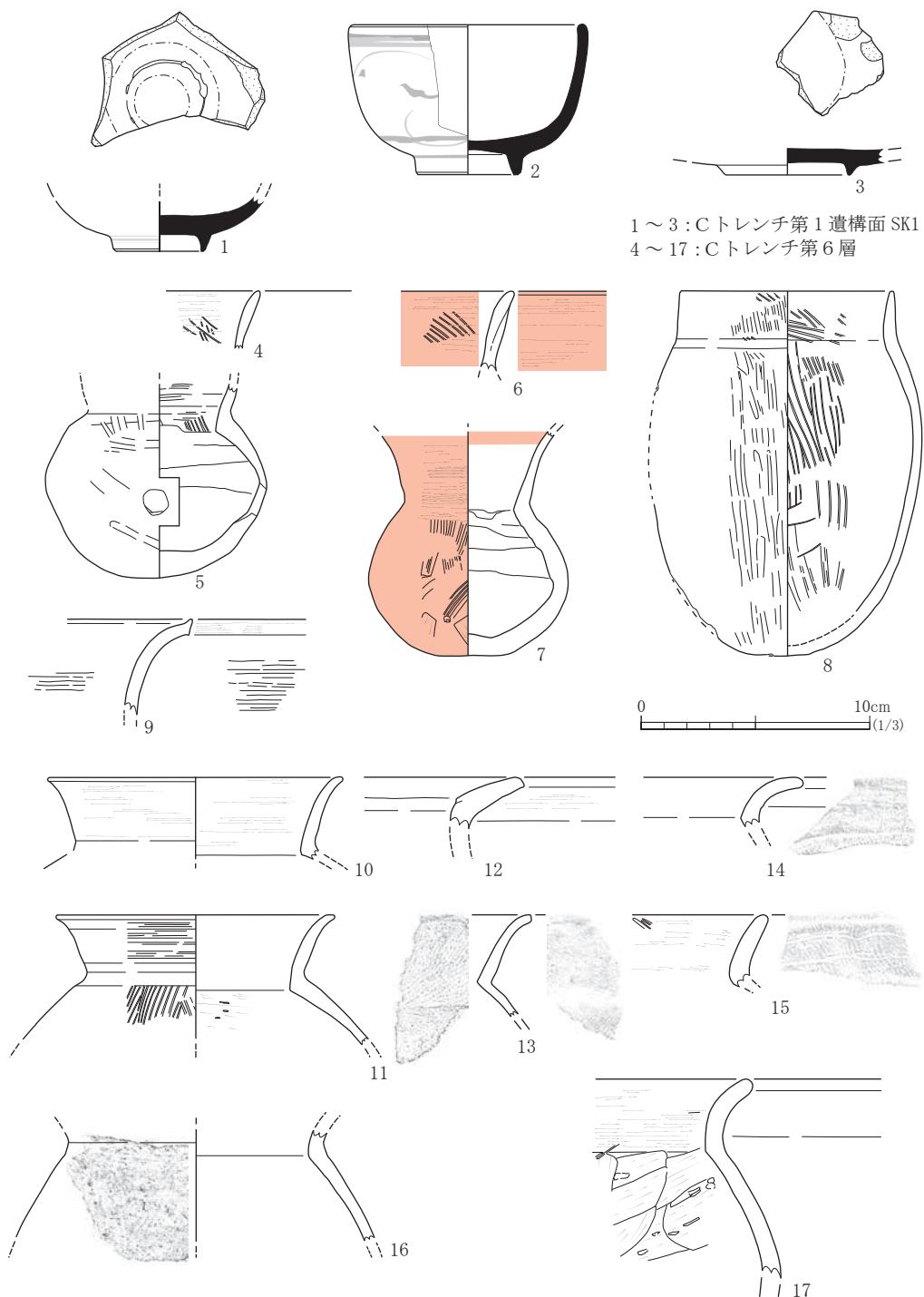


Fig.26 出土遺物実測図①(土器)

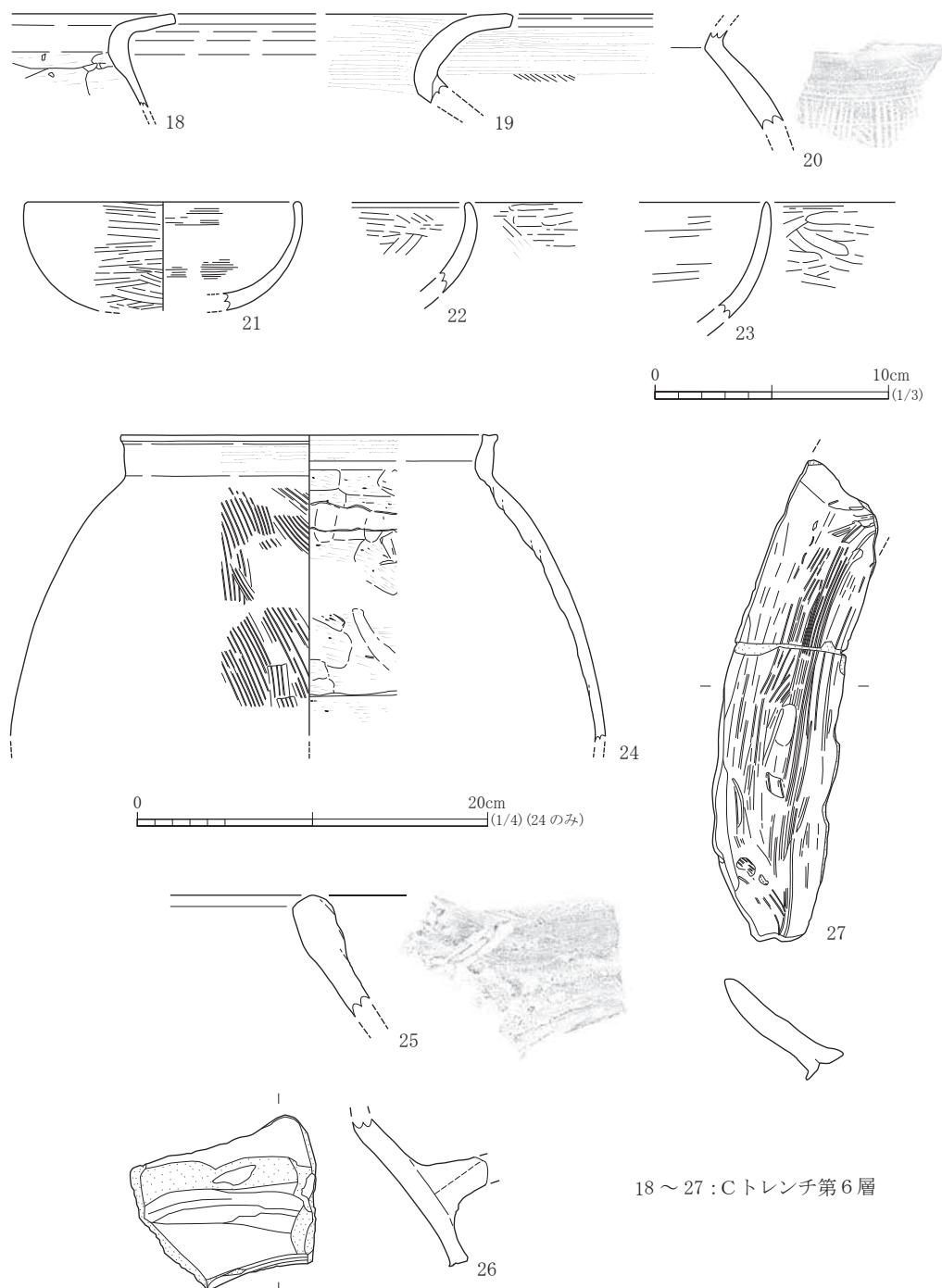


Fig.27 出土遺物実測図②(土器)

18～27 : C トレンチ第6層

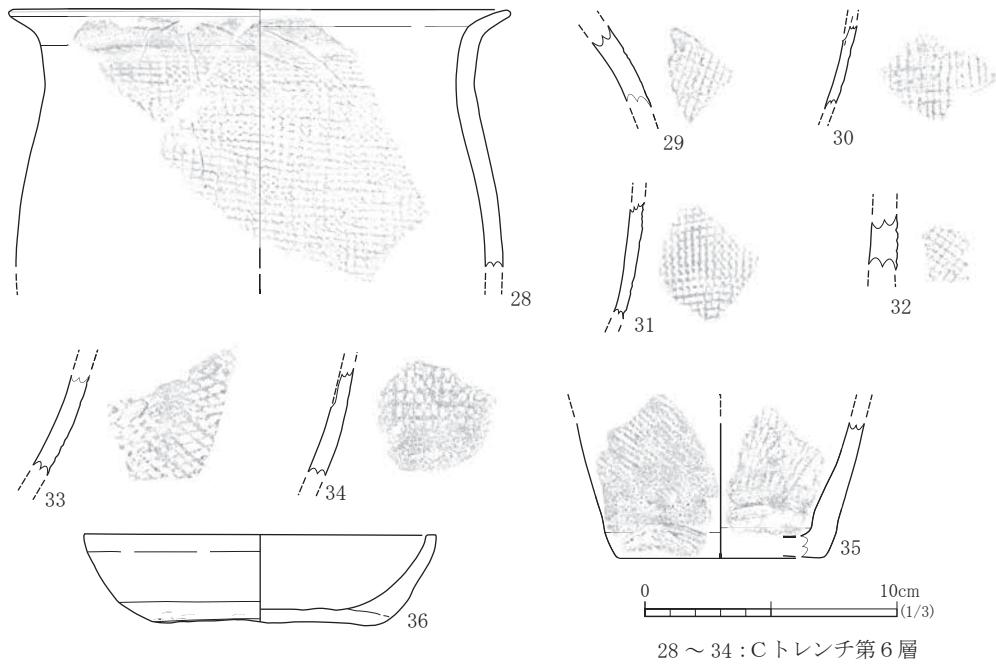
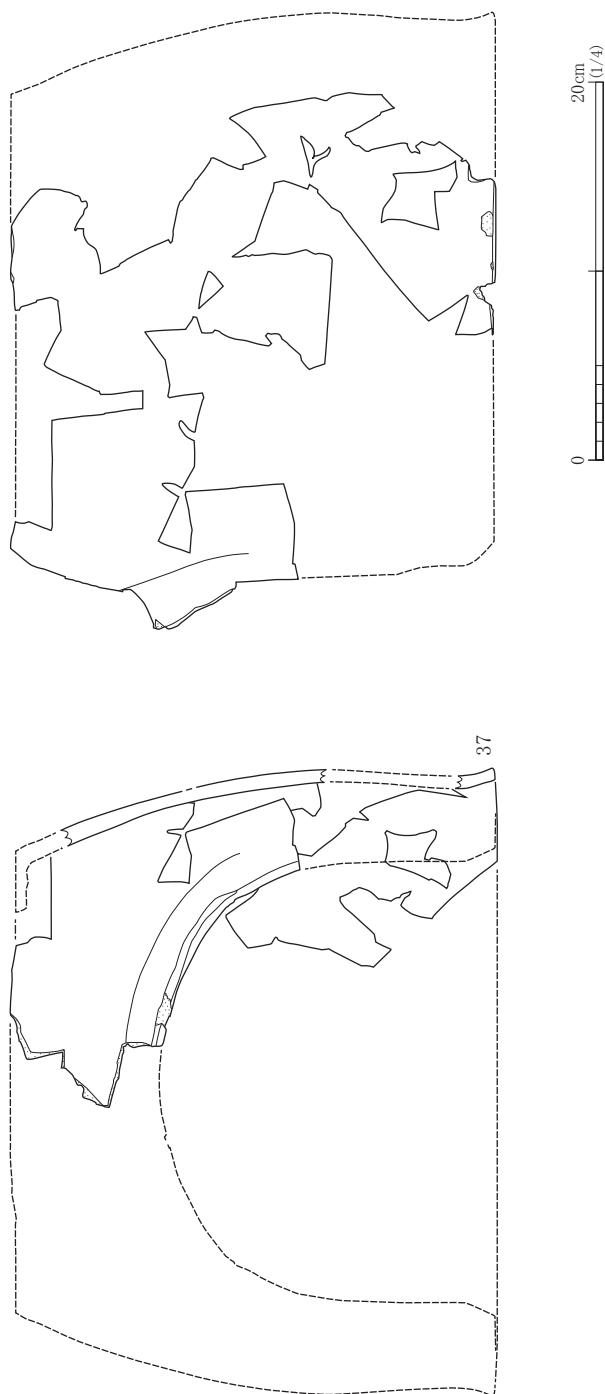


Fig.28 出土遺物実測図③(土器)

子目タタキ、内面にナデを施す。35は鉢の胴～底部。外面に左上がりのタタキを施す。内面には平行当て具痕が残る。36は鉢。平底で口縁部は直立し口唇部に面取りを行う。底部外面にヨコケズリ、他の部位にはヨコナデを施す。底部と胴部の境界に剥離痕がある。

37～44は竈形土器。このうち、色調・胎土・外面調整の鳥足文タタキから37～43は同一個体と考えられる。また、他にも接合しない同一個体とみられる破片が出土している。接合に努めたが調査区外にも破片が分布している可能性が高く、完全に接合することができなかつた。上記から今後の再検討を考慮し、石膏による復元は最小限にとどめた。

37は掛口部直下から基部まで残存する。掛口部は接合面で剥離しているが、38のような内面に突出する逆L字形状と考えられる。現状の接合状況で掛け口径がおよそ24cm、器高がおよそ25cmに復元できる。外面上端から約2.5cmはヨコ・斜方向のケズリを施す。以下の外面には鳥足文タタキを施す。底は曲げ底でタタキ後に作られており、成形時のナデによってタタキが消されている。タタキは上部が左上がりで鳥足が開き、基部がほぼ水平で左に鳥足が開いている。同一個体とみられる39で外傾接合が確認できることから、倒立技法で成形されたとみられるが、上記を前提とすれば、成形時に下になる上半では右



37 : C トレンチ第5・6層

Fig.29 出土遺物実測図④(土器)

掛口



Fig.30 出土遺物拓影

下がりに鳥足が開き、上になる下半ではほぼ水平で右に鳥足が開くことになり、「叩き締めの円弧」¹⁾の結果と解釈できる。また、鳥足は2～4本に見える箇所があるが、拓本により特徴的な箇所を見ると、基本的に同じ原体が使用されたと考えられる。内面は、上から約3cmはヨコナデ、基部内面はヨコナデ、その他の部位にはタテナデを施す。²⁾色調は外面が橙色・明赤褐色、内面が明赤褐色・赤褐色・橙色で硬質に焼成されており、内外面にススが薄く付着する。なお、把手の位置と形状は不明のため、実測図には記載していない。

38～40は掛け口部。38は断面が内面に突出する逆L字状を呈し、外面がヨコケズリ後ナデ、内面に強いヨコナデを施す。39・40は、外面上半にヨコ・斜方向のケズリ、外面下半に鳥足文タタキ、内面上半にヨコナデ、内面下半にタテナデを施す。また39は下半に外傾接合の剥離面、40は掛け口部に水平な剥離面がある。41は外面に鳥足文タタキ、内

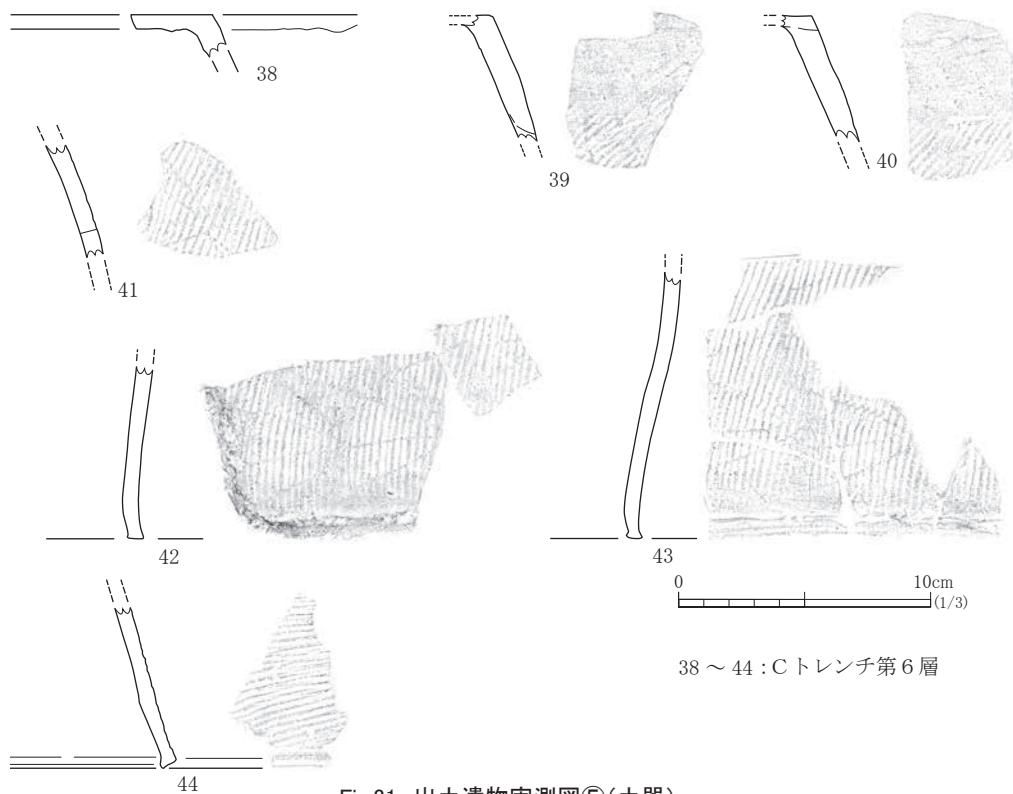


Fig.31 出土遺物実測図⑤(土器)

面にタテナデを施す。外面左端がやや盛り上がっており、断面に剥離痕があることから、把手付近である可能性がある。42・43は基部で42は炊口部も残存する。いずれも外面に鳥足文タタキ、内面上半にタテナデ、同下半の外反部にヨコナデを施し、端部に面取りを行っている。44は37～43とは別個体の基部。外面に右上がりのタタキ（1条0.5～2.5mm 7.5mm / 3条）、内面に斜方向のナデを施し、端部をつまみ上げている。

45～55は須恵器。45～49は壺蓋で5世紀後半～6世紀前半に位置づけられる。いずれも天井部外面は回転ヘラ削り、他の部位には回転ヨコナデを施す。48は天井部に突起状の付着物がある。50は壺の口縁部。51～55は壺の胴部。51と54は色調・胎土、タタキの原体が近似することから、同一個体である可能性がある。51は外面に平行タタキ（1条3mm 11.5mm / 3条）、内面にナデを施す。外面には自然釉が付着する。52は外面に平行タタキ（1条1～2mm 11mm / 3条）後、横方向カキメを施し、内面には同心円状の当て具痕が残る。53は外面に平行タタキ（1条1.5～2.5mm 8mm / 3条）後、ナデを施し、内面には同心円状の当て具痕が残る。54は外面に平行タタキ（1条2.5～3mm 10.5mm

/ 3 条)、内面にナデを施す。外面には自然釉が付着する、55 は、外面に格子目タタキ後ナデ、内面にヨコナデを施す。以上の土師器、韓式系土器、須恵器は 5 世紀後半～6 世紀前半に位置づけられる。³⁾

56～58 は磁器。56 は肥前系の染付碗。18 世紀後半以降。高台外面に 1 条の圈線を描く。57 は青磁の香炉。足は 1 箇所のみの残存だが、三足と考えられる。肥前系で 18 世紀中頃～後半。外面と内面上半まで施釉し、外底面中央には鉄漿をかける。58 は肥前系の染付碗。18 世紀後半。外面に草花文を描く。意図的に楕円状に打ち割られている。

Cトレント第5層出土土器 (Fig.32-59 ~ 66, PL.31・32)

59～61 は土師器。59・60 は小型丸底壺の口縁部で内外面にヨコナデを施す。61 は器種不明の底部。内外面にナデを施し、外面の一部にタタキが残る。

62 は瓦質土器の口縁～胴部。鍋か。口縁部は T 字状を呈し、内外面にナデを施す。口縁部上面 2 箇所で穿孔し、内外面にススが付着する。

63～65 は陶器。63 は碗。関西系の可能性が高い。19 世紀。外底面は露胎で他は灰釉を施釉する。64 は皿。産地不明。18 世紀以降。轆轤成形で底面の残存部は僅かであるが、糸切りである。口縁部外面と内面に鉄漿をかける。65 は鉢。産地不明。18 世紀後半。外底面は露胎で他は灰釉を施釉し、見込に蛇の目状の釉剥ぎを行う。

66 は磁器紅皿。肥前系で 18 世紀。

Dトレント第6～16層出土土器 (Fig.32-67, PL.32)

67 は須恵器甕胴部。外面に平行タタキ (1 条 2 mm 7.5 mm / 3 条) を施し、内面に同心円状の当て具痕が残る。

Gトレント第出土土器 (Fig.32-68・69, PL.32)

68 は第 11 層出土の縄文土器深鉢胴部。外面に左上がり、内面に横方向の条痕を施す。原体は二枚貝とみられるが摩滅により判然としない。縄文時代後～晚期。69 は第 4 層出土の縄文時代後期末～晚期前葉の浅鉢口縁部。摩滅が著しく調整不明だが、口縁部に 1 条の凹線がみられる。

(2) 鉄製品 (Fig.33, PL.32)

70 は C トレント第 1 遺構面 Pit1 出土の釘。頭部と下端以外には鋲が付着し、先端を欠損する。71・72 は C トレント第 6 層出土。71 は釘で、頭部は逆 L 字状で先端を欠損する。72 は不明切製品。欠損部が多いが断面形は円形である。

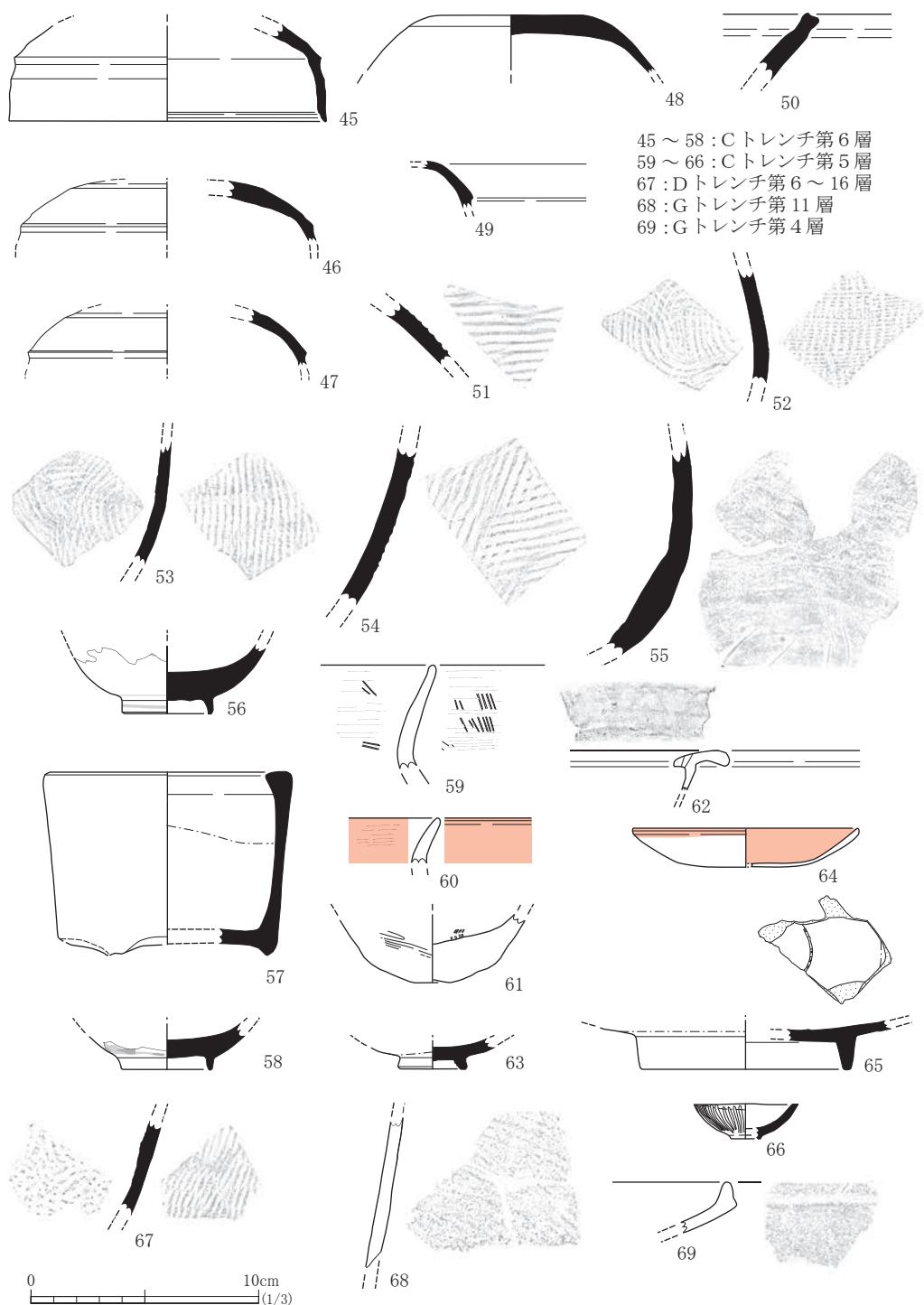


Fig.32 出土遺物実測図⑥(土器)

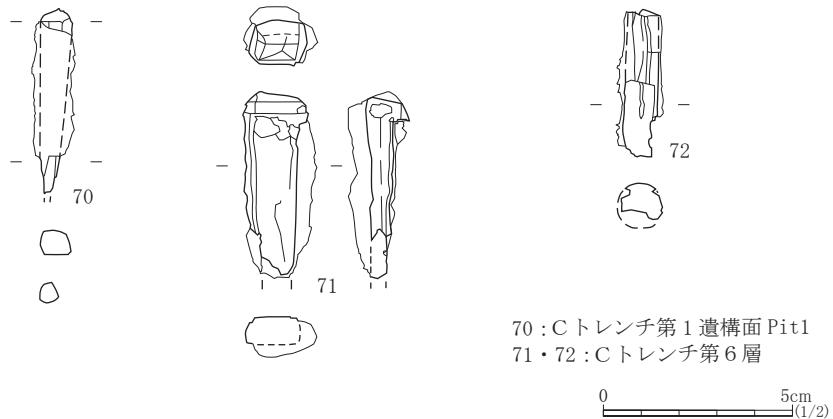


Fig.33 出土遺物実測図⑦(鉄製品)

4 小結

層序・遺構について時期別に述べる。

Bトレンチでは第5層から土師器片が少量出土した。詳細な時期は不明であるが、同層は古墳時代の遺物包含層と考えられる。Cトレンチでは第6層で5世紀後半～6世紀前半の土師器、須恵器、韓式系土器が出土した。また、第7層上面でピット6基を検出した。ピットからの出土遺物は僅少であるが、第6層出土遺物から5世紀後半～6世紀前半と推測される。既報告の附属小学校体育館北東側⁴⁾・附属小学校校舎周辺⁵⁾・附属中学校武道場敷地⁶⁾で検出されている古墳時代の遺構の時期は概ね6世紀後半であり、これらより遡る。一方、光構内北部では下水道接続工事に伴う立会調査区⁷⁾で5世紀後半～6世紀前半を含む古墳時代の遺構・遺物包含層が検出されており、Cトレンチの遺物包含層・遺構との関連が考えられる。また、Gトレンチでは古墳時代と考えられる不明遺構1基・土坑1基を検出し、第11層から縄文土器片が出土した。

Gトレンチ第4層からは縄文土器片、古墳時代・中世の土師器片が出土し、直下の第5層上面で検出されたPit1は中世の遺構と考えられる。

Cトレンチ第5層は18～19世紀の遺物包含層で、第6層上面では溝1条、土坑1基、ピット5基を検出した。このうちSK1からは18世紀前半～後半の磁器が出土した。これらの遺物包含層・遺構は安永年間に設置された室積会所⁸⁾に関連する可能性が高い。また、造成土の直下で検出されたA～Dトレンチ第4層・Gトレンチ第3層は近世～近代の遺物包含層である。Aトレンチ第4層は近代の遺構面形成層で、上面で石積を検出した。

次に出土遺物について述べる。今回特に注目されるのは韓式系土器である。主にCト

ンチ第6層から5世紀後半～6世紀前半の土師器、須恵器とともに出土した。韓式系土器はいずれも軟質土器で甕・鉢・竈形土器がある。このうち外面に鳥足文タタキを施す竈形土器 (Fig. 29-37) は全形がうかがえるきわめて貴重な事例である。Fig. 29-37 は倒立技法で成形されたと考えられるが、その製作技術は大阪府四條畷市所在の都屋北遺跡から出土した5世紀後半頃の竈形土器と関連がある。これらの竈形土器の外面には縦位平行タタキが残り、天井部が平坦である。その製作技法については「百濟の甕の製作技法で作り上げてから、それをひっくり返し、正面に焚口を、上面に釜孔を割り抜いている。」とされ、「百濟の甕の製作技法を応用しながらも百濟には存在しないオリジナル品」と位置づけられている。¹⁰⁾ Fig. 29-37 と上記の竈形土器は掛口側面にケズリを施すことや形態が類似していることからも、同じ製作技術の系譜で捉えることができる。詳細な位置づけには、韓式系土器における竈形土器・甕形土器の製作技術全般についての検討も必要である。

Fig. 29-37 が出土した第6層は近世の遺構面形成層で上面からは近世の陶磁器も出土していることから、一定の搅乱を受けている。上記から慎重な検討が必要であるが、この竈形土器は丹塗の小型丸底壺とともに出土している点、調査区外を含む範囲で破片が分布しているとみられる点から、祭祀に伴い破碎された可能性がある。また、Fig. 29-37 は破片を全て接合できなかつたため、実測図は暫定的なものである。Cトレンチ第7層上面で検出した遺構の分布解明と合わせ、Cトレンチ周辺の発掘調査を含めた再検討が求められる。

光構内の御手洗遺跡では立会調査区G地点、公共下水道接続工事に伴う立会調査区、附属中学校体育館敷地では¹¹⁾ 5～6世紀前半を主体とする土師器・須恵器が出土しており、公共下水道接続工事に伴う立会調査区からは5世紀代の韓式系土器が多数出土している。具体的にどのような施設が存在したのかが不明である点に問題があるが、室積湾は古墳時代における海上交通上の拠点であり、5～6世紀前半の光構内には①正門からCトレンチ周辺の構内北西部、②附属中学校体育館とその周辺を中心とする構内南東部に上記に関連する施設が存在した可能性がある。

以上の調査結果により関連部局と協議した結果、附属小学校校庭における掘削工事の深度は一部を除き70cm以内にとどめることになった。

[注]

1) 佐原眞「平瓦桶巻作り」(『考古学雑誌』第58巻2号、1972年)

2) 京都大学大学院文学研究科教授 吉井秀夫氏のご教示による。

- 3) 愛媛大学埋蔵文化財調査室講師 三吉秀充氏のご教示による。
- 4) 山口大学埋蔵文化財資料館「光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報X』、1992年)
- 5) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光小学校エレベータ昇降路他新設に伴う試掘・立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』、2005年)
山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、2016年)
- 6) 山口大学埋蔵文化財資料館「光構内教育学部附属光中学校武道場新営に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報X II』、1994年)
- 7) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、2016年)
- 8) 小川国治「近世のひかりー海の利用と大川の効用ー」(『光市史』、1975年)
- 9) この竈形土器の製作技法の観点に関しては、京都大学大学院文学研究科教授 吉井秀夫氏にご教示いただいた。
- 10) 寺井誠「新たなものを生み出す渡来文化ー「百濟のようで百濟でない竈」の紹介を通じてー」(『狭山池築造1400年・平成28年度特別展 河内の開発と渡来人－蔚屋北遺跡の世界－』、大阪府立狭山池博物館、2016年)
大阪歴史博物館『特別展 渡来人いづこより』、2017年
- 11) 次節参照
- 12) 前掲注7文献
- 13) 福本幸夫「光市における先原史時代の遺跡」(『先原史時代の光市』、1966年)
横山成己「付篇 光市文化センター所蔵の御手洗遺跡出土遺物」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』、2005年)

Tab.5 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

| 遺物番号 | 出土地区・遺構 | 層位 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 色調 ①外面②内面 | 胎土 | 備考 |
|------|-------------------|-----|---------------|------------|--------|--------|--------|---------------------|-----------------|--------------------|
| 1 | Cトレンチ 第1遺構面SK1 | | 磁器 | 碗 | 胴～底部 | 4.0 | | 素地：灰白色 釉：透明 | 精良 | 肥前系 |
| 2 | Cトレンチ 第1遺構面SK1 | | 磁器 | 碗 | 口縁～底部 | (10.4) | 4.4 | 6.6 | 素地：灰色 釉：透明 | 精良 肥前系 陶胎染付碗 |
| 3 | Cトレンチ 第1遺構面SK1 | | 磁器 | 皿 | 底部 | | | 素地：灰白色 釉：明オリーブ灰色 | 精良 | 肥前系 |
| 4 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | | | ①②にぶい黄色 | 0.5～1mmの砂粒を含む | 5と同一か |
| 5 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 壺 | 胴部～底部 | | | ①②にぶい黄色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | 穿孔1箇所 4と同一か |
| 6 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | | | ①②にぶい黄橙色 | 0.5mmの砂粒を少量含む | |
| 7 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 壺 | 頸～底部 | | | ①②明赤褐色 | 0.5～2mmの砂粒を少量含む | 丹塗 |
| 8 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 壺 | 口縁～胴部 | 9.3 | 16.0 | ①橙色 ②にぶい黄橙色 | 0.5～5mmの砂粒を少量含む | |
| 9 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | | | ①②橙色 | 0.5～1mmの砂粒を少量含む | |
| 10 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | (13.0) | | ①明黄褐色 ②にぶい橙色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |
| 11 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 口縁～胴部 | (12.2) | | ①②明赤褐色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | |
| 12 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | | | ①褐灰色 ②にぶい黄色 | 0.5～3mmの砂粒を少量含む | |
| 13 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 口縁～胴部 | | | ①暗灰黄色 ②灰黄色 | 0.5～2mmの砂粒を少量含む | |
| 14 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | | | ①②にぶい黄色 | 0.5～1mmの砂粒を少量含む | |
| 15 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | | | ①黄色 ②にぶい黄褐色 | 0.5～1mmの砂粒を少量含む | |
| 16 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 胴部 | | | ①②にぶい黄色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |
| 17 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 口縁～胴部 | | | ①浅黄色 ②にぶい橙色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |
| 18 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 口縁～胴部 | | | ①②橙色 | 0.5～2mmの砂粒を少量含む | |
| 19 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | | | ①②にぶい黄色 | 0.5～2mmの砂粒を少量含む | 把手付鍋（ハガマ）の可能性あり |
| 20 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 甕 | 胴部 | | | ①にぶい黄色 ②にぶい黄橙色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | |
| 21 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 坏 | 口縁～胴部 | (11.6) | | ①②橙色 | 0.5～1.5mmの砂粒を含む | |
| 22 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 坏 | 口縁～胴部 | | | ①オリーブ黄色 ②明赤褐色 | 0.5～1mmの砂粒を含む | |
| 23 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 坏 | 口縁～胴部 | | | ①橙色 ②浅黄色・橙色 | 0.5～1mmの砂粒を少量含む | |
| 24 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 竈 | 掛口～胴部 | (20.6) | | ①灰黄色 ②黄橙色 | 0.5～1mmの砂粒を含む | 背面 |
| 25 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 竈 | 掛口部 | | | ①橙色 ②明赤褐色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | 韓式系土器軟質土器の可能性あり |
| 26 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 竈 | 底部・炊口部 | | | ①②にぶい黄橙色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | |
| 27 | Cトレンチ | 第6層 | 土師器 | 竈 | 底部 | | | ①②明黄褐色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | |
| 28 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕 | 口縁～胴部 | (19.8) | | ①②橙色 | 0.5～1mmの砂粒を少量含む | |
| 29 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕もしく は鉢 | 胴部 | | | ①②橙色 | 0.5～1.5mmの砂粒を含む | |
| 30 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕もしく は鉢 | 胴部 | | | ①②橙色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | |
| 31 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕もしく は鉢 | 胴部 | | | ①②明褐色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |
| 32 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕もしく は鉢 | 胴部 | | | ①②橙色 | 0.5～2mmの砂粒を含む | |
| 33 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕もしく は鉢 | 胴部 | | | ①にぶい橙色 ②にぶい黄褐色 | 0.5～3mmの砂粒を含む | |

出土遺物観察表

| 遺物番号 | 出土地区・遺構 | 層位 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 色調 ①外面②内面 | 胎土 | 備考 |
|------|---------|--------|----------------|--------|----------|--------|--------|---------------------------|------------------|---------|
| 34 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕もしくは鉢 | | | | ①にぶい橙色 ②にぶい褐色 | 0.5~3mmの砂粒を含む | |
| 35 | Cトレンチ | 第5・6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 鉢 | | | | ①橙色・にぶい褐色 ②橙色 | 0.5~2mmの砂粒を含む | |
| 36 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 鉢 | 口縁~底部 | 14.0 | 7.9 | 3.65 ①②橙色 | 0.5~5mmの砂粒を少量含む | |
| 37 | Cトレンチ | 第5・6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕 | 掛口部直下~基部 | | | ①橙色 ②明赤褐色 | 0.5~2mmの砂粒を含む | |
| 38 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕 | 掛口部 | | | ①②赤褐色 | 0.5mmの砂粒を少量含む | |
| 39 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕 | 掛口部 | | | ①橙色 ②明赤褐色 | 0.5mmの砂粒を少量含む | |
| 40 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕 | 掛口部 | | | ①橙色 ②にぶい赤褐色 | 0.5mmの砂粒を少量含む | 同一個体 |
| 41 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕 | 把手付近か | | | ①橙色 ②にぶい褐色 | 0.5~2mmの砂粒を含む | |
| 42 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕 | 基部 | | | ①②明赤褐色 | 0.5~1mmの砂粒を僅かに含む | |
| 43 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器 | 甕 | 基部 | | | ①②明赤褐色 | 0.5~1mmの砂粒を僅かに含む | |
| 44 | Cトレンチ | 第6層 | 韓式系土器 軟質土器か | 甕 | 基部 | | | ①橙色 ②にぶい橙色 | 0.5mmの砂粒を含む | |
| 45 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 坏蓋 | 口縁部 | (14.0) | | ①灰色 ②青灰色 | 0.5~3mmの砂粒を少量含む | |
| 46 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 坏蓋 | 天井~口縁部 | | | ①灰色 ②青灰色 | 0.5~3mmの砂粒を少量含む | |
| 47 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 坏蓋 | 天井~口縁部 | | | ①②灰色 | 0.5~3mmの砂粒を少量含む | |
| 48 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 坏蓋 | 天井部 | | | ①灰色 ②浅黄色 | 0.5~3mmの砂粒を少量含む | |
| 49 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 坏蓋 | 天井部 | | | ①②灰色 | 0.5~1mmの砂粒を僅かに含む | |
| 50 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 甕 | 口縁部 | | | ①②灰色 | 0.5~3mmの砂粒を少量含む | |
| 51 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | | | ①オリーブ黒色 ②灰オリーブ色 | 0.5mmの砂粒を僅かに含む | 54と同一か |
| 52 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | | | ①②灰色 | 0.5~2mmの砂粒を僅かに含む | |
| 53 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | | | ①灰オリーブ色 ②青灰色 | 0.5~2mmの砂粒を僅かに含む | |
| 54 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | | | ①浅黄色 ②灰オリーブ色 | 0.5mmの砂粒を僅かに含む | 51と同一か |
| 55 | Cトレンチ | 第6層 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | | | ①②灰オリーブ色 | 0.5~6mmの砂粒を少量含む | |
| 56 | Cトレンチ | 第6層 | 磁器 | 碗 | 胴~底部 | 3.8 | | 素地:灰色 釉:透明 | 精良 | 肥前系 |
| 57 | Cトレンチ | 第6層 | 磁器 | 香炉 | 口縁~底部 | (10.5) | | 素地:灰白色 釉:綠灰色・赤褐色 | 精良 | 肥前系 |
| 58 | Cトレンチ | 第6層 | 磁器 | 碗 | 胴~底部 | 4.0 | | 素地:灰白色 釉:明緑灰色 | 精良 | 肥前系 |
| 59 | Cトレンチ | 第5層 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | | | ①にぶい黄色 ②にぶい褐色 | 0.5~1mmの砂粒を少量含む | |
| 60 | Cトレンチ | 第5層 | 土師器 | 壺 | 口縁部 | | | ①にぶい橙色 ②にぶい黄色 | 0.5~1mmの砂粒を少量含む | 丹塗 |
| 61 | Cトレンチ | 第5層 | 土師器 | 不明 | 底部 | | | ①にぶい黄橙色 ②にぶい浅黄色 | 0.5mmの砂粒を少量含む | |
| 62 | Cトレンチ | 第5層 | 瓦質土器 | 鍋か | 口縁~胴部 | | | ①②黒褐色 | 0.5~3mmの砂粒を含む | 内外面スス付着 |
| 63 | Cトレンチ | 第5層 | 陶器 | 碗 | 胴部~底部 | | 2.9 | 素地:浅黄色 釉:淡黄色 | 精良 | 関西系か |
| 64 | Cトレンチ | 第5層 | 陶器 | 皿 | 口縁~底部 | (9.9) | (3.1) | 1.75 素地:暗赤褐色 釉:明赤褐色 | 0.5mmの砂粒を僅かに含む | |
| 65 | Cトレンチ | 第5層 | 陶器 | 鉢 | 底部 | | (9.3) | 素地:橙色 釉:灰白色 | 精良 | |
| 66 | Cトレンチ | 第5層 | 磁器 | 紅皿 | 口縁~底部 | 4.6 | 1.3 | 1.55 素地:灰色 釉:灰白色 | 精良 | 肥前系 |
| 67 | Dトレンチ | 第6~16層 | 須恵器 | 甕 | 胴部 | | | ①褐灰色 ②暗灰色 | 精良 | |
| 68 | Gトレンチ | 第11層 | 繩文土器 | 深鉢 | 胴部 | | | ①にぶい褐色 ②黄褐色 | 0.5~4mmの砂粒を多く含む | |

| 遺物番号 | 出土地区・遺構 | 層位 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 色調 ①外面②内面 | 胎土 | 備考 |
|------|---------|-----|---------|-----|--------|--------|--------|--------------|-----------------|----|
| 69 | Gトレンチ | 第4層 | 縄文土器 浅鉢 | 口縁部 | | | | ①褐色 ②黄褐色 | 0.5～3mmの砂粒を多く含む | |

Tab.6 出土遺物観察表(鉄製品)

| 遺物番号 | 出土地区・遺構 | 層位 | 器種 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|------|--------------------|-----|----|---------|---------|---------|-------|----|
| 70 | Cトレンチ 第1遺構面Pit1 | | 鉄釘 | 4.84 | 0.86 | 0.65 | 7.07 | |
| 71 | Cトレンチ | 第6層 | 鉄釘 | 4.74 | 1.5 | 1.17 | 20.06 | |
| 72 | Cトレンチ | 第6層 | 不明 | 3.9 | 1.1 | 0.87 | 7.18 | |

第2節 立会調査

調査地区 光構内

調査期間 平成12年2月7・14・21日・3月3日

調査面積 179.3 m²

調査結果 (Fig.17・18・34, PL.33・34)

給水管新設工事に伴い、立会調査を行った。地点名は試掘調査からの連番である。以下各地点の調査結果について報告する。

H地点の層序は現地表下約60cmまでが表土・造成土、以下60～70cmが黄褐色細砂で、同層上面で佐野焼の甕を使用した埋甕 (Fig. 34-2) を検出した。検出した平面形は43cm×50cm、深さは約20cmである。埋土は貝殻を含む造成土（黒褐色土）で、同一個体とみられる口縁部 (Fig. 34-1) や胴部片が出土した。内面に石灰質が付着することから便壺であった可能性がある。検出面、口縁部形態から19世紀後半の遺構と考えられる。

I地点の層序は現地表下30cmまでが造成土で、以下30～64cmが淡黄色（2.5Y8/4）礫、64～84cmが黒褐色（10YR3/2）細砂、84～100cmで黄褐色（2.5Y5/4）細砂、100～120cmが灰黄褐色（10YR4/2）砂、床面が明黄褐色（10YR7/6）粗砂であった。黒褐色砂上面で近代とみられる石積を検出した。また、灰黄褐色砂から土師器片 (Fig. 34-3・4) が出土した。

J-1地点の層序は現地表下39cmまでが造成土で、以下39～113cmが暗黄褐色砂礫、110～123cmが明黄褐色砂礫、床面が淡黄色砂であった。床面から直径14cmのピットを検出した。埋土は黒褐色砂である。掘削は行っておらず遺物は出土していない。

J－2 地点の層序は現地表下 57 cmまでが表土・造成土で、以下 57～116 cmが暗褐色砂礫で部分的に 93～116 cmが明黄褐色砂礫、116～160 cmが淡黄色砂、160～186 cmが灰白色砂であった。壁面を精査した結果、淡黄色砂上面から掘り込まれた Pit1(断面幅約 14 cm、深さ 70 cm) Pit2(断面幅 40 cm以上、深さ 70 cm) を検出した。遺物は出土しなかった。

K 地点の層序は現地表下 146 cmまでが表土・造成土、以下 146～190 cmが青黒色砂、190～220 cmが黄褐色砂、床面が暗オリーブ砂であった。青黒色砂から土師器竈形土器片(Fig. 34-5・6)、須恵器片(Fig. 34-7～9) が出土した。

L 地点は現地表下約 60 cmまで掘削を行ったが、既設管が錯綜した状態ですべて造成土の範囲内であった。

上記以外の地点では、造成土や近世～近代の遺物包含層等から少量の土器片、土師器片、陶器片、磁器片が出土した。

出土遺物について報告する。1・2 は H 地点埋甕に使用された佐野焼(瓦質土器)の甕。1 は口縁部。口縁部は直立し、外面を肥厚させて 1 条の沈線を施す。内面にくびれはなく内湾する。以上の特徴は上山佳彦氏による編¹⁾牛では 7 ② A 型式に相当し、概ね 19 世紀に位置づけられる。2 は胴～底部。内外面にナデを施し、タタキによる凹みがある。また、内面に石灰質の付着がみられる。

3・4 は I 地点灰黄褐色砂出土の土師器。3 は甕口縁部で内外面にヨコナデを施す。4 は高壺の壺～脚部。摩滅で判然としないが、内外面にミガキを施す。

5～9 は K 地点青黒色砂出土土器。5～6 は土師器竈形土器の掛口～底部。付け庇で、接合面で剥離する。内外面にナデを施す。7～9 は須恵器。7 は壺蓋天井部。8 は甕胴部。外面に平行タタキ(1 条 1.5 mm 7 mm / 3 条)の後、帶状にカキメを施す。内面には同心円状の当て具痕が残る。9 は短頸壺の口縁～胴部。以上の土器は 7 の形状等から概ね 6 世紀前半に位置づけられる。

立会調査では、光構内で初となる近世～近代の埋甕を H 地点で検出した。J－1・2 地点で検出されたピットは古墳時代である可能性が高い。このほか、I・K 地点で古墳時代の遺物包含層を検出したことも注目される。後者については前節も参照されたい。

[注]

1) 上山佳彦「Vまとめ 4 埋甕遺構について」(『東禅寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)』、山口県埋蔵文化財センター、2003 年)

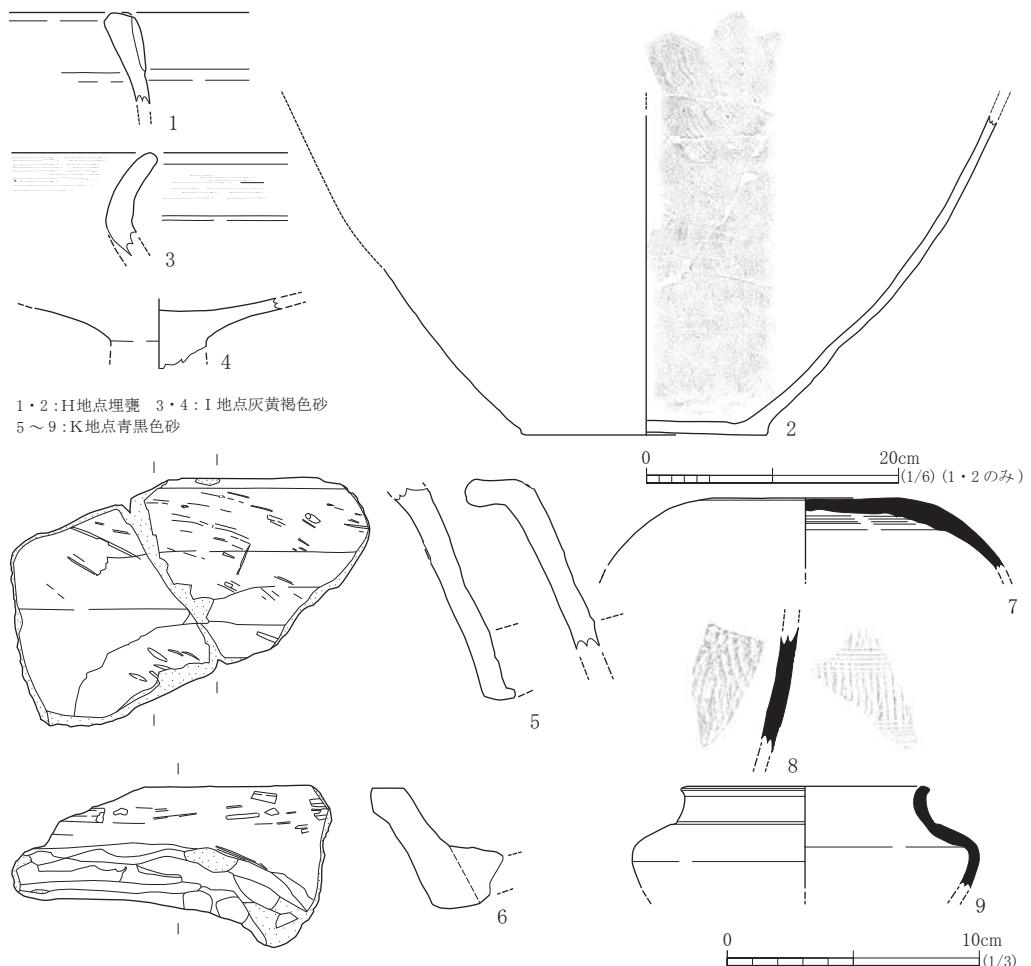


Fig.34 出土遺物実測図(土器)

Tab.7 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

| 遺物番号 | 出土地区・遺構 | 層位 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 色調 ①外面②内面 | 胎土 | 備考 |
|------|---------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|-------------------|----------------------|-----|
| 1 | H地点埋甕 | | 瓦質土器 甕 | 口縁部 | | | | ①② にぶい黄色 | 0.5～5mmの砂粒を少 量含む | 佐野焼 |
| 2 | H地点埋甕 | | 瓦質土器 甕 | 胴～底部 | | | | ①②灰色 | 0.5～5mmの砂粒を含 む | |
| 3 | I地点 | 灰黄褐色砂 | 土師器 甕 | 口縁部 | | | | ①にぶい黄色 ②にぶい黄橙色 | 0.5～3mmの砂粒を少 量含む | |
| 4 | I地点 | 灰黄褐色砂 | 土師器 高壺 | 壺～脚部 | | | | ①橙色 ②にぶい黄色 | 0.5mmの砂粒を少量含 む | |
| 5 | K地点 | 青黒色砂 | 土師器 瓢 | 掛口～底部 | | | | ①② 明赤褐色 | 0.5～6mmの砂粒を含 む | |
| 6 | K地点 | 青黒色砂 | 土師器 瓢 | 掛口～底部 | | | | ①② 明赤褐色 | 0.5～4mmの砂粒を含 む | |
| 7 | K地点 | 青黒色砂 | 須恵器 坂蓋 | 天井部 | | | | ①②灰色 | 0.5～3mmの砂粒を少 量含む | |
| 8 | K地点 | 青黒色砂 | 須恵器 甕 | 胴部 | | | | ①②灰黄色 | 0.5～1mmの砂粒を僅 かに含む | |
| 9 | K地点 | 青黒色砂 | 須恵器 壺 | 口縁～胴部 | (9.9) | | | ①②灰色 | 0.5～1mmの砂粒を少 量含む | |

第4章 平成11年度山口大学構内の立会調査

第1節 吉田構内の立会調査

1 第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 O-15・16

P-14

調査期間 平成11年5月10～14日

調査面積 約6.6m²

調査結果 (Fig.35～38, PL.36～38)

第2学生食堂の増築及び改修工事に関連して、周辺の屋外電力線路を整備し、ルートを変更することになった。上記工事に伴い、A～D地点で立会調査を行った。なお、C・D地点では事前に施工業者の協力の下、遺構面まで掘削を行い、調査を実施した。



Fig.35 調査区位置図

A地点の層序は、現地表下52cmまでが造成土で、以下52～152cmが赤褐色の岩盤であった。

B地点の層序は、現地表下20cmまでが表土・耕土で、以下20～96cmが明橙色粘土、96～174cmが赤褐色の岩盤であった。

C地点は農学部実験畑に位置する。Fig.36の方位は磁北を示す。層序は下記の通りである。第1層：耕土（層厚51～72cm）、第2層：水田耕土（明緑灰色（5G7/1）粘質土 層厚4～10cm）、第3層：水田床土（明黄褐色（2.5Y6/8）粘質土 層厚5～11cm）、第4層：遺物包含層（灰黄色（2.5Y6/2）シルト 層厚4～17cm）、第5層：第1遺構面形成層・遺物包含層（黒褐色（2.5Y3/1）粘質土 層厚3～16cm）、第6層：遺物包含層（黄褐色（2.5Y5/3）粘質土 層厚6～19cm）、第7層：弥生時代以降の遺構面形成層（明緑灰色（7.5GY8/1）シルト 淡黄色（5Y8/4）淡黄色粘質土ブロックを含む 層厚約20cm）。

実験畑は統合移転前に存在した水田を埋めて利用されている。第4～6層は遺物包含層である。第4層は色調から中世の可能性が高い。土器量は少ない。第5層からは弥生土器片、土師器片、須恵器片、白磁片、土師質土器片、剥片が出土した。主体は弥生時代・古代の土器

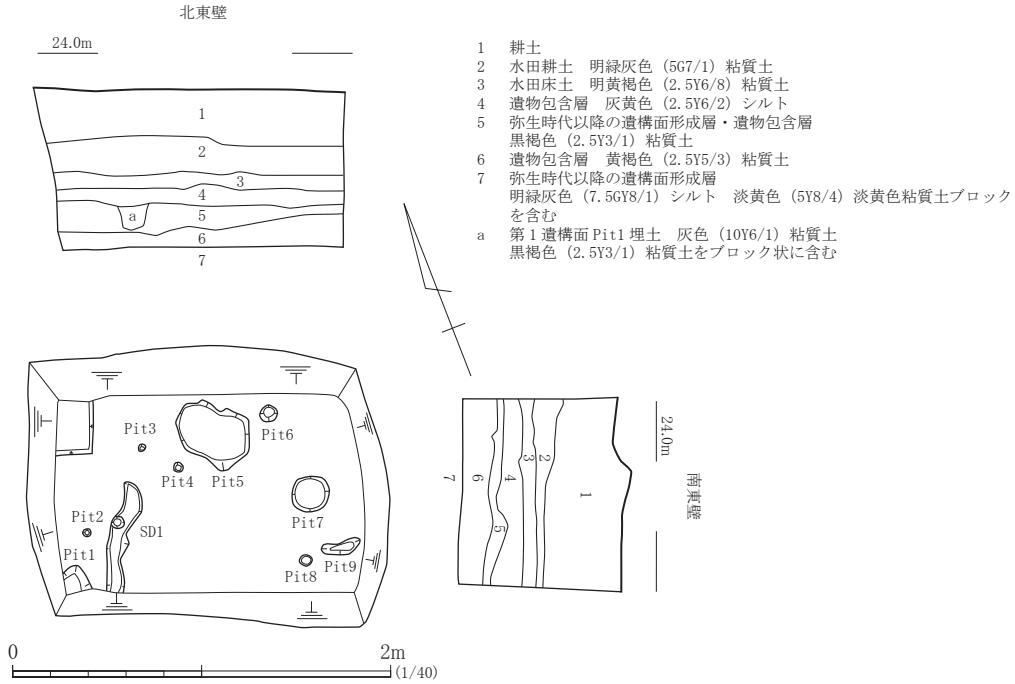


Fig.36 C地点平面図・土層断面図

で、白磁片、土師質土器片は機械掘削時の混入である可能性が高い。また北東壁では上面で Pit1を検出した。第6層は遺物包含層である。第7層に近似するが、土器片、須恵器片、剥片が出土した。第7層上面の第2遺構面では溝1条、ピット9基を検出した。なお、同層の層厚は工事掘削時に確認した。

第1遺構面Pit1は断面幅16cm、深さ12cmである。出土遺物はない。第2遺構面SD1は長さ58cm以上、幅12cm、深さ3cmである。第2遺構面Pit1～9は杭の可能性があるPit2～4・8と直径もしくは最大幅が10cm以上のPit1・5～7・9があるが、いずれも深さは6cm以内であった。埋土はPit7が暗灰黄色(2.5Y5/2)シルトと黒褐色(2.5Y3/1)シルトで、他は黒褐色(2.5Y3/1)シルトであった。SD1から土器片、須恵器片(Fig. 38-1)、Pit4・5・9から土器片が出土した。

D地点の層序は下記の通りである。第1層：造成土(層厚12～39cm)、第2層：水田耕土(緑灰色(5G7/1)シルト 層厚12～21cm)、第3～10層：河川埋土(Fig. 37参照 層厚89～97cm)。第11～12層：弥生時代以降の遺構面形成層(青灰色(10BG5/1砂礫・岩盤) 層厚21cm以上)。水田耕土以下で河川埋土を検出し、古代の土器が出土した(Fig. 38-11～14)。

出土遺物(Fig. 38)について報告する。1～10はC地点出土土器。1はSD1出土の須恵器無高台壺底部。焼成不良で摩滅する。2～9は第5層出土土器。2は弥生土器壺の底部。摩滅

吉田構内の立会調査

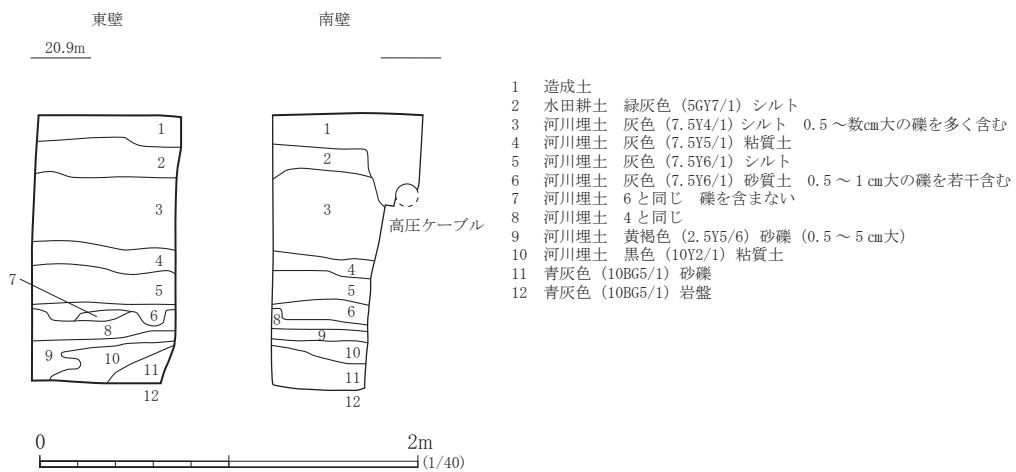


Fig.37 D地点土層断面図

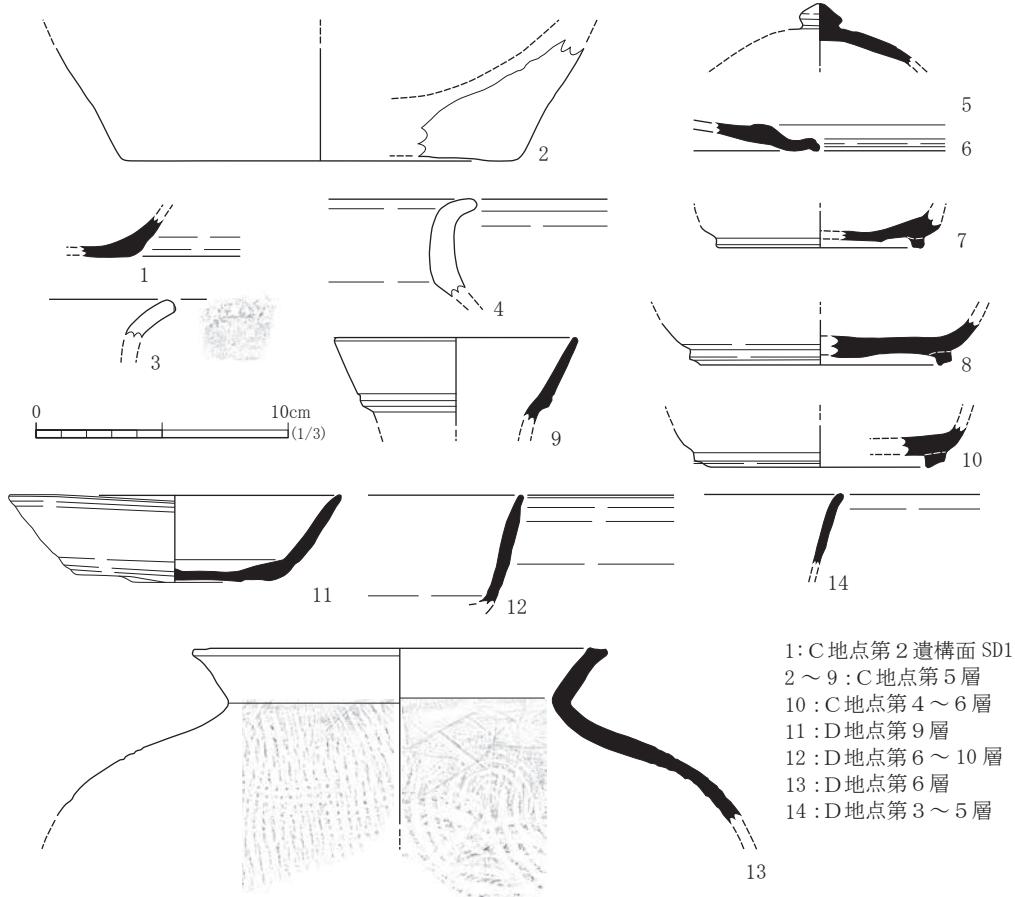


Fig.38 出土遺物実測図 (土器)

が著しい。砂粒を多く含むことから弥生時代前期～中期初頭と考えられる。3は弥生土器甕口縁部。4は土師器甕口縁部。5は須恵器壺蓋天井部。宝珠状のつまみがつく。6は須恵器壺蓋口縁部。7・8は須恵器高台付壺の胴～底部。9は須恵器壺口縁部。10は第4～6層出土の須恵器高台付壺の胴～底部。11～14はD地点河川出土土器。11は須恵器無高台壺。全体的に歪みがみられる。12・14は須恵器壺口縁～胴部。13は須恵器甕口縁～胴部。胴部外面には平行タタキ（1条2.5mm 10mm/ 3条）を施す。内面には同心円状の当て具痕が残る。

今回の調査ではC地点で遺物包含層と遺構面2面を確認し、弥生土器、古代の土師器、須恵器を主体とする遺物が出土した。また、D地点では河川埋土を検出し、古代の土師器、須恵器が出土した。C・D地点で出土した古代の須恵器は第2学生食堂敷地で出土した遺物と様相が近似している。C地点の状況は第2学生食堂敷地¹⁾で確認された遺構・遺物がさらに東側に展開していることを示し、D地点の遺物は北側に位置する第2学生食堂・農学部実験畠から廃棄された可能性が高い。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVIII』、2021年）

Tab.8 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

| 遺物番号 | 出土地区・遺構 | 層位 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 色調 ①外面②内面 | 胎土 | 備考 |
|------|---------|--------|------|------|--------|--------|--------|------------------------|-------------------|-------------|
| 1 | C地点 | SD1 | 須恵器 | 壺 | 底部 | | | ①②灰白色 | 0.5～1mmの砂粒を少量含む | |
| 2 | C地点 | 第5層 | 弥生土器 | 壺 | 底部 | (16.6) | | ①にぶい黄橙色 ②浅黄色 | 0.5～4mmの砂粒を多く含む | |
| 3 | C地点 | 第5層 | 弥生土器 | 甕 | 口縁部 | | | ①にぶい黄褐色 ②にぶい黄橙色 | 0.5～2mmの砂粒を少量含む | |
| 4 | C地点 | 第5層 | 土師器 | 甕 | 口縁部 | | | ①にぶい黄褐色 ②浅黄色 | 0.5～2.5mmの砂粒を多く含む | |
| 5 | C地点 | 第5層 | 須恵器 | 壺蓋 | 天井部 | | | ①②灰色 | 0.5～5mmの砂粒を少量含む | つまみ部径1.75cm |
| 6 | C地点 | 第5層 | 須恵器 | 壺蓋 | 口縁部 | | | ①青灰色 ②明青灰色 | 0.5～2mmの砂粒を少量含む | |
| 7 | C地点 | 第5層 | 須恵器 | 高台付壺 | 胴～底部 | (8.2) | | ①②明青灰色 | 0.5～1mmの砂粒を少量含む | |
| 8 | C地点 | 第5層 | 須恵器 | 高台付壺 | 胴～底部 | | | ①②灰色 | 0.5～1mmの砂粒を少量含む | |
| 9 | C地点 | 第5層 | 須恵器 | 壺 | 口縁部 | (9.6) | | ①②灰色 | 0.5～2mmの砂粒を少量含む | |
| 10 | C地点 | 第4～6層 | 須恵器 | 高台付壺 | 胴～底部 | (8.6) | | ①②灰色 | 0.5～1mmの砂粒を少量含む | |
| 11 | D地点 | 第9層 | 須恵器 | 壺 | 口縁～底部 | (13.2) | 8.0 | 3.5 ①青灰色 ②オリーブ灰色 | 0.5～2mmの砂粒を少量含む | |
| 12 | D地点 | 第6～10層 | 須恵器 | 壺 | 口縁～胴部 | | | ①②灰黄色 | 0.5～2mmの砂粒を少量含む | |
| 13 | D地点 | 第6層 | 須恵器 | 甕 | 口縁～胴部 | (16.4) | | ①②灰色 | 0.5～2.5mmの砂粒を少量含む | |
| 14 | D地点 | 第3～5層 | 須恵器 | 壺 | 口縁～胴部 | | | ①灰色 ②にぶい橙色 | 0.5～2mmの砂粒を少量含む | |

2 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 F・G-13、G・H-12

調査期間 平成11年6月1日、8月9日、12月14日

調査面積 約222m²

調査結果

平成11年度分の工事として、長さ約111m分について、現地表下約5～6mまで掘削が行われた。調査の結果、現地表下約1.4m以下で地山（弥生時代以降の遺構面形成層）及び河川堆積土を検出した。今回の調査でも、地山の直下、現地表下1.6mで、平成9年度の調査¹⁾で地山の一部と考えられている黒褐色粘土が検出された。また、地山の直上で遺物包含層か遺構埋土の可能性がある黒褐色粘土を複数箇所で確認したが、遺物は出土しなかった。

なお、平成10～12年度の調査区の境界に誤りがあったので訂正する。上記に伴う平成10年度²⁾の調査面積は約60m²、12年度³⁾の調査面積は約617m²である。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、2004年）
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVIII』、2021年）
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XX』、2017年）

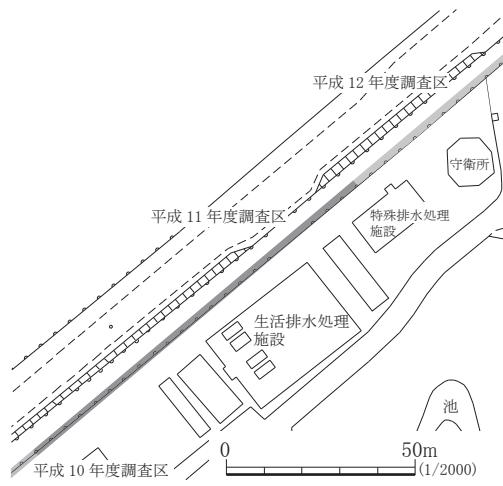


Fig.39 調査区位置図

3 第 2 学生食堂北西擁壁新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 N・O-14

調査期間 平成 11 年 11 月 25 日

調査面積 約 43 m²



Fig.40 調査区位置図

調査結果 工事は第 2 学生食堂の増築及び改修工事に伴い、第 2 学生食堂の北西側に擁壁を新設するものである。削平が著しいことが予想されたが、確認のため調査を行った。調査の結果、表土直下で地山が検出され、埋蔵文化財に支障はなかった。

4 サッカー場南側防球ネット新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 G・H-22

調査期間 平成 12 年 3 月 10 日

調査面積 約 3.2 m²

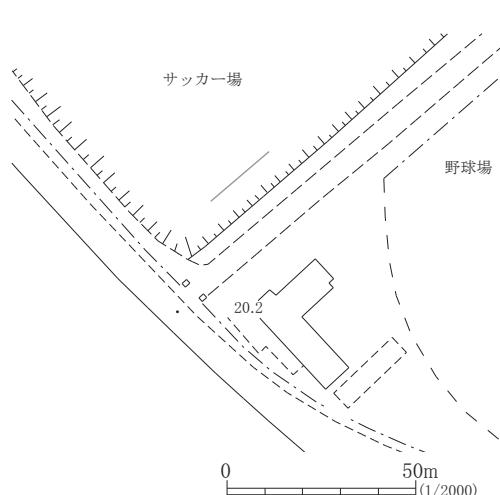


Fig.41 調査区位置図

調査結果 工事は防球ネット新設に伴い、平面形約 80cm × 80cm・深さ約 50cm の基礎を 5箇所で掘削するものである。調査の結果、現地表下 25 ~ 35cm 以下で地山もしくは河川埋土と考えられる土層を検出したが、遺物は出土せず、埋蔵文化財に支障はなかった。

5 第1体育館・共通教育本館スロープ新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 H-15、K-15・16

調査期間 平成12年3月22・23・30日

調査面積 約201.1m²

調査結果

工事は共通教育本館と第1体育館の北側にスロープの新設を行うものである。調査の結果、共通教育本館北側では現地表下約40～76cmで統合移転前の水田耕土を検出した。第1体育館北側は既設管による搅乱が著しかったが、現地表下約70cm前後の掘削底面付近で統合移転前の水田耕土と水田床土を検出した。

共通教育棟本館ではその後の改修工事に伴う調査¹⁾で、弥生時代前期から古墳時代前期の遺物を含む河川が検出されている。今回調査区にも延長部分が存在する可能性が高く、埋蔵文化財の保護に引き続き注意を払う必要がある。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育総合研究センター改修Ⅱ期工事に伴う予備発掘調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度－』、2007年)
山口大学埋蔵文化財資料館「教育総合研究センター改修Ⅱ期工事に伴う立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』、2010年)



Fig.42 調査区位置図

6 基幹環境整備工事（外灯新設）に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 I-12、K・L-18、L-15、M・N-17

調査期間 平成12年3月21・27・30日

調査面積 約 4 m²

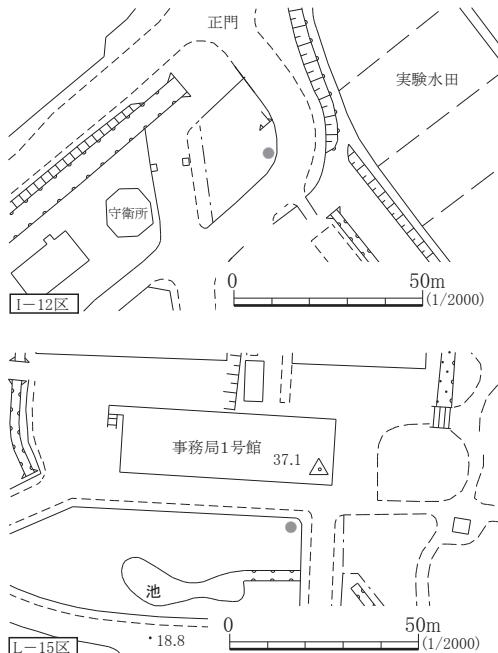


Fig.43 調査区位置図

調査結果

吉田構内で基幹環境整備の一環として、7箇所で外灯が新設されることになり、立会調査を行った。工事では、現地表下約70～140cmまで掘削が行われた。調査の結果、正門南東側、事務局1号館南側の地点は全て造成土の範囲内であった。その他の地点では統合移転前の水田耕土・水田床土や地山を検出したが、遺構はなかった。図書館南東側の地点からは、水田耕土から須恵器甕胴部片が1点出土した。



Fig.44 調査区位置図

付篇

山口市荻峠遺跡出土土器について

田畠 直彦

1 はじめに

荻峠遺跡は山口市下宇野町荻峠に位置する弥生～古墳時代の遺跡である。小野忠熙氏による『山口県の考古学』では、「花崗岩丘の頂からその南東の丘麓にかけて立地する弥生中期（Ⅱ期からⅢ期）の集落遺跡である」とされ、調査履歴についても簡潔にまとめられている。また、山頂付近は弥生時代の高地性集落であり、『高地性集落跡の研究 資料篇』にも記載されている。¹⁾しかし、これまで出土遺物については未公表であった。当館は小野忠熙氏らにより荻峠遺跡で採集された土器を保管している。本稿では、既往の調査地点・内容を整理した後、当館所蔵資料を紹介し、荻峠遺跡の位置づけについて考察する。

2 既往の調査地点と調査区

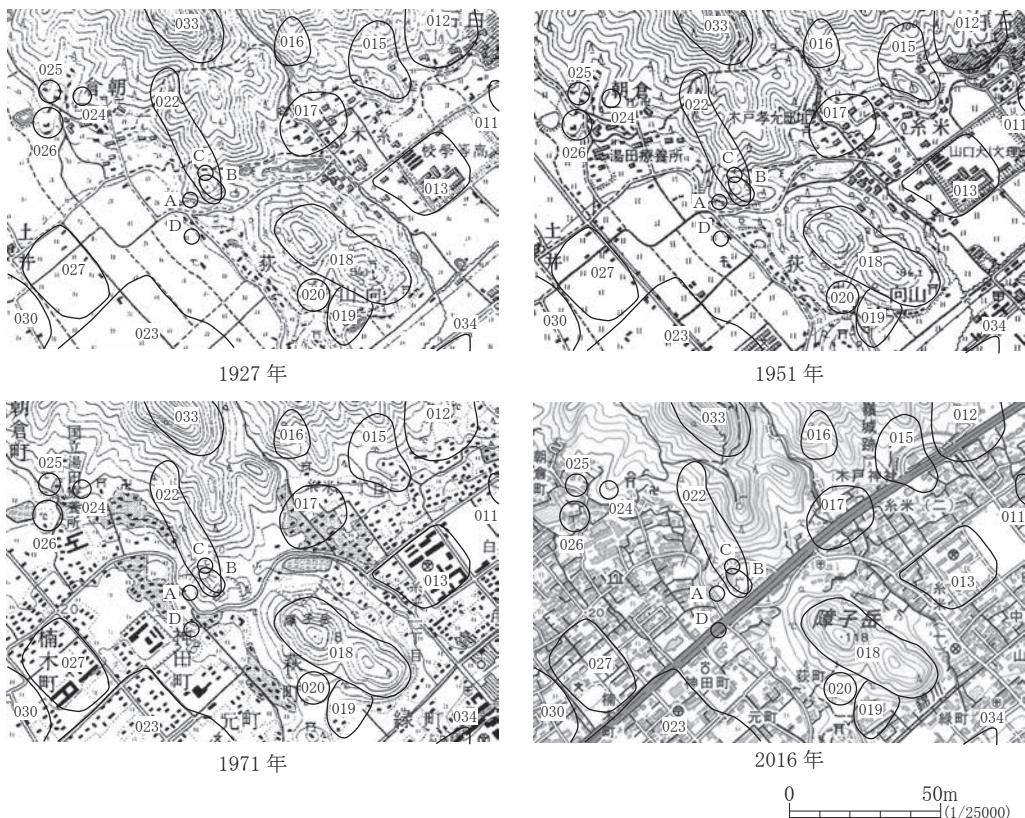
荻峠遺跡とその周辺は地形の改変が著しいため、現況と比較して旧地形を理解することが困難である。このためFig. 45では、最新のほか旧番地図³⁾（測量年：1927年・1951年・1971年）で周辺遺跡を含めた遺跡の範囲・荻峠遺跡の調査地点を示した。荻峠遺跡の指定範囲は大部分が小起伏山地で、北部の一部が砂礫台地上に位置する。⁴⁾

（1）三宅宗悦氏報告地点及び宮本光胤氏・山本博氏調査地点

荻峠遺跡に関する最初の記録は三宅宗悦氏によるものである。三宅氏は山口高等学校内（糸米庁川遺跡）の発掘調査報告⁵⁾の際、文末に遺跡一覧表を掲載した。その中に「山口町荻峠」で「彌生式土器（鉢形底部）」の記載がある。また、同氏が提示した「2 周防國吉敷郡大字上宇野町字糸米山口高等學校遺物包含地実測圖」に出土地点が記載されている。図を拡大して確認すると出土地点は標高50m付近に位置する（Fig. 45-A 地点）。1927年の地図ではこの付近に崖面がある。また、米軍撮影写真（PL. 39 (1)）でも崖面が確認できる。

宮本光胤氏・山本博氏もA地点を調査し、その結果を報告した。⁶⁾同報告によると、層厚約1m前後の包含層が崖面に露出しており、宮本氏・山本氏は弥生土器のほか、磨製石斧、砥石、敲石を採集した。⁷⁾筆者の編年観では、採集された弥生土器は中期Ⅱ～Ⅳに位置づけられる。

山口市荻峠遺跡出土土器について



| 番号 | 名称 | 時代 | 番号 | 名称 | 時代 |
|-----|---------|-------|-----|---------|----------|
| 011 | 糸米五反田遺跡 | 中世 | 022 | 荻峠遺跡 | 弥生・古墳 |
| 012 | 鴻ノ峰墳墓群 | 古墳 | 023 | 湯田条里跡 | 弥生・中世 |
| 013 | 糸米庁川遺跡 | 縄文・中世 | 024 | 祇園ヶ森古墳 | 古墳 |
| 015 | 糸米遺跡 | 弥生・古墳 | 025 | 朝倉大歳遺跡 | 弥生～中世 |
| 016 | 木戸神社古墳 | 古墳 | 026 | 朝倉遺跡 | 弥生、古墳 |
| 017 | 糸米上野遺跡 | 弥生 | 027 | 湯田楠木町遺跡 | 弥生、古墳 |
| 018 | 障子ヶ岳城跡 | 中世 | 030 | 赤妻遺跡 | 弥生、中世 |
| 019 | 障子ヶ岳南遺跡 | 弥生・古墳 | 033 | 兄弟山城跡 | 中世 |
| 020 | 権現山古墳 | 古墳 | 034 | 中込田遺跡 | 縄文、弥生、中世 |

- A 三宅宗悦氏報告地点（三宅 1927）及び
宮本光胤氏・山本博氏調査地点（宮本・山本 1937）
- B 小野忠熙氏による調査地点（小野編 1979）
- C 山口県教育委員会調査区1（森江・辻田 1974）
- D 山口県教育委員会調査区2（山口県教育委員会 1975）

※遺跡番号・遺跡名・時代・
遺跡範囲は山口市教育委員会
2016による

Fig.45 荻峠遺跡位置図

(2) 小野忠熙氏による調査地点

小野忠熙氏は『山口県の考古学』で、「昭和二十六（一九五一）、村田益男氏が花崗岩丘の麓の土取場で竪穴跡と弥生土器や炭化したドングリを発見し、著者らが探査の結果丘の頂

にも土器が出土することを明らかにした。」と記載している。『高地性集落跡の研究 資料篇』では位置・地形の特色として、「山口盆地の北部一帯につらなる丘陵の1つの頂上に立地し、盆地の主要部を見渡すことができる。四方は急崖をなし、登り降りは極めて困難。」⁸⁾と記載し、頂部を中心とする範囲を遺跡範囲としている(Fig. 45-B 地点)。1970年代には遺跡とその周辺の土取りがかなり進行しており、1971年の地図で上記の状況が看取できる。なお、『同 資料篇』では遺跡の標高110m、比高50mとしているが、1971年の地図では最高地点が約60m、破壊前の1927年、1951年の標高は約80mである。また、後述するD地点の遺構面から、比高は約61mである。

村田益男氏による調査については『島田川』掲載の「山口縣先史時代遺跡遺物発見地名表」に記載がある。¹⁰⁾上記の記載内容は下記の通りである。遺跡の種類：「竪穴・包」遺跡及び遺跡地の現況：「標高30～60m。比高14.9～44.9m。堀地～山林、山麓鞍部斜面」、遺物の種類：「彌 土 (破, 30)」、発見年月日：26. 10. 8、保管場所及び保管者：「山口大学」、備考：「附近に土師器散布、中期」。

上記と小野氏による記載「花崗岩丘の頂からその南東の丘麓にかけて立地」¹¹⁾から、村田氏の調査地点はB地点南部とその南東側であったと考えられる。前述の米軍撮影写真にと1951年の地図には、B地点南東側に土取場に該当するとみられる崖面がある。

(3) 山口県教育委員会調査区 1

1973年4月24日に内部に人骨を残す石棺1基が発見され、同年5月1～3日に山口県教育委員会により発掘調査が行われた。¹²⁾調査区の位置は注10文献図1の縮尺が小さいため判然としない。しかし、「標高約59m、水田からの比高約34mの丘陵の頂上近くに位置しているが、丘陵の周辺が削り取られたり、市道の開さくなどによって独立丘のような地貌をなしている」との記載、注10文献図版1・2で示された写真、1971年の地図から、当時残されていた山地部(Fig. 45-C 地点)であったと考えられる。

発掘調査では、最初に発見された石棺(1号石棺)ともう1基石棺(2号石棺)が検出された。1号石棺(内法幅約40cm・長さ240cm前後)は棺内全面に赤色顔料が塗布されており、頭骨を除いた1体分の人骨と鉄鏃1点が出土した。2号石棺(内法幅35～40cm、長さ約175cm)は棺内全面に赤色顔料が塗布されており、棺内から1体分の頭骨が出土した。石棺の時期は人骨を除く遺物が鉄鏃1点のみであるため、詳細は不明である。しかし、報告で山口市乘ノ尾石棺(乘ノ尾石棺群)¹³⁾、象頭山石棺(象頭山墳墓群)¹⁴⁾、茶臼山石棺(茶臼山墳墓群)、美祢市内川石棺(内川古墳)¹⁵⁾と立地・規模・構造が類似することが指摘されている。上記の

石棺は弥生時代終末期～古墳時代前期とみられることから、荻崎遺跡1・2号石棺も弥生時代終末期～古墳時代前期と考えられる。なお、A～C地点はその後削平され、現在はスカパーJSAT株式会社スーパーバード山口ネットワーク管制センター敷地となっている。

(4) 山口県教育委員会調査区2

国道9号線・山口バイパスの建設工事に伴い、1974年9月11～10月18日に山口県教育委員会によって発掘調査が実施された。¹⁶⁾調査区は山麓の傾斜面に存在した水田である(Fig. 45-D地点)。調査の結果、標高約18.5～18.7mで古墳時代の土壙1基(KP-1)と弥生時代の重複した土坑5基の土壙群(YP-2)、ドングリ(イチイガシ・アラカシの堅果)多数を含む弥生時代の土壙(YP-1)が検出されたと報告されている。筆者の編年観では、KP-1出土土器は弥生時代終末期～古墳時代前期、YP-1出土土器は弥生時代前期・弥生時代中期(中期II～III)、YP-2出土土器は弥生時代中期(中期I～II)、弥生時代終末期である。YP-1出土の弥生時代前期の土器は混入であろう。

ドングリピットであるYP-1以外の土壙の性格は不明であるが、混入とみられる弥生時代前期の土器を除くと、主体となる時期は弥生時代中期(中期II～III)、弥生時代終末期～古墳時代前期である。

3 出土土器

当館で保管されている荻崎遺跡出土土器の多くには注記がある。以下で紹介する土器の日付には1953(昭和28)年5月3日・6月10・15・17・29日・11月12日がある。また、5は注記に「南斜面」の記載があるので、B地点南側の出土と推測される。一方、推測したものと含めてA・C・D・I地区の記載がある。詳細な出土地点は不明であるが、小野氏が記載した内容と遺跡分布から、山頂部を含むB地点内の複数箇所から出土した土器と考えられる。

1～10は弥生時代中期の土器である。1は壺の口縁部。口唇部をやや肥厚させる。2は壺の胴部。外面に2条の貼付突帯、内面にミガキを施す。外面は摩滅するが突帯はその形状から逆M字状であった可能性が高い。須玖式系であろう。3は甕の口唇部。面取りを行い全面に刻目を施す。4・5は甕の口縁～胴部。4は口唇部に面取りを行う。外面にタテハケ、口縁部内面にヨコハケ・胴部内面にタテナデを施す。外面にはスヌが付着する。5は口唇部を丸くおさめる。摩滅により内外面とも調整は不明。6・7は甕の胴部。6は外面に1条の刻目突帯を施す。刻目はO字状であるが、摩滅により原体は不明。内面にはヨコミガキを施す。7も外面に1条の貼付突帯を施す。内外面ともナデを施す。8は甕の口縁～胴部。口縁部は「く」

出土土器

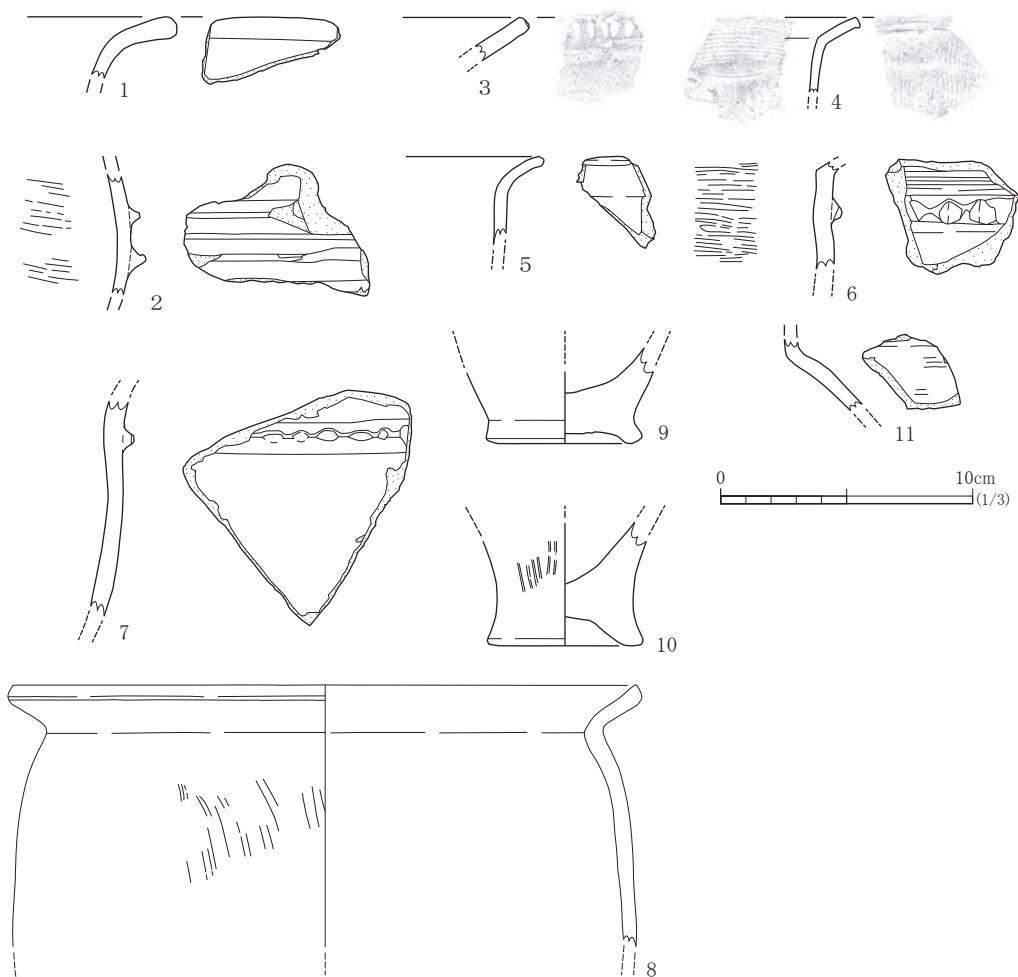


Fig.46 出土遺物実測図(土器)

字状に外反し、胴部がやや張り出す。口縁部内外面はヨコナデ、胴部外面はタテミガキを施す。胴部内面の調整は摩滅で判然としないが、タテハケ後ナデとみられる。9・10は甕の底部。いずれも底部がやや張り出し、上げ底である。以上の土器は、1・3～8が中期Ⅱ～Ⅲ、2が中期Ⅲ～Ⅳ、9・10が中期Ⅱ～Ⅳの時期幅で捉えられる。主体は中期Ⅱ～Ⅲである。

11は弥生時代終末期～古墳時代前期の小型壺の胴部で、外面にヨコミガキ、内面にはナデを施す。この他、図化していないが内外面にミガキを施す壺胴部片(PL. 39)がある。時期の断定はできないが、弥生時代中期の可能性が高い。注記は「ogi D 28. 11. 12」である。

4 考察

以上の検討結果から、各地点・調査区については下記のようにまとめることができる。A 地点では時期不明の鉢の底部、石器（磨製石斧・砥石・敲石）、中期Ⅱ～Ⅳの土器、山頂部を含むB 地点では弥生時代中期（中期Ⅱ～Ⅳ）の土器が採集された。またB 地点南部から南東側においても弥生時代中期の土器が採集され、B 地点南東側では堅穴も確認された。発掘調査では、C 地点で弥生時代終末期～古墳時代前期の石棺2基、D 地点では、弥生時代中期（中期Ⅱ～Ⅲ）の土壙1基、弥生時代中期（中期Ⅰ～Ⅱ）・弥生時代終末期の重複した土壙5基、弥生時代終末期～古墳時代前期の土壙1基が検出された。

B 地点出土土器から、山頂部に集落が存在したのは中期Ⅱ～Ⅳと考えられる。荻峠遺跡の南西約1kmには、中期Ⅱの環濠集落である朝田墳墓群第Ⅱ地区¹⁷⁾、北西約1kmには環濠が存在したとされる亀山遺跡（中期Ⅱ～Ⅳ）がある。B 地点の山頂部付近から南東側の山口市大内方面は障子ヶ岳により見通せないが、南西側では朝田墳墓群第Ⅱ地区、さらにその先の当時は海であったとみられる新山口駅北側、北東側では亀山遺跡を見通すことができた。一方、亀山遺跡からは山口市大内の一部と新山口駅北側の一部を見通せるが、障子ヶ岳により朝田墳墓群第Ⅱ地区を見通すことができない。上記を踏まえれば、荻峠遺跡は山口盆地の櫛野川右岸における情報伝達・物流上の拠点的な集落であった可能性がある。一方、D 地点でも中期Ⅱ～Ⅲの土器を出土した遺構が検出されていること、詳細な時期は不明だがB 地点南部から南東側でも弥生時代中期の土器が採集されていることから、中期Ⅱ～Ⅲには山頂部と山麓部に集落が存在したと考えられる。なお、亀山遺跡の東の麓に位置する松柄遺跡¹⁸⁾でも弥生時代中期の土器が出土し、朝田墳墓群第Ⅱ地区の南西約130mの地点でも弥生時代中期～終末期の土器が出土していることから、同様な状況を両遺跡でも想定できる。ただし、いずれも資料が少ないと、実年代幅からこれらの高地性集落と山麓部の集落が同時期に存在した可能性については断定困難である。

上記を検討する上で参考となるのが防府市大崎遺跡の状況である。同遺跡では丘陵頂部に中期Ⅱ～Ⅲの環濠集落があり、穂積みされた状態の稻が出土している。また、低地部には中期Ⅱ～Ⅲの小規模な集落と水田に関連するとみられる中期以降の用水路が検出されている。上記から、周防の高地性集落には単独で存在せず、その麓には小規模な集落と水田などの生産域が存在する類型が想定できるので、今後の発掘調査を踏まえた検討を待ちたい。

なお、荻峠遺跡のYP-1の花粉分析では、アカガシ亜属の花粉が優占でイネ科の花粉はきわめて少ないとことなどから、「YP-1形成当時の荻峠遺跡周辺は森林密度のいちじる

しく高いカシ・シイ林で被われていたことを示している」と分析されている。²²⁾ 上記からD地点に存在した集落は小規模であり、関連する水田等の生産域は湯田楠木町遺跡や湯田条里跡が位置する南西側に存在したと推測する。

弥生時代終末期～古墳時代前期については情報が少ないが、C地点及びその周辺に墓地が存在したほか、B地点の土器、村田氏の調査から集落も存在した可能性がある。

5 おわりに

本稿では、荻崎遺跡の既往の調査地点・内容の整理と当館所蔵資料の紹介を行い、荻崎遺跡の位置づけについて考察した。その結果、荻崎遺跡には弥生時代中期（中期Ⅱ～Ⅲ）に山頂部と山麓部に集落が存在したこと、山頂部の標高・比高は修正が必要であることを指摘した。また、山頂部～山麓部に存在した集落は、山口盆地における樋野川右岸の情報伝達・物流上の拠点的な集落であった可能性を考えた。先行研究との関連や山口盆地全体の集落遺跡の動向等については、別稿で改めて検討を行いたい。

本稿はJSPS科研費（20K01074）の研究成果の一部を含む。

[注]

- 1) 小野忠熙『山口県の考古学』、吉川弘文館、1985年
- 2) 小野忠熙編『高地性集落跡の研究 資料篇』、学生社、1979年
- 3) Fig. 45では下記の地図を使用した。測量年：1927年（陸地測量部1930年発行 25000分の1地形図「山口」）、1951年（地理調査所1954年発行 25000分の1地形図「山口」）、1971年（国土地理院1973年発行 25000分の1地形図「山口」）、2016年（国土地理院2016年発行 25000分の1地形図「山口」）
- 4) 遺跡の地形分類は山口県環境生活部環境政策課の快適環境づくりシステム地理情報システム（<https://eco-gis.pref.yamaguchi.lg.jp/>）による。
- 5) 三宅宗悦「周防國吉敷郡山口町糸米山口高等學校構内土器包含地發掘調查報告」（山口高等學校歴史教室『山高郷土史研究會考古學研究報告書－台覽記念號』、1927年）
- 6) 宮本光胤・山本博1937「山口市吉敷附近の彌生式遺跡」（『考古學雑誌』第27卷10号、1937年）
- 7) 田畠直彦「周防・長門における弥生時代前期から古墳時代前期前半の土器編年をめぐる研究史と今後の課題」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成22年度－』、2014年）
- 8) 前掲注1文献
- 9) 前掲注2文献

山口市荻崎遺跡出土土器について

- 10) 小野忠熙編「山口縣先史時代遺跡遺物発見地名表」（『島田川 周防島田川流域の遺跡調査研究報告』、1953年）
- 11) 前掲注1文献
- 12) 森江直紹・辻田耕次「荻崎石棺」（『山口県文化財』第4号、1974年）
- 13) 山口県教育委員会『内川古墳・乗ノ尾遺跡』、1973年
- 14) 山口市教育委員会『茶臼山石棺群・大伴石棺調査報告書』、1978年
- 15) 前掲注13文献
- 16) 山口県教育委員会「荻崎遺跡」（『下東遺跡・荻崎遺跡』、1975年）
- 17) 山口県教育委員会『朝田墳墓群V』、1982年
山口県教育委員会『朝田墳墓群VI』、1983年
(財) 山口県ひとづくり財団 山口県埋蔵文化財センター『朝田墳墓群VII』、2009年
- 18) 田畠直彦「12 亀山遺跡」（『山口市史 資料編』考古・古代、2012年）
- 19) 浜田清吉『山口市後河原の遺物発見地』山口大学教育学部、1953年
- 20) 山口県教育委員会『朝田墳墓群II・鴻ノ峰I号墳』、1977年
- 21) 田畠直彦「山口県佐波川流域の弥生集落」（『古文化談叢』75、2016年）
- 22) 那須孝悌「山口市荻崎遺跡貯蔵穴中の植物遺体及び花粉（予察）」（『下東遺跡・荻崎遺跡』、1975年）

Tab.9 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値 ●は不明

| 遺物番号 | 出土地区・遺構 | 層位 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 色調 ①外側②内面 | 胎土 | 備考 |
|------|---------|----|---------------|-------|--------|--------|--------|-------------------|-------------------|-----------------------------|
| 1 | | | 弥生土器 壺 | 口縁部 | | | | ①②橙色 | 0.5~2mmの砂粒を含む | ●(2か) 6.15荻崎 ●(A) |
| 2 | | | 弥生土器 壺 | 胴部 | | | | ①にぶい黄色 ②にぶい黄褐色 | 0.5~1.5mmの砂粒を少量含む | 28.6.15荻崎 (A) 須玖式系 |
| 3 | | | 弥生土器 甕 | 口縁部 | | | | ①灰色 ②にぶい黄褐色 | 0.5~2mmの砂粒を少量含む | 28.6.10 ogi |
| 4 | | | 弥生土器 甕 | 口縁~胴部 | | | | ①②灰色 | 0.5~2mmの砂粒を少量含む | ogi● (Dか) 28.11.12 |
| 5 | | | 弥生土器 甕 | 口縁~胴部 | | | | ①②にぶい黄橙色 | 0.5~4.5mmの砂粒を少量含む | 28.6.17 ogi● (Iか) 地区 |
| 6 | | | 弥生土器 甕 | 胴部 | | | | ①にぶい黄橙色 ②褐色 | 0.5~1.5mmの砂粒を含む | 荻崎南斜面S28.5.3 |
| 7 | | | 弥生土器 甕 | 胴部 | | | | ①橙色 ②浅黄色 | 0.5~3mmの砂粒を含む | ogi 荻崎 (A) 28. ●(5か).2 |
| 8 | | | 弥生土器 甕 | 口縁~胴部 | (24.7) | | | ①②にぶい橙色 | 0.5~3mmの砂粒を含む | 荻崎二八.六.二十九. No.12 |
| 9 | | | 弥生土器 甕 | 底部 | | 6.2 | | ①黄橙色 ②黄色・黄灰色 | 0.5~3mmの砂粒を含む | 荻崎No.3 |
| 10 | | | 弥生土器 甕 | 底部 | | (6.1) | | ①②橙色 | 0.5~3mmの砂粒を含む | ogi 荻崎 (A) No.5●● (北か) 区 |
| 11 | | | 弥生土器もしくは土師器 壺 | 胴部 | | | | ①橙色 ②明黄褐色 | 0.5~1mmの砂粒を含む | ogi C地区● (2か) 8●11 |

山口大学構内遺跡調査要項

山口大学埋蔵文化財資料館規則

(設置)

第1条 山口大学に山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）を置く。

(資料館の業務)

第2条 資料館は、学内の共同利用施設として、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 山口大学構内等から出土した埋蔵文化財の収蔵・展示及び調査研究
- (2) 山口大学構内における埋蔵文化財の発掘調査並びに報告書の刊行
- (3) その他の埋蔵文化財に関する必要な業務

(運営委員会)

第3条 資料館に関する事項を審議するため、山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関する規則は、別に定める。

(館長)

第4条 資料館に館長を置く。館長は委員会の議を経て学長が委嘱する。

- 2 館長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 館長は、資料館の業務を掌理する。

(調査員)

第5条 資料館に調査員若干名を置く。

- 2 調査員は、委員会の議を経て館長が委嘱する。
- 3 調査員は、資料館の業務を処理する。

(特別調査員)

第6条 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若干名を置くことができる。

- 2 特別調査員は、委員会の議を経て館長が委嘱する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、資料館に必要な事項は別に定める。

山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学埋蔵文化財資料館規則（昭和53年規則第39号。以下「資料館規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）に関する基本的なこと。
- (2) 資料館の管理運営に関すること。
- (3) 資料館の整備充実に関すること。
- (4) 資料館の運営に要する経費に関すること。
- (5) その他必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 資料館規則第4条第1項の館長
- (2) 各学部の教官各1名
- (3) 事務局長

2 前項第2号の委員は、それぞれの部局の推薦に基づいて学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、庶務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、庶務部庶務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

Tab.10 山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会委員
(平成11年度)

| 部局名 | 氏名 | 官職 | 任定期 | 備考 |
|------|------|---------------------|-------------------|-------------------------|
| 人文学部 | 橋本義則 | 教授 | 平11.4.1～平13.3.31 | |
| 教育学部 | 末島浩 | 教授 | 平10.4.1～平12.3.31 | 資料館長事務取扱 (～平11.7.15) |
| 経済学部 | 木部和昭 | 講師 助教授(平11.8.1～) | 平11.4.1～平13.3.31 | 委員長 |
| 理学部 | 加納隆 | 教授 | 平11.7.16～平13.7.15 | 館長 (平11.7.16～) |
| 理学部 | 福地龍郎 | 講師 | 平11.4.1～平13.3.31 | |
| 医学部 | 福本哲夫 | 教授 | 平10.4.1～平12.3.31 | |
| 工学部 | 中園眞人 | 教授 | 平11.4.1～平13.3.31 | |
| 農学部 | 高橋肇 | 助教授 | 平10.4.1～平12.3.31 | |
| 事務局 | 高石道明 | 事務局長 | 平10.4.1～平12.3.31 | |

山口大学構内の主な調査

Tab.11 山口大学構内の主な調査一覧表

吉田構内

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (nf) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|-----------------------|--|----|------------|-----------------------|----------------------------------|------|-------------------------|-----------------|
| 昭和41年 | 第I地区A・B区 | L～N-15 | 1 | 30? | 土壙・柱穴 | 弥生土器、土師器、須恵器 | 事前 | 調査担当 小野忠熙 | 年報 XII-XIII |
| | 第II地区家畜病院新營 | R-20・21 S・T-19・20 | 2 | 2,000 | 溝、柱穴 | 弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器 | " | " | 年報 3 |
| | 第II地区 | | 3 | | | 弥生土器、土師器 | 試掘 | " | |
| | 第IV地区牛舎新營 | S・T-10・11 | 4 | 300 | 弥生溝・土壙、古墳堅穴住居、中世住居跡・溝 | 弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器 | 事前 | " | 年報 14 |
| | 第IV地区 | | 5 | | | | 試掘 | " | |
| 昭和42年 | 第III地区杭列区 および陸上競技場 | D-19・20 E-17・19～21 F-17・18 | 6 | 1,600 | 杭列、弥生堅穴住居 | 弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、矢板状木杭 | 事前 | " | |
| | 第III地区南区 | G-21～23 H-22 | 7 | | 河川跡、柱穴 | 縄文土器、弥生土器、木器、石器 | " | " | |
| | 第III地区北区 | H-20 I-19～21 J-20・21 | 8 | 1,400 | 堅穴住居・溝、 土壙、柱穴 | | " | " | |
| | 第III地区東南区 | G-23 H-23・24 I・J-24 K-23・24 L-23 | 9 | | 弥生堅穴住居 | 弥生土器 | " | " | |
| | 第III地区野球場 | | 10 | | 中世柱穴 | 瓦質土器 | 試掘 | " | |
| | 第V地区学生食堂 | J-20 | 11 | | 弥生溝、古墳土壙 | 弥生土器、土師器 | 事前 | " | |
| | 第V地区 | | 12 | | 河川跡、柱穴、土壙 | 弥生土器、土師器 | 試掘 | 調査担当 山口大学吉田 遺跡調査団 | |
| | 第I地区C区 大学本部新營 | K・L-14 | 13 | 600 | 堅穴住居・溝、土壙 | 土師器、須恵器、瓦質 土器 | 事前 | " | |
| | 第V地区教育学部 | | | | 河川跡 | 弥生土器、土師器、 須恵器 | 試掘 | " | |
| | 第I地区D区第1地点 | L-13 | 14 | | 近世大溝 | 弥生土器、木炭屑、 | " | " | |
| 昭和46年 | 第I地区D区第2地点 | L-13 | 15 | | | 弥生土器、土師器、 瓦質土器、石鍋 | " | " | |
| | 第I地区D区第3地点 | M-13・14 | 16 | | 土壙、柱穴 | 弥生土器、瓦質土器 | " | " | |
| | 第I地区D区第4地点 | M・N-14 | 17 | | 土壙、柱穴 | 弥生土器、土師器、 瓦質土器、石器 | " | " | |
| | 第I地区D区第5地点 | L-12・13 | 18 | | 弥生溝 | 弥生土器、土師器 | " | " | |
| | 第I地区D区第6地点 | M-13 | 19 | | 柱穴 | 弥生土器、土師器、 石器 | " | " | |
| | 第I地区D区第7地点 | M・N-13 | 20 | | | 須恵器 | " | " | |
| | 第I地区E区 第2学生食堂新營 | M・N-14・15 O-15 | 21 | 900 | 古墳堅穴住居・土壙 溝、柱穴 | 弥生土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 石器、鉄製品 | 事前 | " | 年報 XII-XVIII |
| 昭和50年 | 第II地区 | | | | | 弥生土器 | 試掘 | " | |
| 昭和51年 | 第III地区 | | | | 堅穴住居 | 弥生土器、土師器、 須恵器 | " | " | ① |
| 昭和53年 | 人文学部校舎新營 | M・N-21 | 22 | 160 | | | " | 調査担当 近藤喬一 | 年報 X |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|-------------------------|----------------------------|----|-------------------------|-------------------------------|---|------|--------------------------|--------|
| 昭和54年 | 教育学部附属養護学校新營 | A-20・21 B-19・20 C-19 | 23 | 410 | 溝、土壤 | 縄文土器、弥生土器 | 試掘 | 山口大学埋蔵文化財資料館 山口市教育委員会 | 年報IX |
| | 理学部校舎新營 | N・O-19・20 | 24 | 250 | | | " | | 年報X |
| | 農学部動物舍新營 | P-19 | 25 | 380 | | | " | | |
| | 本部管理棟新營 | L-14 | 26 | 740 | 溝、土壤、柱穴、 中世井戸、土壤墓、 住居跡 | 弥生土器、土師器、 石製品 | 事前 | | 年報VIII |
| 昭和55年 | 経済学部校舎新營 | K-21 | 27 | 66 | | | 試掘 | | 年報X |
| | 農学部農業観測実験施設新營 | P・Q-15 | 28 | 50 | 溝、土壤 | | 事前 | | |
| | 本部環境整備 | E-14～16 F-15・16 | 29 | | | | 立会 | | |
| | 農学部環境整備 | N-11 O-10・11 P-9・10 | 30 | | | | " | | |
| 昭和56年 | 教育学部校舎新營 | H-19 | 31 | | 弥生堅穴住居 土壤、溝、柱穴 | 弥生土器、石製品 | 事前 | | 年報I |
| | 教育学部音楽棟新營 | H-16 | 32 | | 溝 | | " | | |
| | 教育学部美術科・ 技術科実験実習棟新營 | J・K-19・20 | 33 | | 旧河川、溝、柱穴 | 縄文土器、弥生土器、 須恵器、土師器 | " | | |
| | 正門橋脚新營 | I-11 | 34 | | | | 立会 | | |
| | 時計塔埋設 | I-14 | 35 | | | | " | | |
| | 本部構内擁壁取設 | K・L-13・14 | 36 | | | | " | | |
| | 教養部構内擁壁取設 | I-15～17 J-17 | 37 | | | | " | 工法等変更 | |
| | 構内循環道路舗装 | J～M-15 M・N-16 | 38 | | | | " | | |
| | 農学部中庭整備 | N・O-17 | 39 | | | | " | | |
| | 暖房施設改修 | O-16 | 40 | | | | " | 工法等変更 | |
| | 学生部文化会庫新營 | M-8・9 | 41 | | | | " | 工法等変更 | |
| | 学生部馬場整備 | M・N-8・9 | 42 | | | | " | | |
| 昭和57年 | 附属図書館増築 | L・M-16 | 43 | 600 | 弥生～古墳溝、 土壤、柱穴、杭列 | 弥生土器、土師器、 須恵器、石器 | 事前 | | 年報II |
| | 大学会館新營 | M・N-14・15 | 44 | 130 | 弥生堅穴住居、溝 | 弥生土器 | 試掘 | | |
| | 教育学部附属養護 学校プール新營 | A・B-21 | 45 | 880 | | | 立会 | | |
| | 放射性同位元素総合実験室 排水樹新營 | O-18 | 46 | 2 | | | " | | |
| | 教養部自転車置場 昇降口新營 | L-17 | 47 | 10 | | | " | | |
| | 教養部中庭環境整備 | J・K-16 | 48 | 150 | | | " | | |
| 昭和58年 | 大学会館新營 | M・N-12・13 | 49 | 2,000 | 古墳井戸、土壤、 柱穴、中世井戸、 掘立柱建物 | 弥生土器、土師器、 須恵器、輸入陶磁器 国産陶器、瓦質土器 綠釉陶器、木簡、石器 | 事前 | | 年報III |
| | ラグビー場防球ネット新營 | G-18・19 H-19・20 | 50 | 114 | 弥生溝、弥生～古墳 堅穴住居、土壤 | 弥生土器、土師器、 石製品 | " | 堅穴住居は工法 変更により現地 保存 | |
| | 理学部大学院校舎新營 | M・N-20 | 51 | 409 | | | 立会 | | |
| | 正門・南門二輪車置場 および正門花壇新營 | I・J-12・13 H-23 | 52 | 183 | | | " | | |
| | 学生部アーチェリー場 的台・電柱設置 | N-8・9 | 53 | 33 | | | " | | |
| | 学生部厩舎整備 | M-7・8 | 54 | 1.6 | | | " | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|---------------------------|------------------------------------|----|-------------------------|---------------------------------------|---|------|------|--------|
| 昭和58年 | 学生部野球場散水栓取設 | I-21 K-22 | 55 | 1 | | | 立会 | | 年報 III |
| | 教養部環境整備 | I-15・16 J-15 K-17・18 L-18 | 56 | 81 | | | " | | |
| | 学生部テニスコート改修 | C-18 D-17 E-15・16 F-16 | 57 | 12 | | | " | | |
| 昭和59年 | 大学会館ケーブル布設 | N-12 | 58 | 160 | 弥生土壇、柱穴 | 弥生土器 | 事前 | | 年報 IV |
| | 大学会館排水管布設 | J～L-13 | 59 | 180 | 弥生～中世遺物包含層、古墳土壇、古代～中世土壇、溝、柱穴 | 弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦質土器 | " | | |
| | 学生部テニスコートフェンス改修 | B-17 C-16・17 D-16 E-15 | 60 | 25 | 古墳以降の遺物包含層 | 土師器 | 試掘 | | |
| | 経済学部樹木移植 | K-19・21 | 61 | 8 | | | 立会 | | |
| 昭和60年 | 大学会館環境整備 | L-14・15 M・N-15 | 62 | 592 | 弥生～中世遺物包含層、弥生堅穴住居、貯蔵穴、土壇、古代～近世土壇、溝、柱穴 | 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、輸入磁器、國產陶磁器、土製品、石斧、原石、鐵器、窯壁 | 試掘 | | 年報 V |
| | 経済学部環境整備(樹木移植) | K・L-20 | 63 | 5 | | | 立会 | | |
| | 農学部附属農場飼料園排水溝修復整備 | R-17～19 | 64 | 30 | 古代末～中世河川跡 | 須恵器、土師器、輸入陶磁器、轆口、石器、鐵滓 | " | | |
| | 農学部附属農場農道改修 | V-15～17 | 65 | 325 | | | " | | |
| | 教育学部前庭環境整備(樹木移植) | I・J-19 | 66 | 430 | | | " | | |
| | 中央ボイラー棟車止設置 | O・P-16 | 67 | 2.5 | | 須恵器 | " | | |
| | 大学会館環境整備(樹木移植) | M-15 | 68 | 9 | | 弥生土器、土師器、須恵器、石鍋、砥石、鐵滓 | " | | |
| | 交通標識設置 | J-20 N-14 P-18 | 69 | 3 | | | " | | |
| | 農学部解剖実習棟周辺環境整備(実験動物運動場設置) | Q-18 | 70 | 16 | | | " | | |
| | 理学部環境整備(藤棚設置) | N-21 | 71 | 4 | | | " | | |
| 昭和61年 | 農学部附属家畜病院舎装 | S・T-19 | 72 | 270 | | | " | | 年報 VI |
| | 国際交流会館新嘗 | M-22・23 N-22 | 73 | 70 | 弥生～古墳河川跡 中世～近世溝 | 弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器、鐵砲玉、加工痕のある剥片 | 試掘 | | |
| | 山口銀行現金自動支払機設置(電線路埋設) | J-19 | 74 | 11 | 包含層(河川跡か) | 弥生土器 | 立会 | | |
| | 農学部附属農場農道整備 | S-20 T・U-19 | 75 | 165 | 中世溝、柱穴 | 土師器、瓦質土器 | " | 工法変更 | |
| | 農学部附属農場農道交通規制(施錠ボール設置) | M-10 P-15 Q-15～17 | 76 | 12 | | | " | | |
| | 正門横(水田内)境界杭設置 | J-10 | 77 | 0.25 | 包含層か | | " | | |
| | 経済学部環境整備(樹木移植・記念碑建立) | L-20 | 78 | 3 | | | " | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積(m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|-----------------------------|---|-----|---------------------|--|---|------|--------------------------|-------|
| 昭和61年 | 吉田構内交通標識設置 | G-23 K-9 O-22 S-20 V-17 | 79 | 3 | | 須恵器 | 立会 | | 年報VI |
| | 市道神郷1号線および間田神郷線の送水管埋設 | B-17・18 C-18・19 D-19・20 E-20・21 F-21・22 G-22・23 H-23・24 I・J・K-24 L-23・24 M・N-23 O-22・23 P・Q-22 R-21・22 S-21 T-20・21 U-19・20 V-18・19 W・X-18 | 80 | 2,100 | 古墳・弥生溝、古代河川跡、弥生包含層 | 弥生土器、土師器、須恵器(墨書きのあるもの含む)瓦質土器、製塩土器、石斧、板石 | 立会 | 山口市教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館 | |
| | 教養部自動販売機埋設(屋根設置および観覧席移動) | K・L-18 | 81 | 3.5 | | | " | | |
| | 教養部身体障害者用スロープ取設 | L-15・16 | 81 | 3 | | | " | | |
| | 経済学部散水線取設 | L-20 | 83 | 4 | | | " | | |
| | 吉田構内水泳プール改修等 | E-15 F-15・16 H-15 | 84 | 26.5 | 包含層 | | " | | |
| | 農学部附属農場水道管理設 | S-12 | 85 | 3 | | | " | | |
| | 吉田構内污水排水管等総改修 | M-18 O-15 | 86 | 15.5 | | 土師質土器 | " | | |
| | 本部身体障害者用スロープ取設 | L-14 | 87 | 12 | | | " | | |
| | 経済学部身体障害者用スロープ取設 | K-18～20 L-18 | 88 | 78 | | | " | 工法等変更 | |
| | 附属図書館荷物運搬用スロープ取設 | L-16 | 89 | 8 | | 弥生土器 | " | | |
| | 教養部37番教室改修 | K-16 | 90 | 1 | | | " | | |
| 昭和62年 | 教育学部附属教育実践研究指導センター新営 | J・K-18・19 | 91 | 240 | | プランク、削器、植物遺体 | 事前 | | 年報VII |
| | 教養部複合棟新営 | J・K-17 | 92 | 35 | 埋甕土壙、溝、柱穴 | 土師器、須恵器、土師質土器、石斧 | 試掘 | | |
| | 教養部複合棟新営 | I・J-16 | 93 | 30 | 溝状遺構 | 弥生土器 | 立会 | | |
| | 教養部複合棟新営 | J・K-17・18 | 94 | 900 | 落し穴、河川跡、豎穴住居、土壙、溝、井戸、埋甕土壙、掘立柱建物跡、谷状遺構、柱穴 | 繩文土器、土師器、須恵器、土師質土器、須恵質土器、陶磁器石鱗、石斧、木製品 | 事前 | | |
| | 九田川局部改修 | B-16・17 C-16 | 95 | 20 | | | 立会 | 山口県教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館 | |
| | 国際交流会館新営 | M・N-22・23 | 96 | 195 | | | " | | |
| | 教育学部附属養護学校自転車置場移設 | B-20 | 97 | 1 | | | " | | |
| | 農学部附属農場E7圃場排水管理設及びE6圃場進入路拡幅 | L～N-12 | 98 | 55 | 中世土壙墓か | 弥生土器、土師器、須恵器、輸入白磁国産磁器、敲石 | " | | |
| | 農学部植栽 | N-17 | 99 | 3 | | | " | | |
| | 経済学部集水樹取設 | J-20 | 100 | 0.5 | | | " | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積(m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|-------------------------------------|--------------------------------------|-----|---------------------|-------------|-------------------------------|------|-------|--------|
| 昭和63年 | 教養部複合棟新營に伴う自転車置場移設 | I-16 | 101 | 1 | 包含層か | | 立会 | | 年報VIII |
| | 国際交流会館新營に伴う排水管理設 | N・O-22 | 102 | 35 | 河川跡(溝か)、包含層 | 弥生土器、須恵器 | " | | |
| | 教養部複合棟新營に伴うケーブル埋設 | J-18 | 103 | 1 | | | " | | |
| | サッカー・ラグビー場改修 | F-19・21 G-18 | 104 | 25 | 性格不明 | 弥生土器 | " | | |
| | 消防用水設置 | K～M-22 | 105 | 7.5 | | | " | | |
| 平成元年 | 水銀灯新營 | J・L-15 | 106 | 4 | 古墳溝状遺構柱穴 | 弥生土器、土師器、須恵器、六連式製塙土器 | 事前 | | 年報IX |
| | 椹野寮ボイラー設備改修 | O-20・21 | 107 | 25 | | | 立会 | | |
| | 野球場防球ネット新營 | H-22 I-21・22 J・K-21 | 108 | 7 | 包含層 | 弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器 | " | | |
| | 防火水槽配管布設 | K-21・22 | 109 | 15 | 柱穴 | | " | | |
| | 吉田寮ボイラー設備改修 | M-8 | 110 | 4 | | | " | | |
| | 体育施設系給水管改修 | G・H-16 | 111 | 50 | | 陶器 | " | 工法等変更 | |
| | 大学会館前記念植樹 | M-13 | 112 | 6 | | | " | | |
| | 吉田寮ボイラー棟地下貯油槽設備改修 | M-8 | 113 | 45 | 包含層 | 土師器、須恵器、土師質土器、陶器、剥片、二次加工のある剥片 | " | | |
| | 第2武道場排水溝新營 | G-15 | 114 | 2 | 溝 | | " | | |
| | 案内標識設置 | I-14 L-18 | 115 | 0.5 | | | " | | |
| | 本部車庫給水管改修 | L-13 | 116 | 6.5 | | 弥生土器 | " | | |
| | 大学会館前庭環境整備 | N-14・15 | 117 | 35 | 中世溝 | | " | | |
| 平成2年 | 大学会館前庭環境整備 | M-15 | 118 | 2 | | | " | | 年報X |
| | 第1学生食堂設備改修 | I・J-19 | 119 | 7 | | | " | | |
| | 教育学部附属養護学校案内板設置 | E-20 | 120 | 1 | | | " | | |
| 平成3年 | 農学部連合獣医学科棟新營 | O・P-17 | 121 | 76 | 縄文河川 | 縄文土器、石器 | 試掘 | | 年報XI |
| | 農学部仮設プレハブ倉庫設置 | P-17 | 122 | 6 | | 須恵器 | 立会 | | |
| | 農学部微生物実験室その他模様替機械設備改修 | P-17 | 123 | 8 | | | " | | |
| | 大学会館前庭記念植樹 | L・M-15 | 124 | 2 | | | " | | |
| | サークル棟新營 | F-14 | 125 | 1 | | | " | | |
| 平成4年 | 農学部連合獣医学科棟新營 | O・P-17 | 126 | 980 | 縄文河川 | 縄文土器、石器 | 事前 | | 年報XII |
| | 交通規制標識及びバリカーセット | H-22 M-10 O-22 R-19 S-20 | 127 | | | | 立会 | | |
| | 吉田構内道路(南門ロータリー)取設 | H-23 | 128 | 40 | | | " | | |
| | ボイラー室給水管漏水補修 | O-16 | 129 | 4 | | | " | | |
| | 農学部附属農場ガラス室新營 | S-14 | 130 | 3.5 | | | " | | |
| | 大学会館前庭記念植樹 | L・M-15 | 131 | 3 | | | " | | |
| | 泉町平川線緊急地方道路整備工事及び山口大学吉田団地環境整備(正門周辺) | E-11・12 | 132 | | | | " | | |
| | 泉町平川線緊急地方道路整備(信号機設置) | I-11 | 133 | 7 | | | " | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (㎡) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|------|-------------------------|--|-----|-----------|------------------------------------|--|------|-------|---------|
| 平成5年 | 本部裏給水管埋設 | K～M-13 | 134 | 70 | 溝、柱穴 | 弥生土器、土師器 滑石製模造品 | 事前 | | 年報 XIII |
| | 人文学部・理学部 講義棟新嘗 | M-20 | 135 | 4 | | | 試掘 | | |
| | 第2屋内運動場氏寧 | G・H-16 | 136 | 144 | 溝 | 弥生土器、須恵器 砥石 | " | | |
| | 農学部給水管埋設 | N～P-18 | 137 | 9 | | | " | | |
| | 基幹整備 (屋外他給水管改修) | L-15 M-17・18 | 138 | 16 | | | 立会 | | |
| | 農学部連合獣医学科棟新嘗 電気設備 | O-16 | 139 | 4 | | | " | | |
| | 大学会館前庭バリカ一設置 | N-14 | 140 | 1 | | | " | | |
| | 大学会館前庭記念植樹 | L-15 | 141 | 1.6 | | | " | | |
| | 九田川河川局部改良 | C-16 D-15・16 | 142 | 40 | | | " | | |
| | 農学部電柱立替 | V-17 | 143 | 0.2 | | | " | | |
| | 農学部ガラス室設置 | S-14 | 144 | 10 | | | " | | |
| | 教育学部給水管埋設 | H・J-19 | 145 | 15 | | | " | | |
| | 環境整備(大学会館前庭) | L-14 M-13～15 N-14・15 | 146 | 140.9 | | | " | | |
| | 環境整備(遺跡保存地区) | H-20 I-19～21 J-20・21 | 147 | 361 | | | " | | |
| | 環境整備(正門周辺) | G-13 H-12 | 148 | 350 | | | " | | |
| 平成6年 | グランド屋外照明施設新設 | E-20 F-21 G-18・22 H-19・20 I-21 | 149 | 600 | 縄文河川、弥生住居、 溝、土坑、弥生～古 墳河川、近世溝 | 縄文土器、弥生土器、土 師器、ガラス小玉、砥石、 磨石、敲石 | 事前 | 工法等変更 | 年報 XIV |
| | 第2屋内運動場新嘗 | G・I-15・16 | 150 | 726 | 弥生～古代溝、貯蔵 穴、土坑、近世溝、 土坑 | 弥生土器、土師器、須 恵器、砥石、磨石、敲石、 剥片、須恵器、瓦質土 器、土師質土器、陶器、 磁器、瓦、下駄 | " | | |
| | グランド屋外照明施設 配線埋設 | F-21 G-20・21 H-19・20 | 151 | 200 | 縄文河川、弥生住居、 溝、土坑、弥生～古 墳河川、近世溝 | 縄文土器、弥生土器、土 師器、ガラス小玉、砥石、 磨石、敲石 | " | 工法等変更 | |
| | 経済学部商品資料館新嘗 | K・L-21 | 152 | 87.5 | 河川 | 陶器、磁器 | 試掘 | | |
| | 実験廃液処理施設棟新嘗 | H-12・13 | 153 | 2 | 河川 | | " | | |
| | 体育器具庫及び便所新嘗 | G・H-17 | 154 | 60 | 河川 | | " | 工法等変更 | |
| | 経済学部商品資料館 仮設電柱設置 | L-22 M-22・23 | 155 | 5 | | | 立会 | | |
| | 人文学部前駐車場整備 | K-23 L-22・23 | 156 | 6 | | | " | | |
| | 教育学部附属養護学校 生活排水管改修 | F-19 | 157 | 2 | | | " | | |
| | テニスコート改修 | B-17 C-16・18 D-15～17 E-15・16 | 158 | 15 | | | " | | |
| | 教育学部附属養護学校 生活訓練施設棟新嘗 | B-20～22 C-20 | 159 | 16 | | | " | | |
| | 陸上競技場整備 (透水管埋設) | C-18 D-18・19 | 160 | 200 | | | " | | |
| | ハンドボール場改修 (プレハブ設置) | K-22 | 161 | 30 | | | " | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|------|----------------------------------|--|-----|-------------------------|-------------|--------------|------|----|-------|
| 平成6年 | 野球場フェンス改修 | H-22 I-21・22 | 162 | 3 | | | 立会 | | 年報XIV |
| | 基幹環境整備 (ボイラー室配電盤設置) | O-16 | 163 | 4 | 河川か | | " | | |
| | 九田川河川局部改良 | D-15 E-14・15 | 164 | 100 | | | " | | |
| | 第2屋内運動場電柱仮設 | G-14・15 | 165 | 0.5 | | | " | | |
| | 教養部水道管破裂修理 | I-16 | 166 | 2 | | | " | | |
| | グランド屋外照明施設配線埋設 | E-20 F-20～21 G-18・19・22 H-19・20 I-20・21 | 167 | 150 | | | " | | |
| | 公共下水道接続 (教育学部附属養護学校プール排水施設設置) | A-21 | 168 | 4 | | | " | | |
| | サークル棟給水管埋設 | F-14 | 169 | 1 | | | " | | |
| | プール新嘗給水管埋設 | E-15 F-15・16 | 170 | 10 | | | " | | |
| | 公共下水道接続 (汚水管雨水排水施設設置) | C-18 | 171 | 6 | 河川 | 土師器 | " | | |
| 平成7年 | 教育学部スロープ設置 (音楽棟) | H-17 | 172 | 10 | | | " | | 年報XV |
| | 農学部RI実験研究施設新嘗 | Q・R-17 | 173 | 75 | 近世溝 | 磁器 | 試掘 | | |
| | 農学部RI実験研究施設新嘗 | Q・R-17 | 174 | 520 | 中世井戸・近世溝 | 石斧、須恵器、磁器、瓦器 | 事前 | | |
| | 公共下水道接続 | C-18 E-16 G-14 | 175 | 70 | 溝、土坑、河川跡、柱穴 | 弥生土器、土師器 | 試掘 | | |
| | 公共下水道接続 | C・D-18 D・E-17 E・F-16 | 176 | 240 | 土坑、河川跡、柱穴 | 弥生土器、石器、骨角器 | 事前 | | |
| | 農学部附属農場牛舎新嘗 | T-10 | 177 | 22 | | | 試掘 | | |
| | 独身宿舎改修 | N・O-22 | 178 | 25.5 | 河川 | | 試掘 | | |
| | 第2学生食堂増築 | N・O-15 | 179 | 48 | 柱穴、包含層 | 石鏃 | 試掘 | | |
| | 第2屋内運動場外周照明施設新設 | G-15・16 | 180 | | | | 立会 | | |
| | 機器分析センター新嘗工事用電柱仮設 | O-19～21 P-22 | 181 | | | | " | | |
| | 農学部附属家畜病院バリカ一新設 | S-20 | 182 | | | | " | | |
| | 吉田寮可燃ゴミ置場新設 | N-10 | 183 | | | | " | | |
| | 農学部RI実験研究施設電気・情報ケーブル及びガス・給排水管布設 | Q・R-17 | 184 | | | | " | | |
| | 情報処理センタースロープ新設 | O-19 | 185 | | | | " | | |
| | 基幹環境整備(ATMネットワークケーブル布設) | E-19・20 F-18・19 G-18 | 186 | | | | " | | |
| 平成8年 | 基幹環境整備(外灯新設) | I-15・16 J-20 K-19 M-10・11 N-12 O-16～18・20 P-18・19 Q-17・18 | 187 | | | | " | | 年報XVI |
| | 基幹環境整備(独身宿舎・国際交流会館排水管布設) | M-23 O-22 | 188 | 22.5 | 河川 | | 試掘 | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|-----------------------------|--------------------------------|-----|-------------------------|---------------|--------------------------------|------|----|---------|
| 平成8年 | 基幹環境整備(外灯新設) | H・I-21・22 | 189 | 306 | 河川 | 縄文土器、弥生土器、土師器、石器 | 試掘 | | 年報XVI |
| | 農学部附属農場排水管布設 | S-10・11 | 190 | 93 | 包含層、ピット | 土師器、須恵器 | 試掘 | | |
| | 陸上競技場鉄棒取設 | G-18 | 191 | 5.5 | 包含層 | | 立会 | | |
| | 農学部附属農場排水溝改修 | R-11 | 192 | 2.2 | | | " | | |
| | 楓野寮バリカ一新設 | O-20・21 | 193 | 7 | | | " | | |
| | サッカー場給水管取替 | H-19・20 I-19 | 194 | 12 | 包含層 | | " | | |
| | 基幹環境整備(共通教育センター・スロープ・デラス新設) | J・K-17 | 195 | 14.3 | 河川 | 縄文土器、須恵器 | " | | |
| | 九田川河川局部改良 | E-14 | 196 | 18 | | | " | | |
| | 農学部附属農場道路舗装 | K-12・13 L-12 M-11 | 197 | 27.6 | 近世用水路、溝状遺構 | 弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器 | " | | |
| | 本部裏排水管取替 | K-14 | 198 | 2 | | | " | | |
| 平成9年 | 農学部附属農場堆肥貯蔵 | S-10 | 200 | 41.5 | | | 試掘 | | 年報XVII |
| | 農学部バイオ環境制御施設新設 | Q-15・16 | 201 | 140 | 河川、溝 | 土師器、須恵器、製塩土器、石鏃 | 試掘 | | |
| | カーブミラー新設 | M-11 N-21 | 202 | 0.8 | | | 立会 | | |
| | 基幹環境整備(外灯新設) | J・K-21 K・L-22 L-23 | 203 | 23.5 | 包含層 | | " | | |
| | 共通教育棟エレベーター新設 | K-16 | 204 | 42 | | | " | | |
| | 九田川河川局部改良 | E-14 | 205 | 48 | | | " | | |
| | 本部2号館西側バリカ一新設 | L-13 | 206 | 0.5 | | | " | | |
| | 教育学部附属養護学校時計塔新設 | D-21 | 207 | 1.4 | 包含層 | 土師器 | " | | |
| | 基幹環境整備(教育学部附属養護学校排水管取替) | C・D-21 | 208 | 17 | 河川 | | " | | |
| | 基幹環境整備(焼却場裏表土すきとり) | O-16 | 209 | 40 | | | " | | |
| 平成10年 | 第2学生食堂の増築及び改修 | N・O-15 | 210 | 967.2 | 掘立柱建物、溝、土坑、柱穴 | 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、石鏃、鐵製品 | 事前立会 | | 年報XVIII |
| | 教育学部附属養護学校給食室改修 | C-21 | 211 | 12.3 | 縄文河川、土坑、柱穴 | 縄文土器、弥生土器 | 試掘 | | |
| | 九田川河川局部改良 | E・F-14 F-13 | 212 | 60 | | | 立会 | | |
| | 基幹環境整備(バリカ一新設) | H-15 I・J-20 O-16・18 L-22 | 213 | 3.4 | | | " | | |
| | 農学部動物用焼却炉改修 | Q-18 | 214 | 53 | | | " | | |
| | 基幹環境整備(外灯新設) | L-17～19 M・N-18 | 215 | 4 | | | " | | |
| | 理学部スロープ新設 | M-18 | 216 | 16 | | | " | | |
| | ステンレス回転モニュメント新設 | M-13・14 | 217 | 27.6 | | | " | | |
| 平成11年 | 第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備 | O-15・16・P-14 | 218 | 6.6 | 包含層、柱穴、河川 | 土師器、須恵器 | " | | 年報XIX |
| | 九田川河川局部改良 | F・G-13 G・H-12 | 219 | 222 | | | " | | |
| | 第2学生食堂北西擁壁新設 | N・O-14 | 220 | 43 | | | " | | |
| | サッカー場南側防球ネット新設 | G・H-22 | 221 | 3.2 | | | " | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積(m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|-------------------------------|---|-----|---------------------|------------------------|--|------|----|--------|
| 平成11年 | 第1体育館・共通教育本館 スロープ新設 | H-15 K-15・16 | 222 | 201.1 | | | " | | 年報XIX |
| | 基幹環境整備(外灯新設) | I-12 K・L-18 L-15 M・N-17 | 223 | 4 | | 須恵器 | " | | |
| 平成12年 | 総合研究棟新營 | Q-18 R-17~19 | 224 | 270 | 埋没谷 | 土師器、須恵器 | 試掘 | | 年報XX |
| | 総合研究棟新營 | Q・R-18 R-19 S-20 | 225 | 808 | 埋没谷、土壤 | 繩文土器、土師器、須恵器、製塙土器、瓦質土器、石器 | 事前立会 | | |
| 平成13年 | 厩舎及び周辺施設改修 | M-8 | 226 | 3.6 | | | 立会 | | 年報XXI |
| | 架空電線取り外し埋設 | O-15 P-15・16 Q-14・15・18・19 R-13・14 R・S-19 S-14 | 227 | 268 | 包含層 | 土師器、須恵器 | " | | |
| | 九田川河川局部改良 | H-11・12 I-10・11 J-9・10 K・L-9 | 228 | 617 | | | " | | |
| | 山口合同ガスガバナー室新設 及びガス配管布設 | O-19~22 P-18・19・22 | 229 | 313 | | | " | | |
| | 基幹環境整備 (バリカー新設) | N-22 V-17 | 230 | 0.4 | | | " | | |
| | あずまや新設 | L-18 | 231 | 5 | | | " | | |
| | 共通教育センター空調設備新設 | J-16 | 232 | 1.4 | | | " | | |
| | 基幹環境整備(外灯新設) | J・K-21 M-10 | 233 | 2 | 包含層 | 土師器 | " | | |
| | 経済学部校舎改修 (プレハブ校舎新營) | K-21 | 234 | 40 | 河川 | 繩文土器、土師器、須恵器 | 試掘 | | |
| | 九田川河川局部改良 (平成12年度工事追加分) | L-8・9 | 235 | 42 | 河川 | | 立会 | | |
| 平成14年 | 総合研究棟新營屋外配管布設 | Q-18 | 236 | 60 | | | " | | 年報XXII |
| | 理学部改修1期工事 屋外配管布設 | M-18・19 M・N-20 N-19 | 237 | 76 | | | " | | |
| | 九田川河川局部改良 | L-8・9 | 238 | 96 | | | " | | |
| | 基幹環境整備(外灯新設) | I-14・15 J-15 K・L・M-15 N-16 Q-T・V-17 | 239 | 15.4 | 河川 | | " | | |
| | 理学部校舎改修2期工事 ポンプ室配管布設 | M-19 | 240 | 11 | | | " | | |
| | 理学部校舎改修2期工事 自転車置場新設 | N-20 | 241 | 196 | | | " | | |
| | 第1学生食堂トイレ改修 | I・J-19 | 242 | 6 | | | " | | |
| | 経済学部校舎改修(プレハブ 校舎新營配管布設) | L-21 | 243 | 6 | | | " | | |
| | 農学部校舎改修(解剖実習 棟プレハブ校舎新營) | R・S-19 | 244 | 520 | 掘立柱建物、柱穴、 土坑、包含層、河川 | 土師器、須恵器(墨書き 土器)、製塙土器、綠釉 陶器、瓦、轆口、鉈尾、 銅鉱石 | 事前 | | |
| | 農学部附属農場実験圃場整地 | O-14 | 245 | | | | 立会 | | |
| | 農学部校舍他改修 | N-Q-17・18 | 246 | | 河川 | 繩文土器 | " | | |
| | 理学部改修3期工事(薬品庫 掲示板・自転車置場新設) | N-19・ M-19・20 | 247 | | | | " | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|------------------------|--------|-----|-------------------------|--------|----|------|----|----|
| 平成14年 | 東アジア研究科プレハブ校舎新營 | N-21 | 248 | | | | " | | |
| | 農学部校舎改修(解剖実習棟プレハブ校舎新營) | R・S-19 | 249 | | 河川、包含層 | | " | | |
| | 教育学部トイレ改修 | I-18 | 250 | | | | " | | |

小串構内

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|-----------------------|-------|----|-------------------------|-----|--|------|----|---------|
| 昭和58年 | 医学部体育館新營 | | 1 | 260 | | 土師器、瓦質土器、石器 | 試掘 | | 年報 III |
| | 医学部図書館増築 | | 2 | 4 | | | 立会 | | |
| | 医学部体育館新營 | | 3 | 1 | | | " | | |
| 昭和59年 | 医学部浄化槽新營 | | 4 | 44 | 近世溝 | 土師器、瓦質土器、磁器 | 事前 | | 年報 IV |
| | 医学部体育館新營 | | 5 | 65 | | 土師器、瓦質土器、磁器 | " | | |
| | 医学部基幹整備(特高受電設備) | | 6 | 28 | | 動物遺体(貝殻) | 試掘 | | |
| | 医学部臨床講義棟病理解剖棟新營 | | 7 | 38 | | | " | | |
| 昭和60年 | 医学部附属病院外来診療棟新營 | | 8 | 390 | | 土師質土器、瓦質土器、陶磁器 | " | | 年報 V |
| | 医学部基礎研究棟新營 | | 9 | 10 | | 近世陶器 | " | | |
| | 医学部看護婦宿舎改修 | | 10 | 25.5 | | 近世陶磁器 | 立会 | | |
| | 医学部看護婦宿舎改修 | | 11 | 20 | | | " | | |
| | 医学部環境整備(樹木移植) | | 12 | 40 | | | " | | |
| 昭和61年 | 医学部附属病院外来診療棟新營 | | 13 | 5 | | | " | | 年報 VI |
| | 医学部附属病院周辺環境整備等(雨水井埋設) | | 14 | 18 | | | " | | |
| 昭和62年 | 医学部附属病院東駐車場改修 | | 15 | 6 | | | " | | 年報 VII |
| | 医学部附属病院病棟新營 | | 16 | 104 | | 削器、ナイフ形石器 細石刃核 | 試掘 | | |
| 昭和63年 | 医学部附属病院病棟新營 | | 17 | 300 | | 二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、敲石、礫、原石、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器 | 立会 | | 年報 VIII |
| | 医学部附属病院運動場整備 | | 18 | 220 | | | " | | |
| 平成元年 | 医学部附属病院MRI棟新營 | | 19 | 45 | | 削器、細石刃、二次加工のある剥片、剥片、石核 | 試掘 | | 年報 IX |
| 平成2年 | 医学部附属病院動物・RI実験棟新營 | | 20 | 40 | | 剥片 | " | | 年報 X |
| 平成3年 | 医学部臨床実験施設新營電気工事 | | 21 | 0.5 | | | 立会 | | 年報 XI |
| 平成4年 | 焼却棟地盤調査 | | 22 | | | | " | | 年報 XII |
| 平成5年 | 医学部臨床実験施設新營その他 | | 23 | 9 | | | " | | 年報 XIII |
| | 医学部附属病院基幹設備(焼却棟新營) | | 24 | 6 | | | " | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|----------------------------------|-------|----|-------------------------|--------------|---------------------------------|------|---------------|---------|
| 平成6年 | 医学部附属病院MRI-CT装置棟新営 | | 25 | 300 | | | " | | 年報XIV |
| 平成7年 | 医学部附属病院看護婦宿舎新営 | | 26 | 40 | | | 試掘 | | |
| 平成8年 | 医療技術短期大学部屋外排水管布設 | | 27 | 6 | | | 立会 | | 年報XVI |
| 平成9年 | 医学部慰靈碑・納骨堂新営 | | 28 | 15.2 | | | 試掘 | | 年報XVII |
| | 基幹環境整備(看護婦宿舎浄化槽撤去) | | 29 | 4 | | | 立会 | | |
| | 医学部剖検棟移設 | | 30 | 10 | | | " | | |
| 平成10年 | 宇部市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線) | | 31 | 253.1 | 包含層、近世～近代用水路 | 剥片、繩文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器 | 事前 | 宇部市教育委員会と合同調査 | 年報XVIII |
| | 宇部市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路) | | 32 | 381.1 | 包含層、近世～近代溝 | 剥片、繩文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器 | " | 宇部市教育委員会と合同調査 | |
| 平成11年 | 宇部市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線) | | 33 | 818.9 | 近世～近代用水路、土坑 | 土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、錢貨 | " | 宇部市教育委員会と合同調査 | 年報XIX |
| 平成13年 | 医学部附属病院立体駐車場新営 | | 34 | 229 | 包含層 | 繩文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器、鉄釘 | 試掘 | | 年報XXI |
| 平成14年 | 医学部附属病院高エネルギー棟新営 | | 35 | 13.25 | | | " | | |
| | 総合研究棟新営 | | 36 | 382 | 包含層 | 繩文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器 | " | | |

常盤構内

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|----------------------------|-------|----|-------------------------|----|-----|------|----|--------|
| 昭和58年 | 工学部校舎新営 | | 1 | 70 | | 須恵器 | 試掘 | | 年報III |
| | 工学部図書館増築 | | 2 | 70 | | | " | | |
| 昭和59年 | 工学部尾山宿舎排水管布設 | | | 20 | | | 立会 | | 年報IV |
| 昭和60年 | 工学部尾山宿舎擁壁取設等 | | | 65 | | | " | | 年報V |
| | 工学部受水槽改修 | | 3 | 1.5 | | | " | | |
| 昭和61年 | 工学部尾山宿舎排水管改修 | | | 6 | | | " | | 年報VI |
| | 工学部身体障害者用スロープ取設 | | 4 | 29 | | | " | | |
| | 情報処理センター(常盤センター) 空調設備取設 | | 5 | 30 | | | " | | |
| 昭和63年 | 工学部焼却炉上屋新営 | | 6 | 225 | | | " | | 年報VIII |
| 平成元年 | 工学部夜間照明装置及び防球ネット設置 | | 7 | 2 | | | " | | 年報IX |
| | 工学部記念植樹 | | 8 | 2.5 | | | " | | |
| 平成2年 | 工学部ガス管改修 | | 9 | 45 | | | " | | 年報X |
| 平成3年 | 大学祭展示物設置 | | 10 | 7 | | | " | | 年報XI |
| 平成4年 | 工学部プレハブ研究・実験棟新営 | | 11 | 6 | | | 試掘 | | 年報XII |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積(m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|-----------------------------------|-------|----|---------------------|------|-----------|------|----|---------|
| 平成4年 | 工学部・工業短期大学部の改組再編・博士課程設置に伴う建築物等の新営 | | 12 | 40 | | | 〃 | | 年報 XII |
| | 工学部および工業短期大学部 職員宿舎取壟 | | 13 | 9 | | | 立会 | | 年報 XII |
| | 大学祭展示物設置 | | 14 | 7 | | | 〃 | | |
| 平成5年 | 工学部プレハブ研究・実験棟新営 | | 15 | 12 | | | 試掘 | | 年報 XIII |
| | 工学部地域共同研究開発センター新営 | | 16 | 16 | | | 〃 | | |
| 平成7年 | 工学部国際交流会館新営 | | 17 | 8 | | 石鏃 | 〃 | | |
| 平成8年 | 工学部国際交流会館新営 | | 18 | 352 | 段状遺構 | ナイフ形石器、剥片 | 事前 | | 年報 XVI |
| 平成12年 | 工学部福利厚生棟新営 | | 19 | 38.5 | | | 試掘 | | 年報 XX |
| 平成13年 | 工学部インキュベーションセンター新営 | | 20 | 60 | | | 〃 | | 年報 XXI |
| 平成14年 | 総合研究棟新営 | | 21 | 13.5 | | | 〃 | | |

白石構内

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積(m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|------------------------|-----------|----|---------------------|-----------------------|--|------|----|---------|
| 昭和58年 | 教育学部附属山口小学校・幼稚園運動場整備 | | 1 | 60 | 古墳堅穴住居、溝状遺構 | 土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石製品、木製品 | 試掘 | | 年報 III |
| 昭和60年 | 教育学部附属山口小学校散水栓改修 | | 2 | 1 | | | 立会 | | 年報 V |
| | 教育学部附属山口中学校球技コート整備 | | 3 | 2 | | | 〃 | | |
| | 教育学部附属幼稚園環境整備(樹木植樹) | | 4 | 1 | | | 〃 | | |
| 昭和61年 | 教育学部山口附属学校汚水排水管布設 | 幼稚園・小学校部分 | 5 | 57 | 中世土壙か | 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、土師質土器 | 試掘 | | 年報 VI |
| | | 中学校部分 | | 20 | 河川跡か杭列 | 陶磁器、不明鉄製品、石鏃、剥片、植物遺体 | | | |
| | 教育学部附属山口小学校電柱移設 | | 6 | | | | 立会 | | |
| 昭和62年 | 教育学部附属幼稚園遊戲室拡張 | | 7 | 40 | | | 〃 | | 年報 VII |
| 昭和63年 | 教育学部附属山口中学校屋内消火栓設備改修 | | 8 | 35 | 包含層 | 土師器、磁器、剥片 | 〃 | | 年報 VIII |
| 平成元年 | 教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設 | | 9 | 260 | 弥生～古墳堅穴住居、土壙、溝、柱穴、河川跡 | 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質陶器、黒色土器、搔器、二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、石核、砥石 | 事前 | | 年報 IX |
| | | | 10 | 0.3 | | | 立会 | | |
| | 教育学部附属幼稚園バレーコート支柱設置 | | 11 | 170 | 弥生溝状遺構 | 弥生土器、土師器、打製石斧、削器、剥片、石核 | 〃 | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|---------------------------|-------|----|-------------------------|-------|---|------|----|--------|
| 平成2年 | 教育学部附属山口中学校 污水排水管布設 | | 12 | 70 | 溝状遺構 | 縄文土器、弥生土器、土師器、瓦質土器、不明鉄製品、石鏃、敲石、扁平打製石斧、砥石、剥片 | 事前 | | 年報X |
| | | | 13 | 130 | | 弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、国産陶磁器、扁平打製石斧、砥石 | 立会 | | |
| 平成6年 | 教育学部附属山口小学校 プール新營給水管埋設 | | 14 | 3 | | | " | | 年報XIV |
| | 教育学部附属山口中学校 プール新營給水管埋設 | | 15 | 7 | | | " | | |
| 平成7年 | 教育学部附属山口中学校 自転車置場新設 | | 16 | | | | " | | |
| 平成10年 | 教育学部附属山口小学校 給食室改修 | | 17 | 15.8 | | | 試掘立会 | | 年報XVII |
| 平成12年 | 教育学部附属山口中学校 防球ネット新設 | | 18 | 4.4 | | | 立会 | | 年報XX |
| 平成14年 | 教育学部附属山口中学校 給水設備改修 | | 19 | | | | " | | |
| | 教育学部附属幼稚園 運動場整備 | | 20 | | 河川、柱穴 | 土師器 | " | | |

光構内

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|-------------------------------|-------|----|-------------------------|---------|------------------------------------|------|----------------|--------|
| 昭和58年 | 教育学部附属光小学校 自転車置場設置 | | 1 | 6 | 近世～近代石垣 | 瓦質土器、陶磁器、瓦 | 試掘 | | 年報III |
| 昭和59年 | 教育学部附属光小・中学校 焼却炉新營 | | 2 | | | | 立会 | | 年報IV |
| 昭和60年 | 教育学部附属光中学校 外灯改修 | | 3 | 1 | | 土師器 | " | | 年報V |
| 昭和61年 | 教育学部附属光小学校創立 記念事業(ブロンズ像建立) | | 4 | 2.5 | | 土師器、須恵器 | " | | 年報VI |
| 昭和62年 | 教育学部附属光中学校 グラウンド防球ネット設置 | | 5 | 2 | | 弥生土器、土師器、瓦質土器、土師質土器、瓦 | " | 御手洗湾採集 | 年報VII |
| 昭和63年 | 教育学部附属光小学校 遊器具移設 | | 6 | 10 | | 土師器、土師質土器、陶磁器 | " | | 年報VIII |
| | 教育学部附属光小学校 屋外ス皮ーカー設置 | | 7 | 0.5 | | 土師器、土師質土器、須恵器、瓦器、瓦質土器、陶磁器、土錐 | " | 御手洗湾採集 | |
| 平成2年 | 教育学部附属光小学校 運動場改修 | | 8 | 15 | | 縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、施釉陶器、磁器、土錐、剥片、鉱滓 | 試掘 | 御手洗湾採集 遺物含む | 年報X |
| | 教育学部附属光小学校 運動場改修 | | 9 | 23 | 土壤 | 土師器、須恵器、須恵器模倣土師器 | 事前 | | |
| 平成3年 | 教育学部附属光中学校 武道館新營 | | 10 | 38 | 土壤、溝状遺構 | 土師器、磁器、陶器 | 試掘 | | 年報XI |
| | 教育学部附属光小学校 屋外施設設置 | | 11 | 18 | | 土師器、石錐 | 立会 | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積(m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|--|-------|----|---------------------|----------------------|----------------------------------|----------|----|--------|
| 平成3年 | 教育学部附属光中学校 バックネット新設 | | 12 | 0.5 | | 土師器 | 〃 | | 年報XI |
| 平成4年 | 教育学部附属光中学校 武道館新營 | | 13 | 500 | 土壤、柱穴 | 縄文土器、須恵器、 土師器、瓦器 | 事前 | | 年報XII |
| | 教育学部附属光中学校 武道館地盤調査 | | 14 | | | | 立会 | | |
| 平成5年 | 教育学部附属光中学校 武道館新營その他 | | 15 | 6 | | | 〃 | | 年報XIII |
| 平成6年 | 教育学部附属光小中学校 プール新營給排水管理設 | | 16 | 19 | | | 〃 | | 年報XIV |
| 平成8年 | 教育学部附属光小・中学校 囲障(外周フェンス・防球ネット) 取設 | | 17 | 7 | | 陶磁器 | 〃 | | 年報XVI |
| 平成10年 | 教育学部附属光小学校給食室 改修 | | 18 | 5.2 | | | 〃 | | 年報XVII |
| 平成11年 | 教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修 | | 19 | 228 | 古墳包含層、柱穴、 近世土坑、柱穴 | 土師器、須恵器、韓式系 土器、竈形土器、 陶器、磁器 | 試掘 立会 | | 年報XIX |
| 平成12年 | 教育学部附属光小・中学校 護岸石積改修 | | 20 | 173 | 石垣 | 土師質土器(蛸壺)、 磁器、瓦 | 立会 | | 年報XX |
| | 教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修 | | 21 | 23 | 包含層 | 土師器、須恵器、磁器 石錘 | 〃 | | |

その他構内

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 | 地点 | 面積(m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|-------|----------------------------------|--------------------|----|---------------------|----|--------------------------------|------|--------|-------|
| 昭和59年 | 学生部ボート艇庫 合宿研修所整備 | 宇都市大字小野宇土井 | | 0.5 | | | 立会 | | 年報IV |
| | 学生部ヨット艇庫 合宿研修所整備 | 吉敷郡秋穂町東宇中道 | | | | | 〃 | | |
| 昭和60年 | 熊野荘給湯機器取設 | 山口市熊野町3-21 | | 7 | | | 〃 | | 年報V |
| 昭和61年 | 湯田宿舎給水管改修 経済学部職員宿舎 公共下水道切替 | 山口市湯田温泉6丁目 8-29 | | 35 | 杭 | | 〃 | | 年報VI |
| | | 山口市旭通り2丁目3-32 | | 1 | | 土師質土器 | 〃 | 6号宿舎 | |
| | | 山口市水の上町6-1 | | 7 | | 瓦 | 〃 | 2号宿舎 | |
| 昭和63年 | 経済学部職員宿舎 公共下水道切替 | 山口市白石二丁目8-7 | | 1 | | 須恵器、土師器、土師 質土器、瓦質土器、 陶磁器 | 〃 | 7号宿舎採集 | 年報VII |
| 平成元年 | 本部職員宿舎 公共下水道切替 | 山口市水の上町6-1 | | 1 | | | 〃 | 1号宿舎 | 年報IX |
| 平成2年 | 人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替 | 山口市石観音町1-25 | | 1.2 | | 陶磁器 | 〃 | 7号宿舎 | 年報X |
| | 経済学部職員宿舎 公共下水道切替 | 山口市香山町3-1 | | 0.5 | | | 〃 | 3号宿舎 | |
| 平成3年 | 湯田宿舎A棟給配水 その他改修 | 山口市湯田温泉6丁目 | | 30 | | | 〃 | | 年報XI |
| | 経済学部6号職員宿舎 電柱設置 | 山口市旭通り2丁目3-32 | | 0.5 | | | 〃 | | |
| | 人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替 | 山口市天花932-2 | | 1 | | | 〃 | | |

| 調査年度 | 調査名 | 構内地区割 地点 | 面積 (m ²) | 遺構 | 遺物 | 調査区分 | 備考 | 文献 |
|------|-------------------------|--------------------|-------------------------|----|----|------|----|-----------|
| 平成4年 | 上堅小路共同下水管布設 | 山口市上堅小路字久保 7-4 | 7 | | | 立会 | | 年報 XII |
| 平成6年 | 湯田宿舎公共下水道接続 及び排水施設改修 | 山口市湯田温泉6丁目 8-29 | 44 | | | 〃 | | 年報 XIV |

※文献① 山口大学吉田遺跡調査団『吉田遺跡発掘調査概報』(山口大学、1976年)

※昭和41年以降、吉田構内においては、工事に際し随時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査団の関与した調査については、調査名をすべて把握しているわけではなく注意が必要である。

※平成12年度調査区の一部を修正した。

※平成10・11年度の調査区、記載内容の一部を修正した。

※平成15年度以降については既刊の『山口大学埋蔵文化財資料館年報』を参照されたい。

Summary

Ch. I: Summary of the archaeological excavations on the Yamaguchi University campuses in the 1999 fiscal year

One salvage excavation was carried out jointly by Ube City Board of Education and Yamaguchi University Archaeological Museum on Kogushi Campus. One test excavation was carried out on Hikari Campus. Six on-site inspections were carried out on Yoshida Campus and one on Hikari Campus.

Ch. II: Excavations accompanying the Ube City land readjustment project (Yanagase-Marugouchi-line)

Trench G is the largest survey area in the Kogushi Campus, and remains related to paddy fields from the early modern to modern period were discovered. Of these, an irrigation channel was reinforced with wood and bamboo, and had been deposited and repaired multiple times, but the date of excavation is unknown. In addition, there were pathways on both sides of the channel, and paddy field plots were observed in some sections of the north side. Since the height of the paddy field surface varies along the channel, this channel may reflect a land division dating back to the early modern period. A large number of ceramics from the late 18th to 19th century were discovered from the paddy base. These ceramics may support the period of cultivation of the land.

Ch. III: Test excavation and on-site inspection accompanying the renovation of the water supply (water pipe) for Hikari elementary/junior high school affiliated with the Faculty of Education

In trench C, Kofun period and early modern period remains and layers containing artifacts were discovered. A large number of Haji ware, Sue ware, and Korean-style pottery from the late 5th to early 6th century were discovered in the layer containing artifacts of Kofun period, and 6 pillar holes were discovered on the surface of the structural remains. Korean-style pottery discovered from trench C includes pots, bowls, and portable ceramic stoves with open firing hoods. A large number of 18th and 19th century pottery items were discovered in the layer containing artifacts of the early modern period, and one ditch, one earthen pit, and 5 pillar holes were discovered

on the surface of the structural remains. These are most likely related to Murozumi Kaisho. Other remains and artifacts were discovered in multiple trenches.

During the on-site inspection, one buried jar from the early modern to modern period was discovered at spot H, the first in the Hikari Campus. 3 pillar holes thought to be from the Kofun period were discovered at spots J-1 and J-2. In addition, layers containing artifacts from the Kofun period were discovered at spots I and K.

Ch. IV: On-site inspections on the Yamaguchi University campuses in the 1999 fiscal year

In an on-site inspection accompanying outdoor power line facility improvement during the extension of Cafeteria 2 and other facilities on Yoshida Campus, layers containing artifacts and two relic surfaces were discovered at spot C, and a large number of artifacts, mainly Yayoi pottery, ancient Haji ware, and Sue ware, were discovered. In addition, at spot D, a river as well as a large number of ancient Haji and Sue ware were discovered. Most of the Sue wares discovered at spots C and D are similar to the Sue wares discovered at the Cafeteria 2 site.

No archaeological remains and artifacts were found other than these at this on-site inspection and the Hikari Campus on-site inspection.

Appendix

This is a summary report by Naohiko Tabata of pottery items discovered at the Ogidao site in Yamaguchi City. He summarized the previous investigations of the Ogidao site and introduced the materials in the museum collection, and discussed the position of the Ogidao site. As a result, it was pointed out that there were settlements at the top and bottom of the mountain in the middle of the Yayoi period, and that the elevation and specific height of the top of the mountain need to be revised. He also considered the possibility that the settlements that existed at the top and bottom of the mountain were centers for information transmission and goods distribution for the right bank of the Fushinogawa River in the Yamaguchi Basin.



Fig.47 山口大学吉田構内地区割及び主な調査区位置図(昭和41年度～平成14年度)



Fig.48 山口大学小串構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

構内旧境界線
構内境界線

平成6年度以前と平成8・9・12・13年度調査区
平成7・14年度調査区



Fig.49 山口大学常盤構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

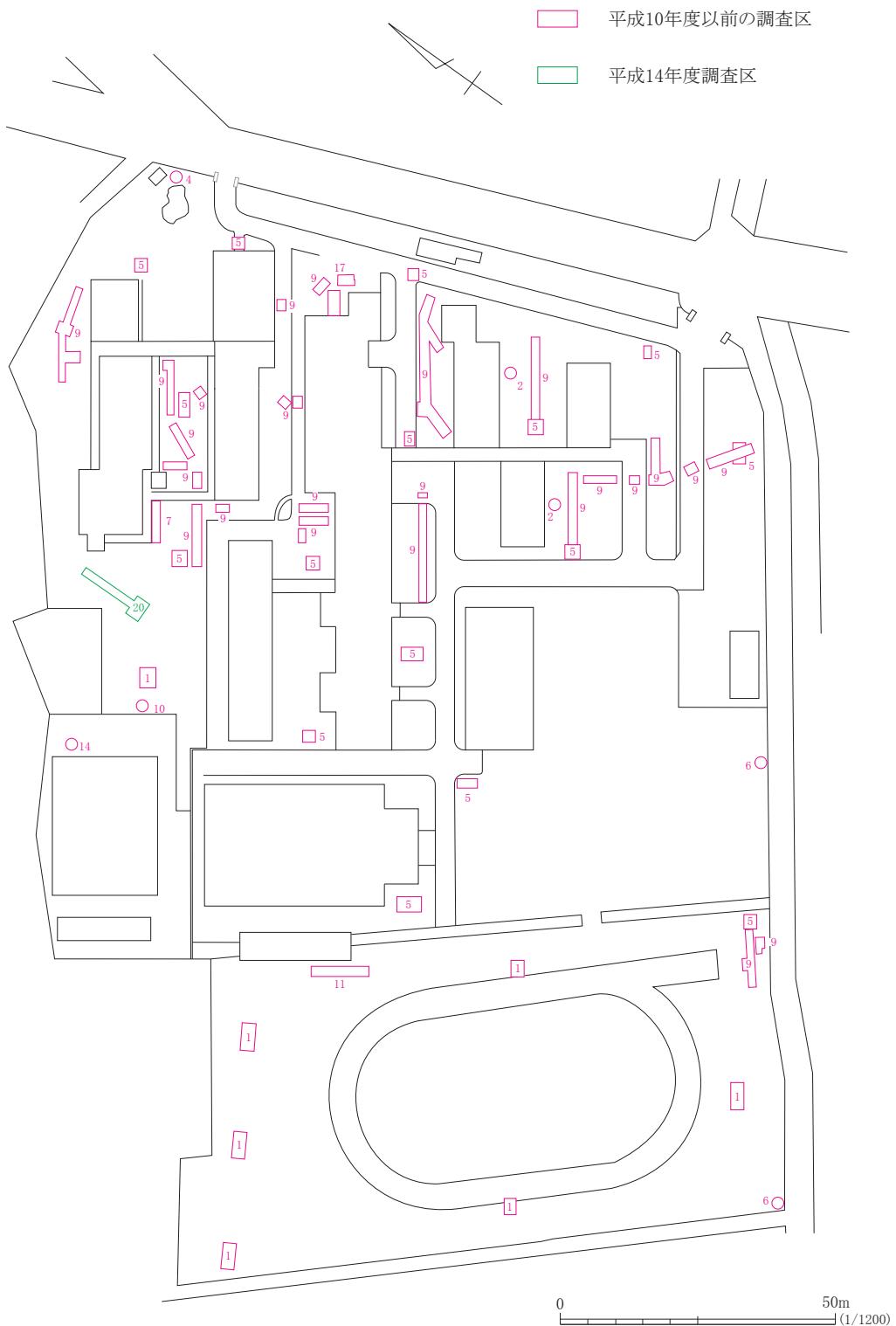


Fig.50 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

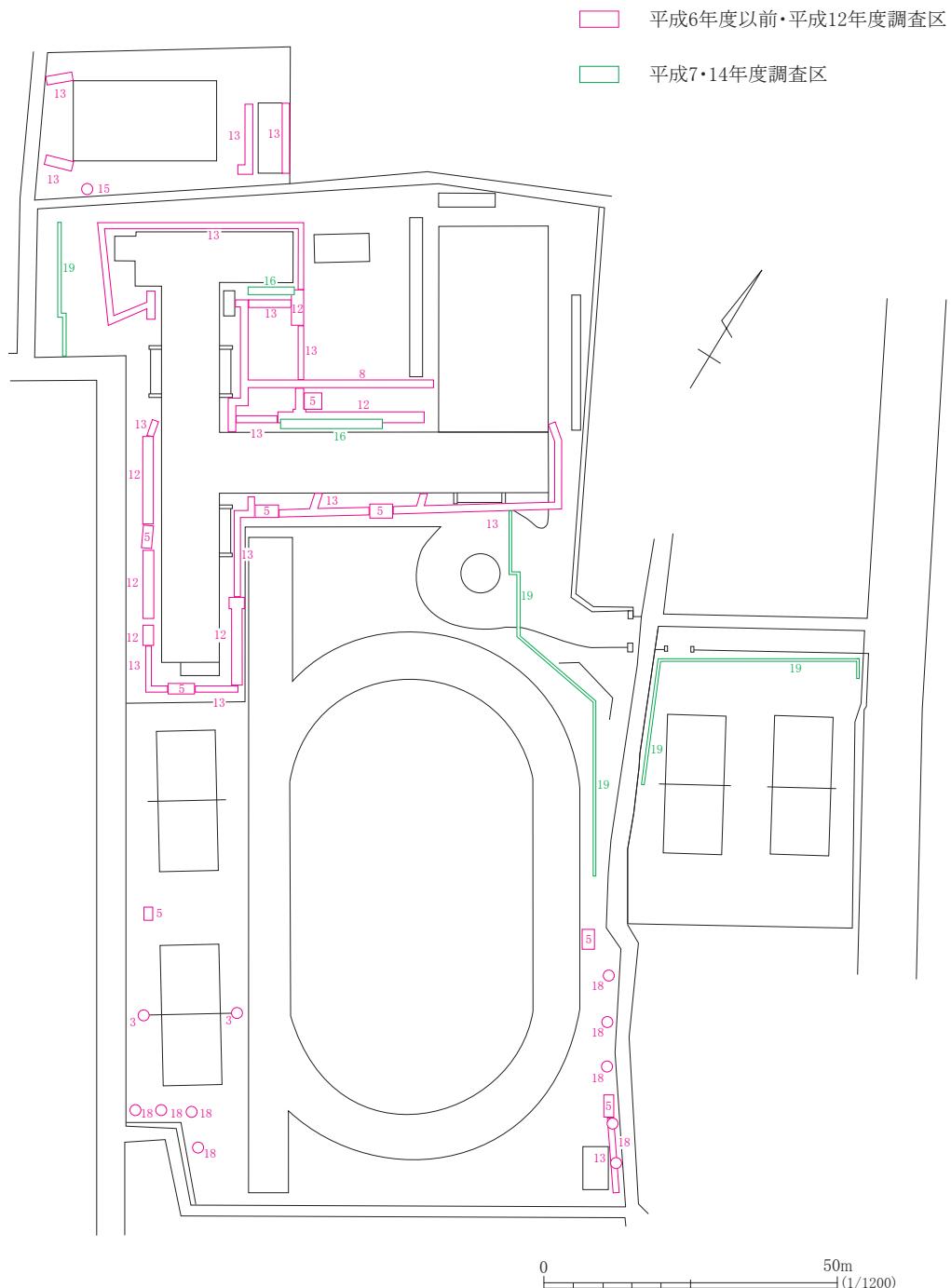


Fig.51 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図（昭和 60 年度～平成 14 年度）

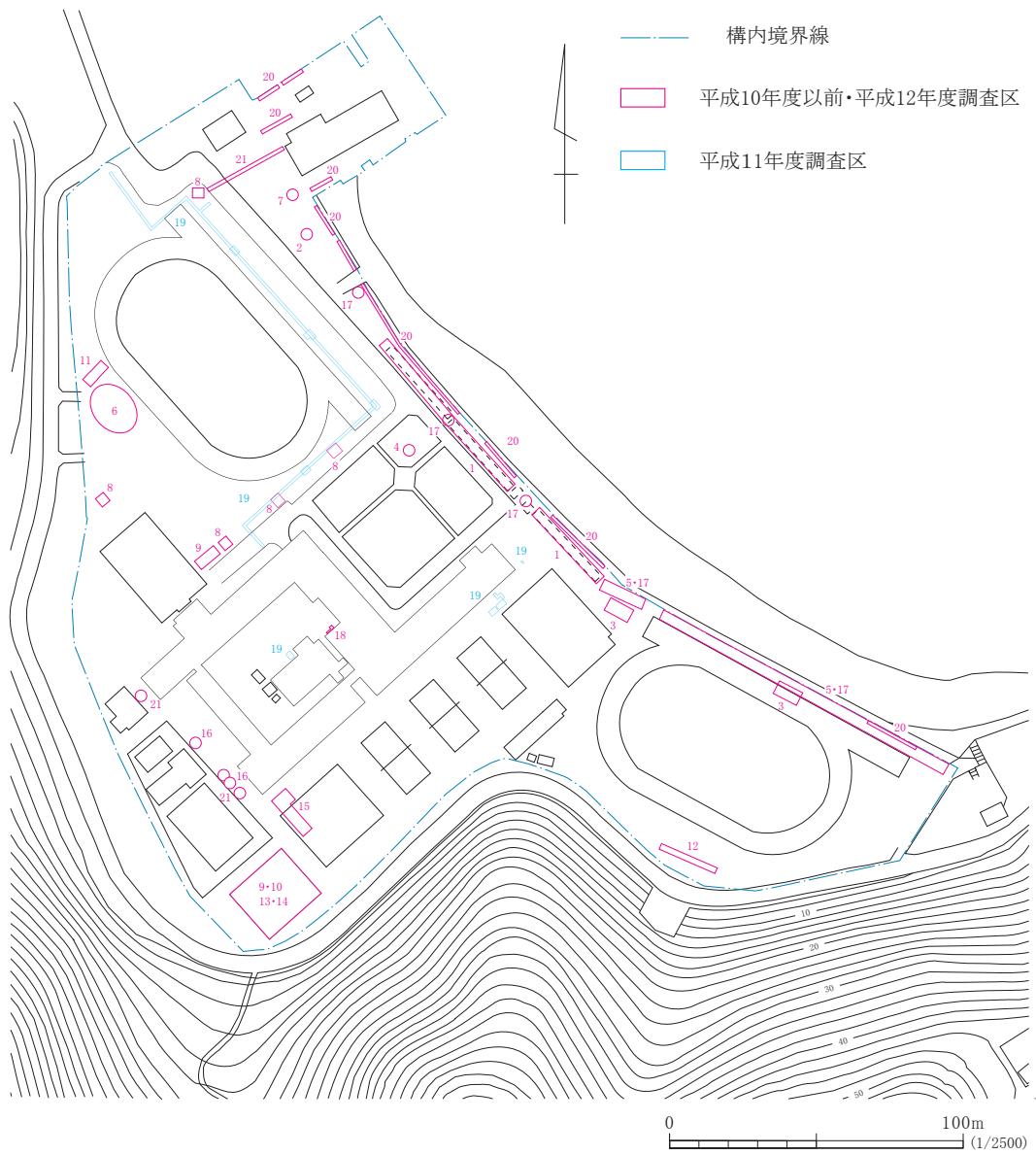
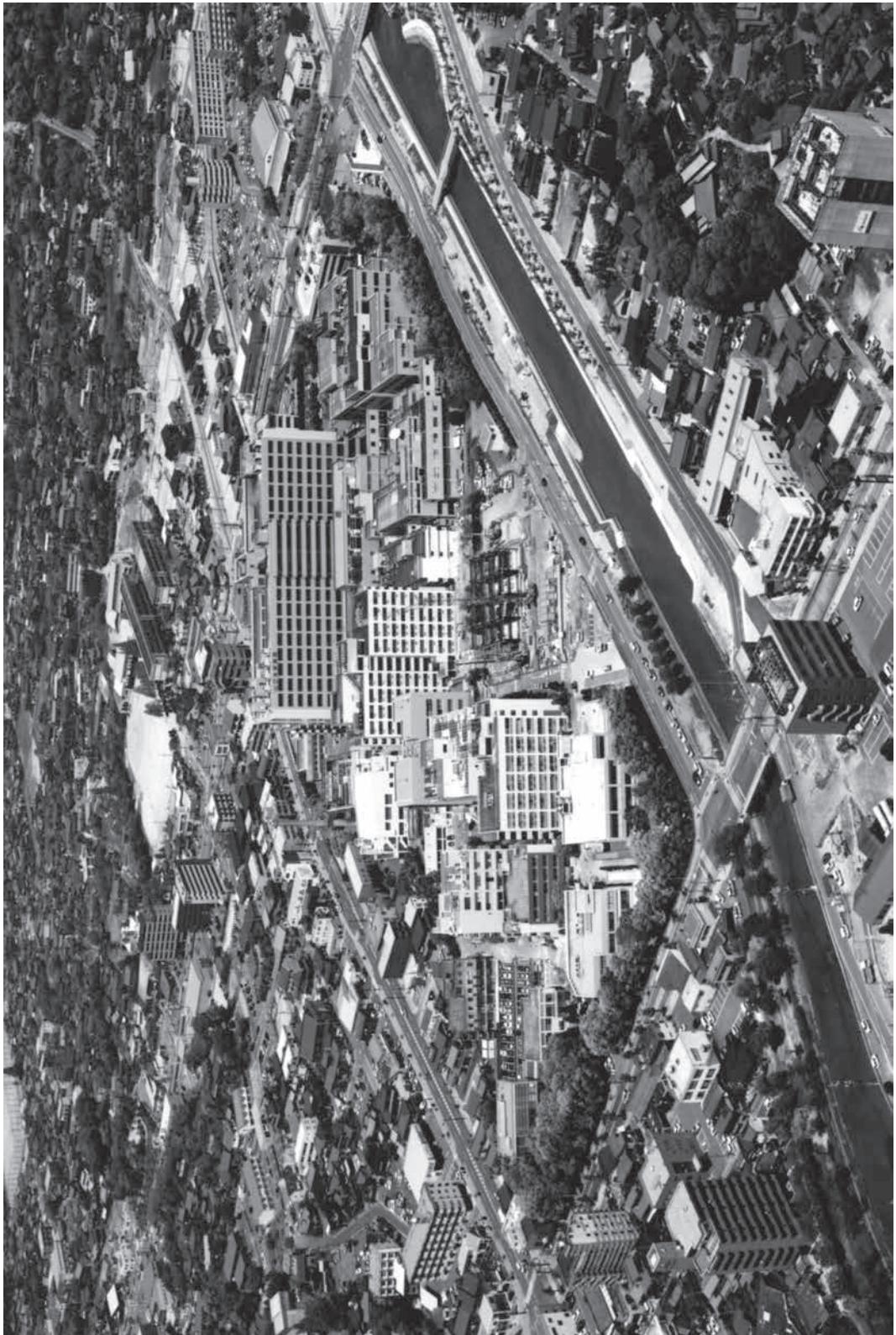


Fig.52 山口大学光構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 12 年度）

図 版



小串構内全景(南から)



(1) Gトレーニング調査前全景（南東から）



(2) Gトレーニング全景（南西から）



(1) Gトレーニング (俯瞰)



(2) Gトレーニング北東壁土層断面①(南から)



(1) Gトレーナー北東壁土層断面②(西から)



(2) Gトレーナー南東壁土層断面・土坑3（南から）



(1) Gトレーナー用水路（南西から）



(2) Gトレーナー用水路H—I断面（西から）



(1) Gトレーニチ用水路J-K断面（東から）



(2) Gトレーニチ土坑1・2検出状況（南西から）



(1) Gトレーンチ土坑1 土層断面（北西から）



(2) Gトレーンチ土坑1完掘状況（南東から）



(3) Gトレーンチ土坑2（南から）



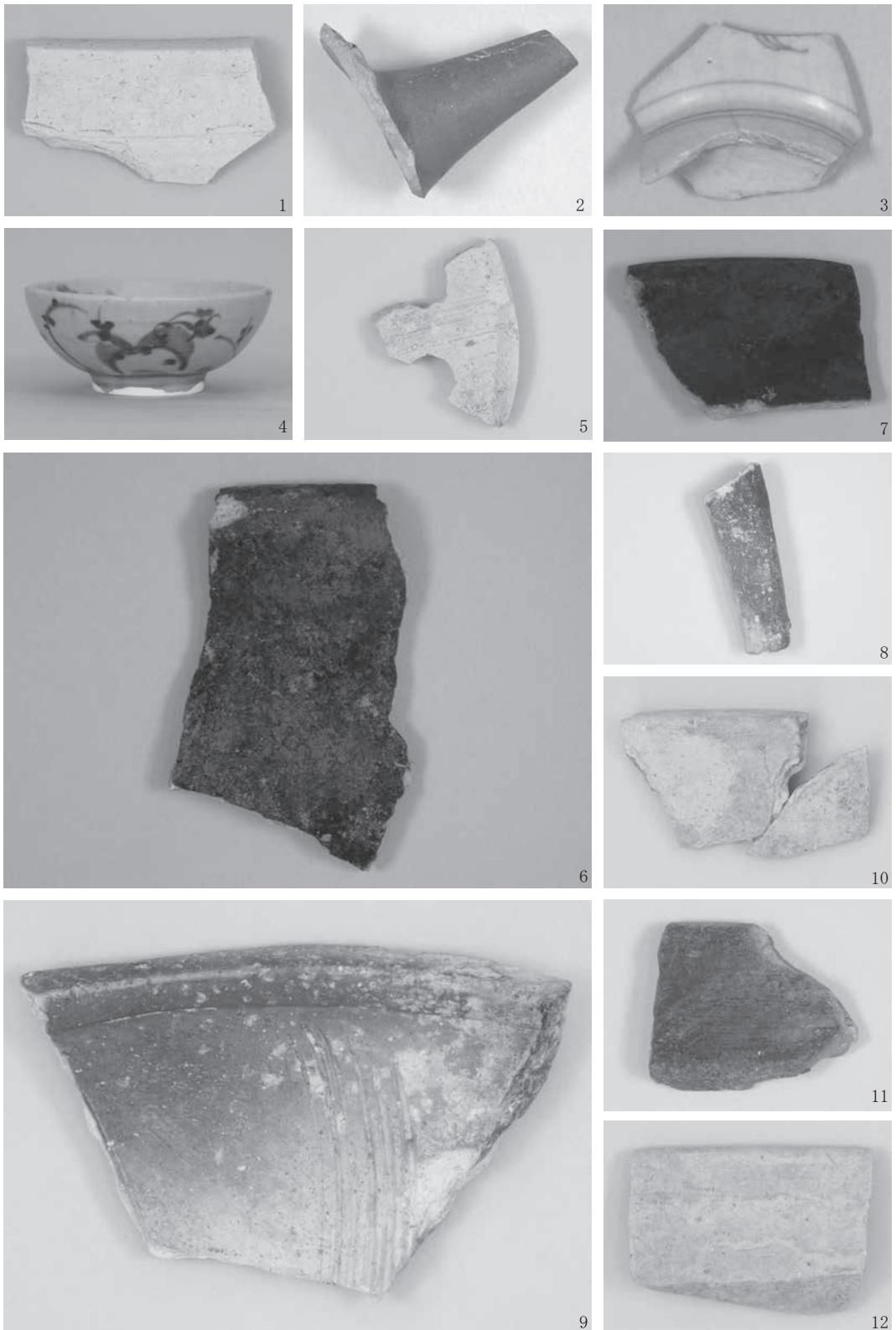
(4) Gトレーンチ土坑3（南東から）



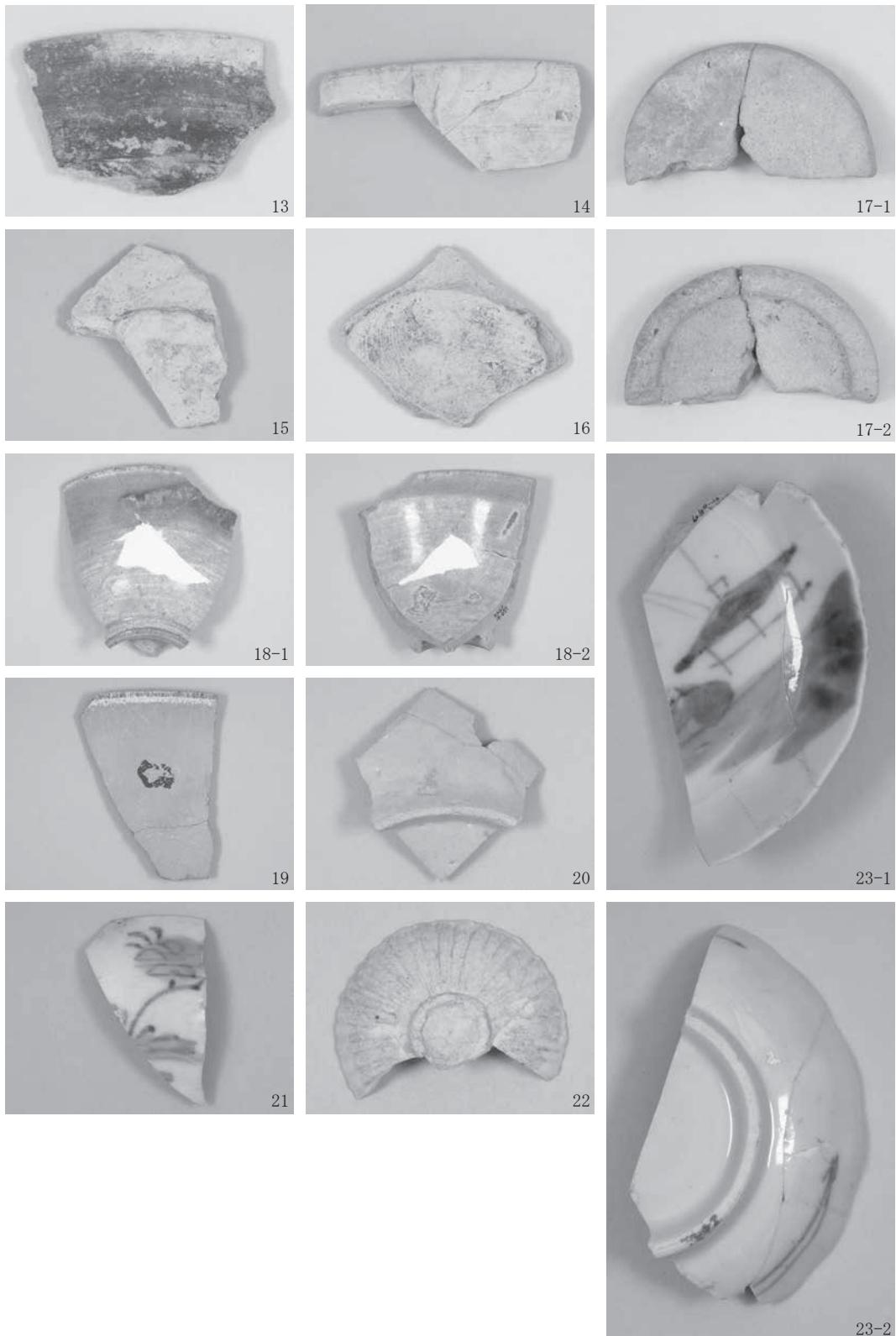
(1) Hトレーニチ全景（北西から）



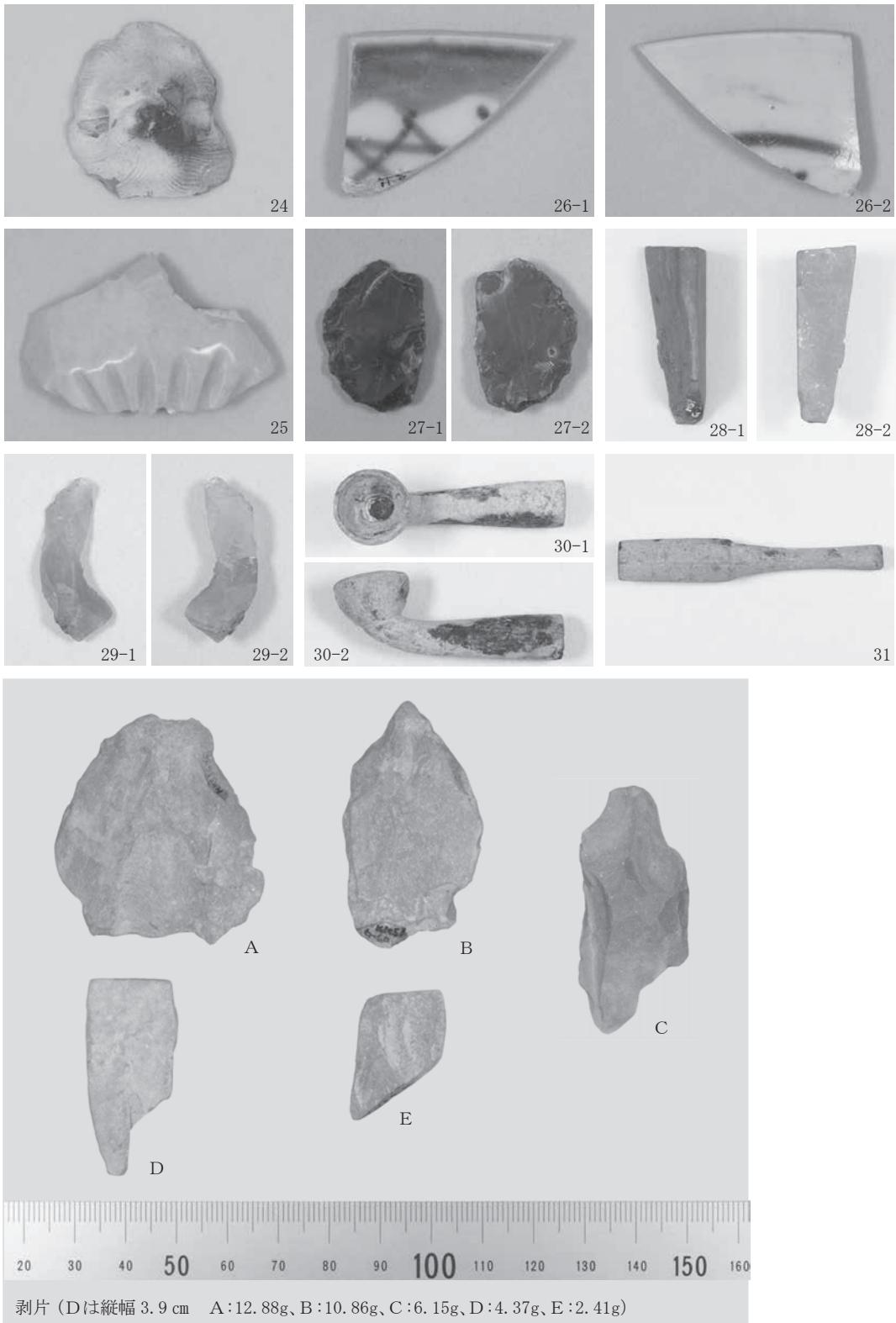
(2) Hトレーニチ土層断面（西から）



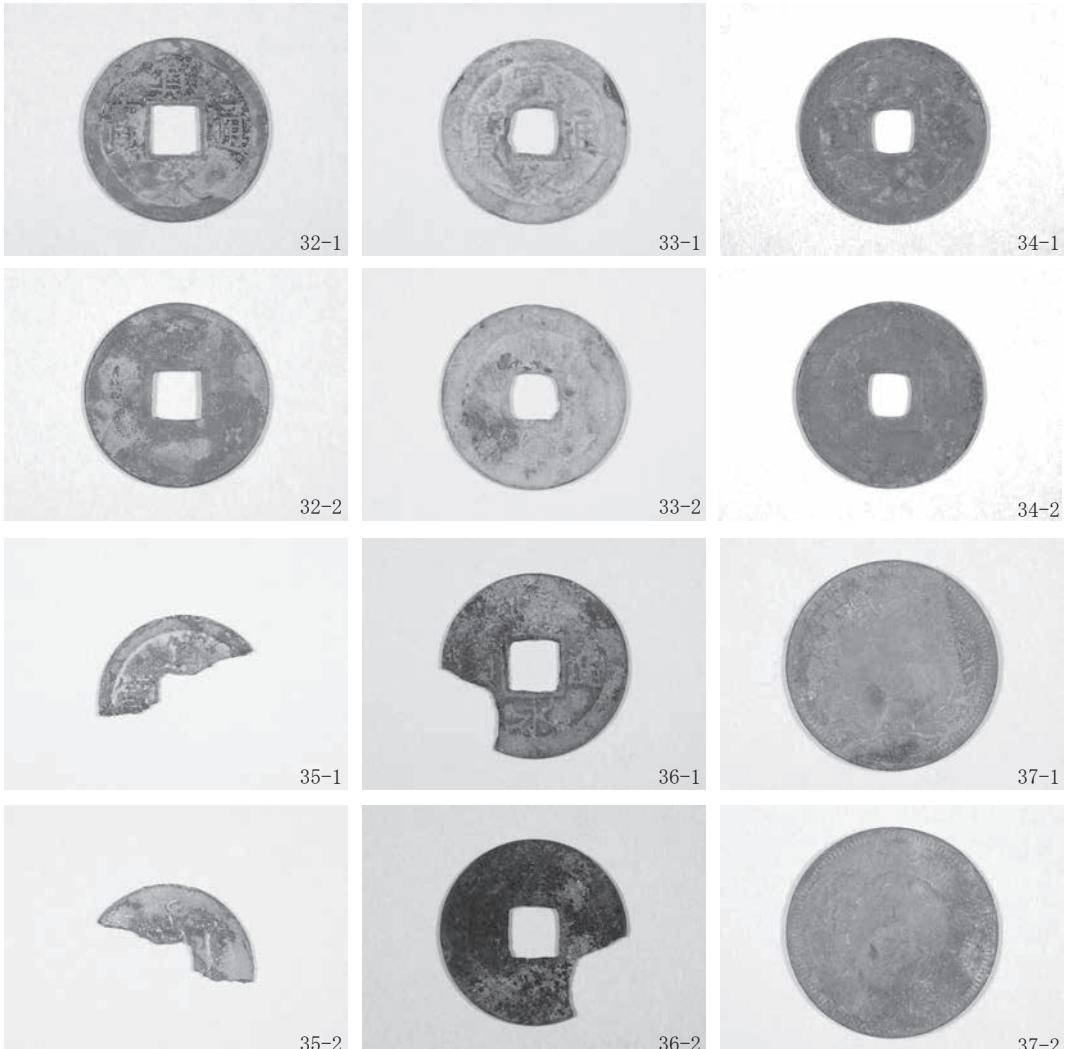
出土遺物①(土器)



出土遺物②(土器)



出土遺物③(土器・石器・金属器)



出土遺物④(錢貨)



光構内全景(南西から)



(1) Aトレーナ全景（南西から）



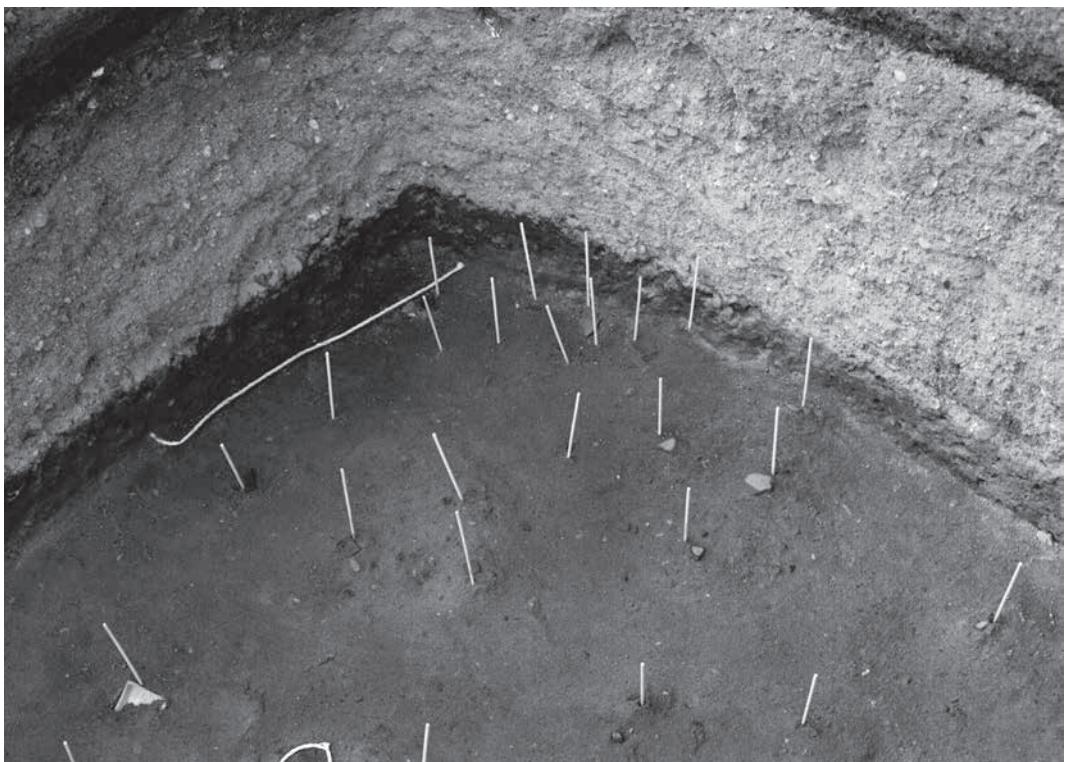
(2) Aトレーナ南東壁土層断面（北から）



(1) Bトレーニング全景（北西から）



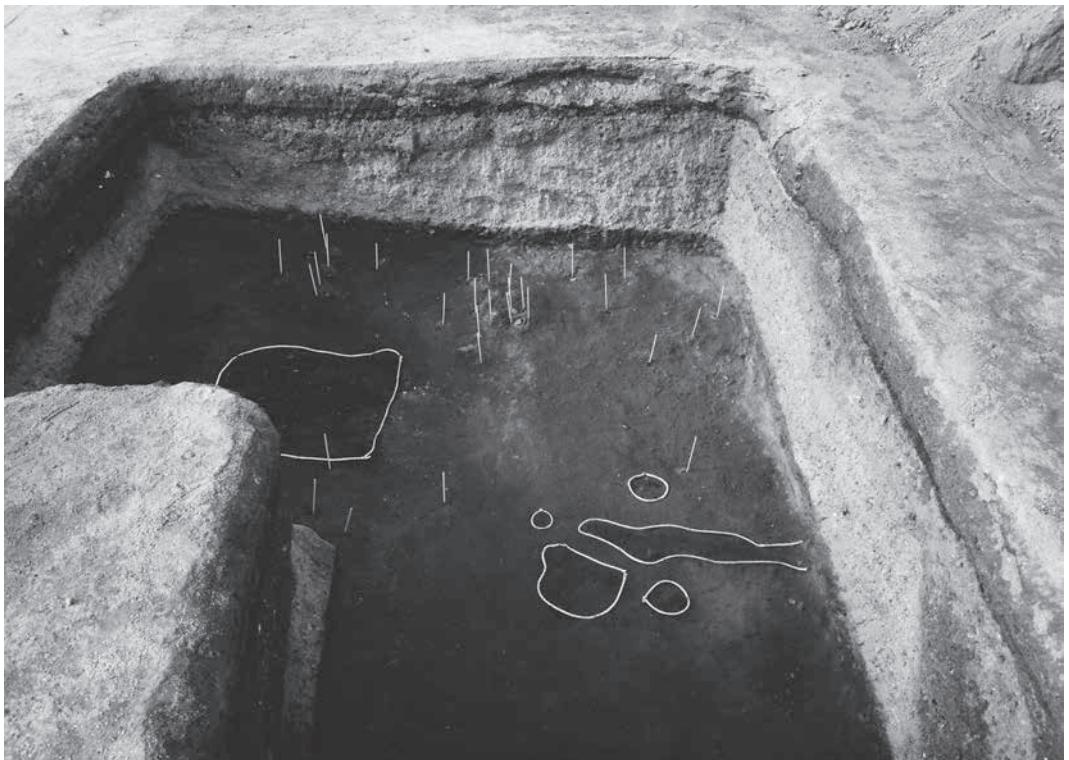
(2) Bトレーニング北東壁土層断面（南西から）



(1) Cトレーナ第1遺構面遺構検出・土器出土状況（拡張前 南東から）



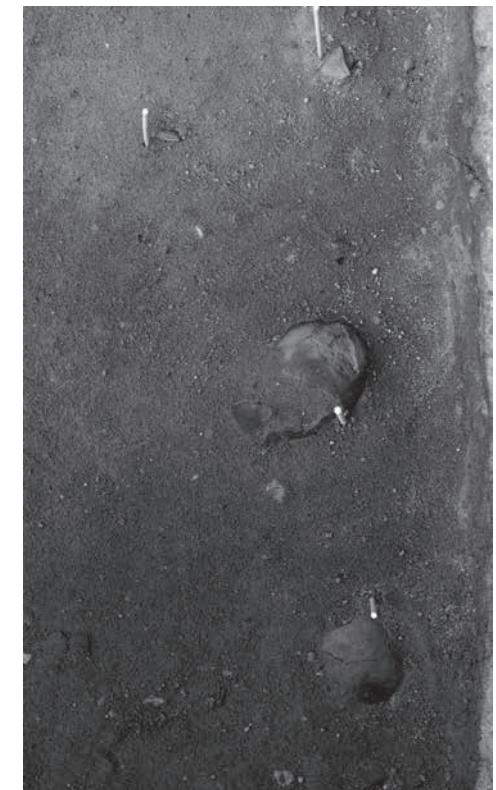
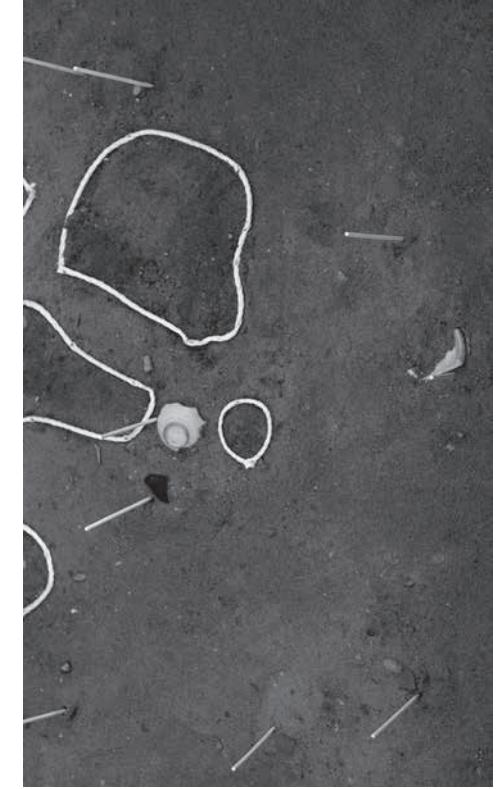
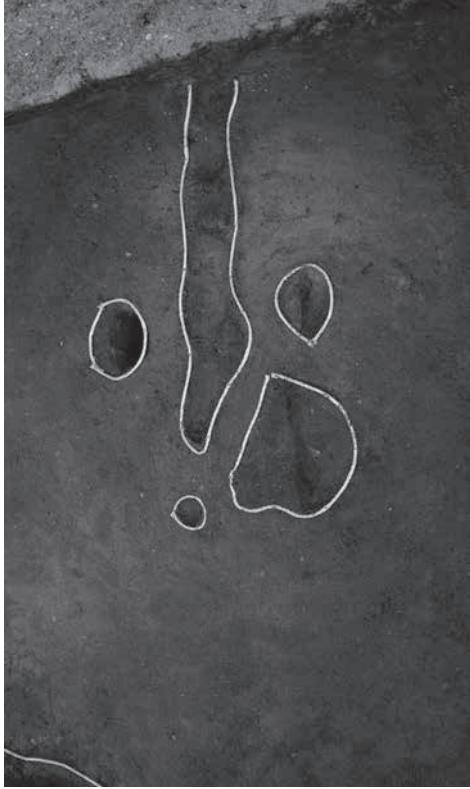
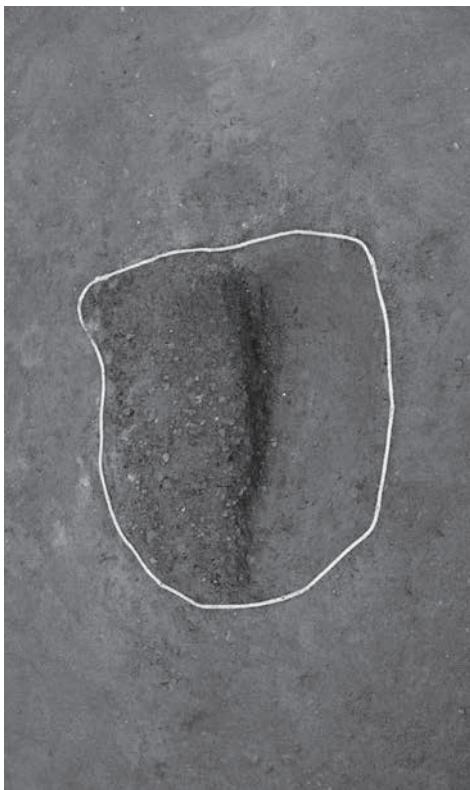
(2) Cトレーナ第1遺構面遺構検出・土師器出土状況（拡張前 東から）



(1) Cトレーナ第1遺構面遺構検出・土器出土状況（拡張後 南東から）



(2) Cトレーナ第1遺構面完掘状況（南東から）



教育学部附属光小・中学校上水道改修工事に伴つて試験的立地調査六





(1) Cトレーナ全景（南東から）



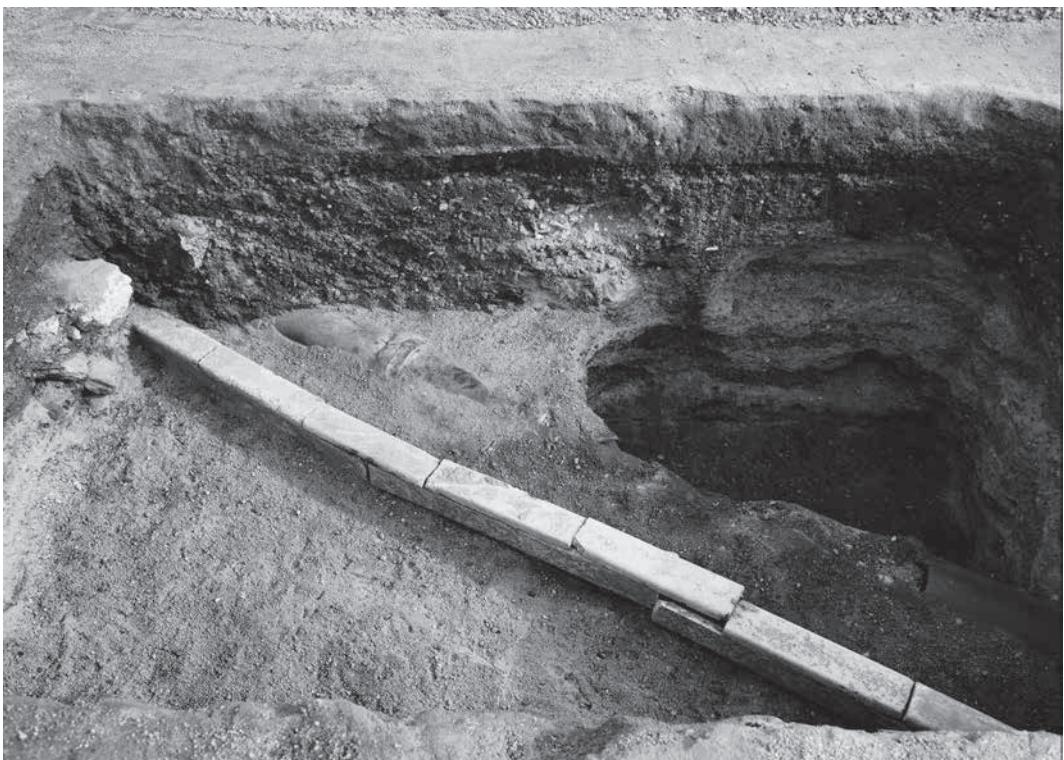
(2) Cトレーナ北東壁土層断面（南西から）



(1) Cトレーナー北西壁土層断面（南東から）



(2) Cトレーナー南東壁土層断面（北西から）



(1) Dトレンチ北東壁土層断面（南西から）



(2) Eトレンチ南東壁土層断面（北西から）



(1) Fトレンチ北東壁土層断面（南西から）



(2) Gトレンチ全景（南西から）



(1) Gトレーナー北西壁土層断面（南東から）



(2) Gトレーナー北西壁・南西壁土層断面（東から）

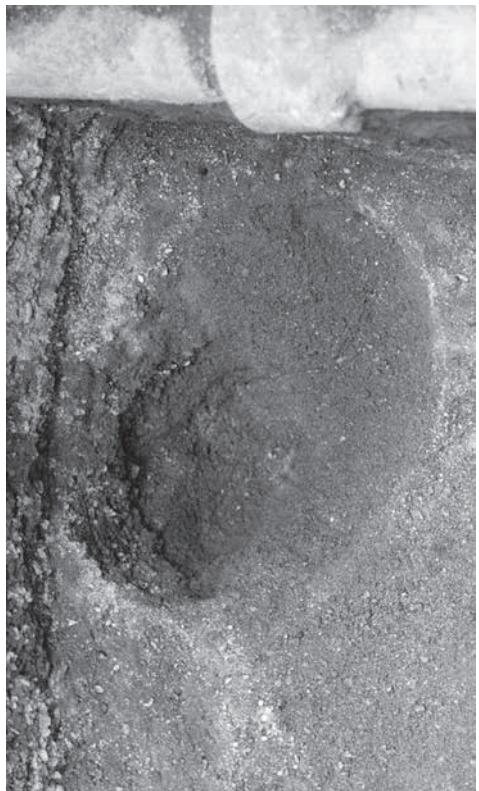
教育学部附属光小・中学校上水道水管（管）改修工事に伴つて調査・立地調査



(1) Gトレーンチ北東壁土層断面（南西から）



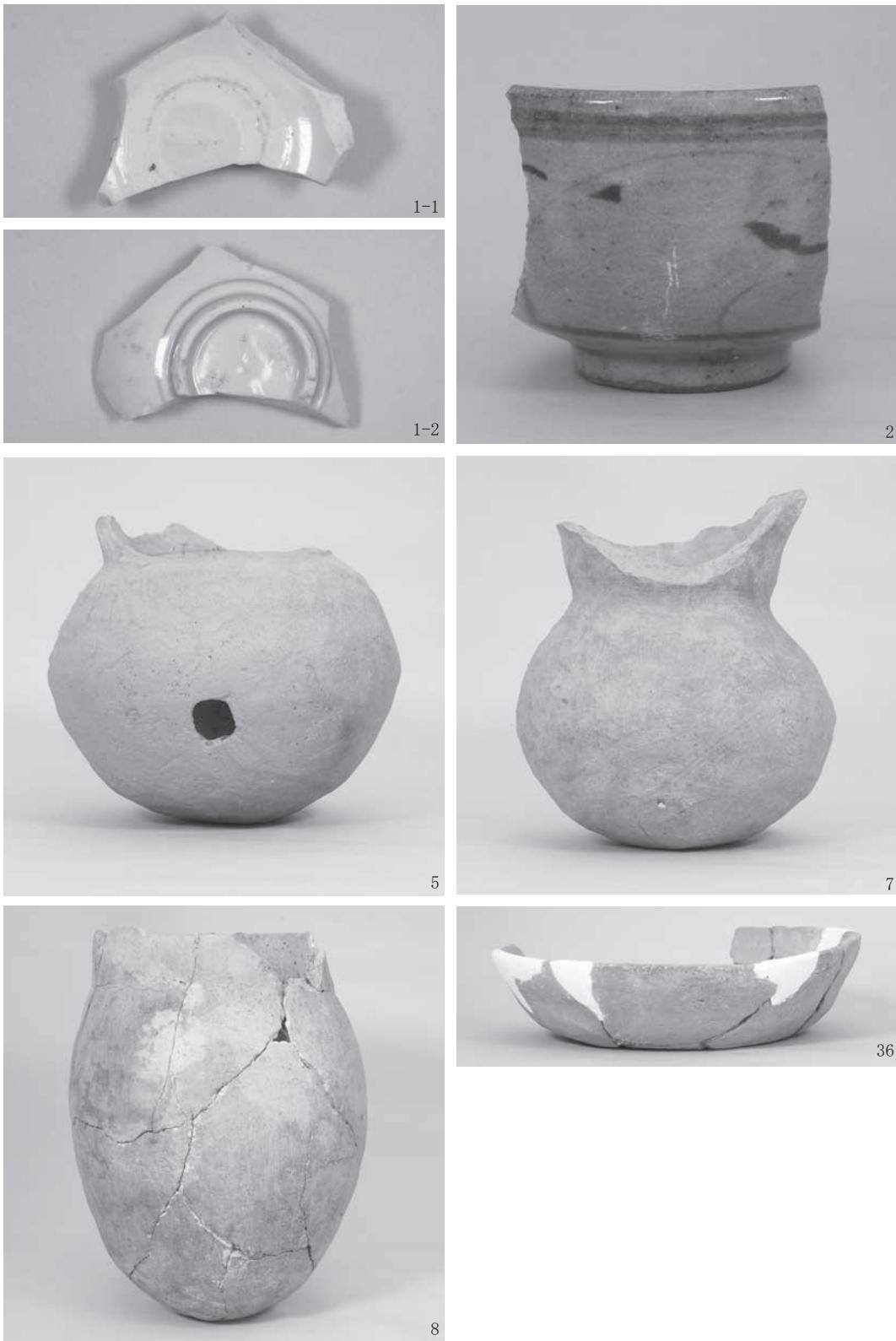
(2) Gトレーンチ SK1 検出状況（北西から）



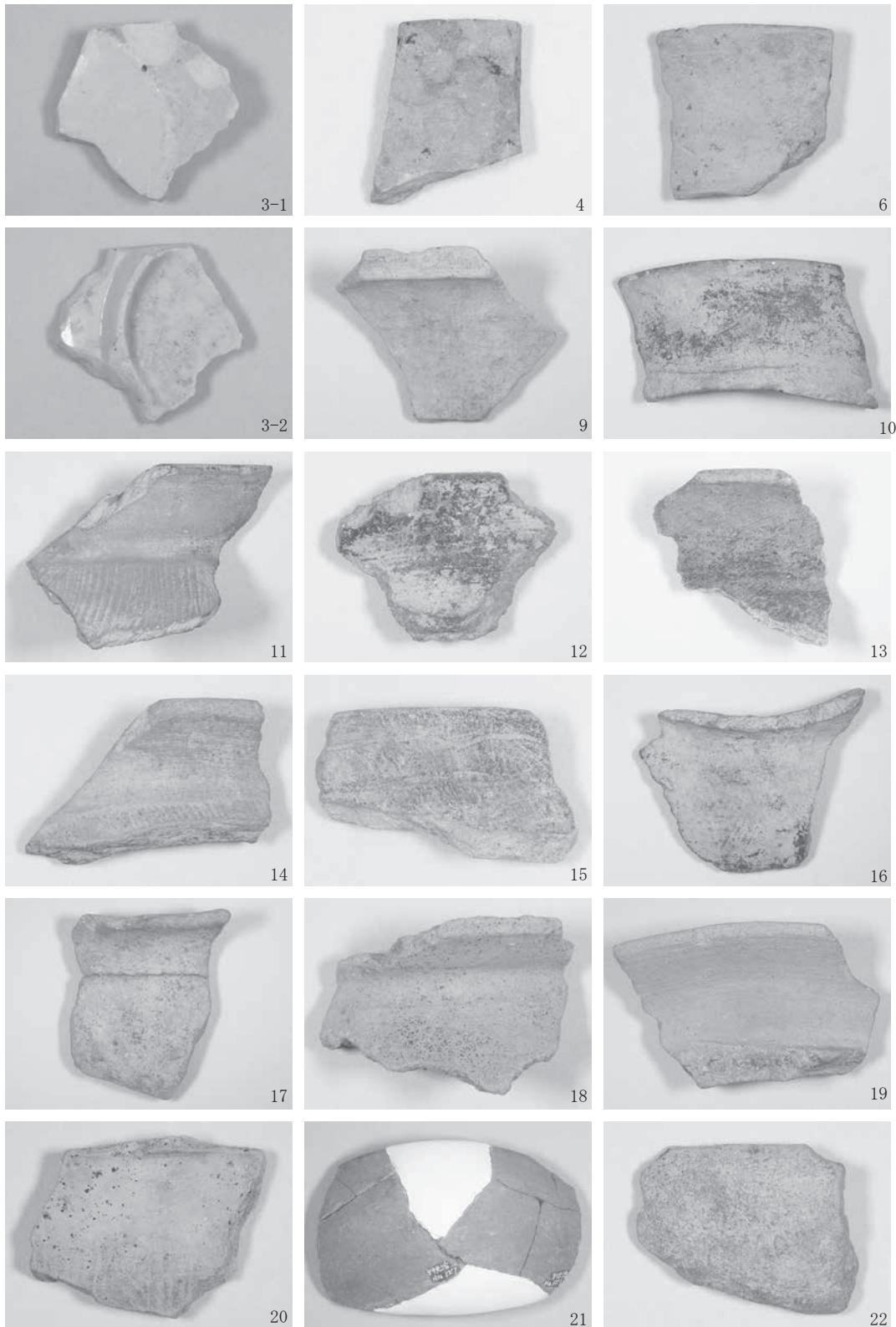
(3) Gトレーンチ SK1 土層断面（北西から）



(4) Gトレーンチ SK1 完掘状況（北西から）



出土遺物①(土器)



出土遺物②(土器)



23



24-1



25



24-2



26



27



28



29

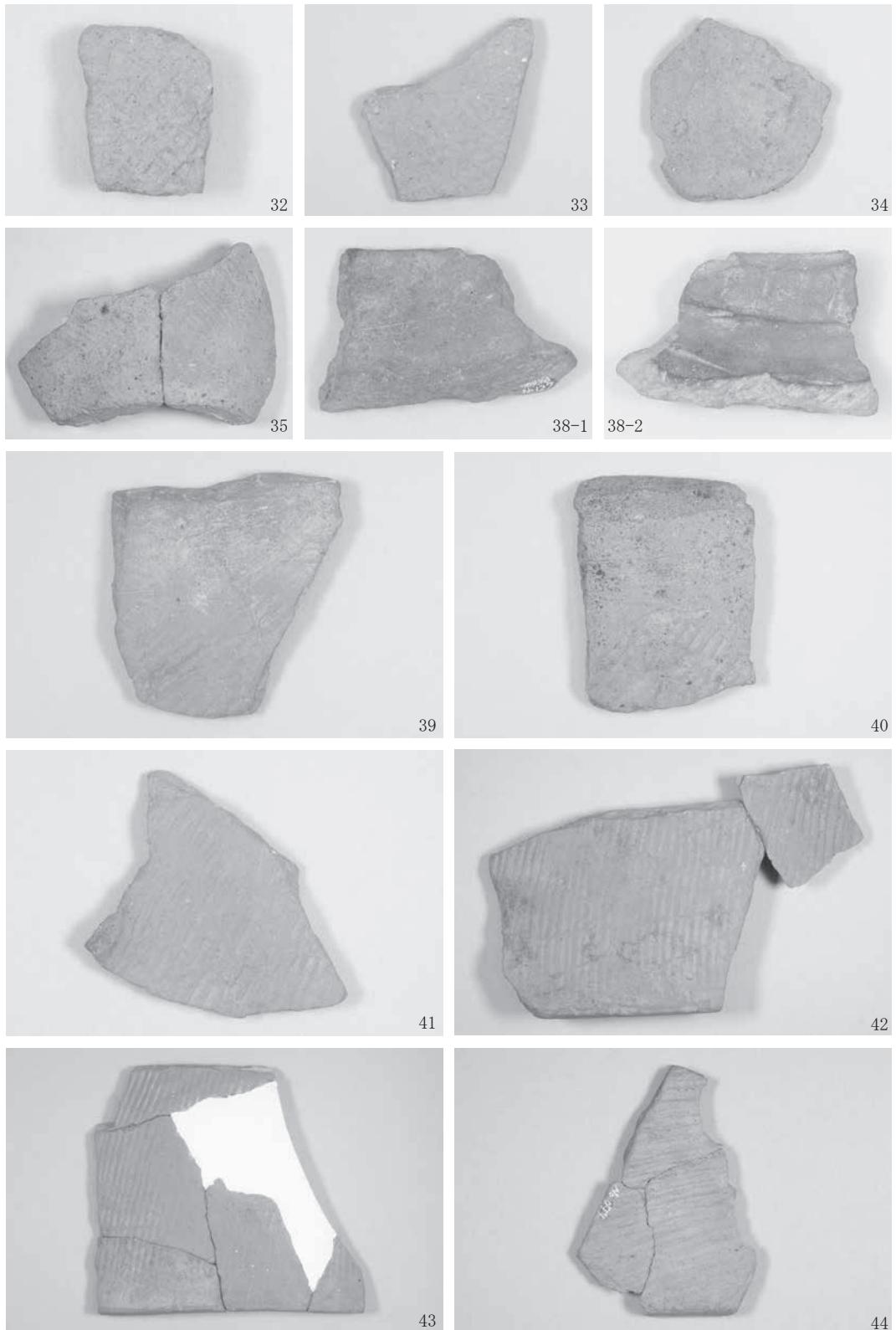


30

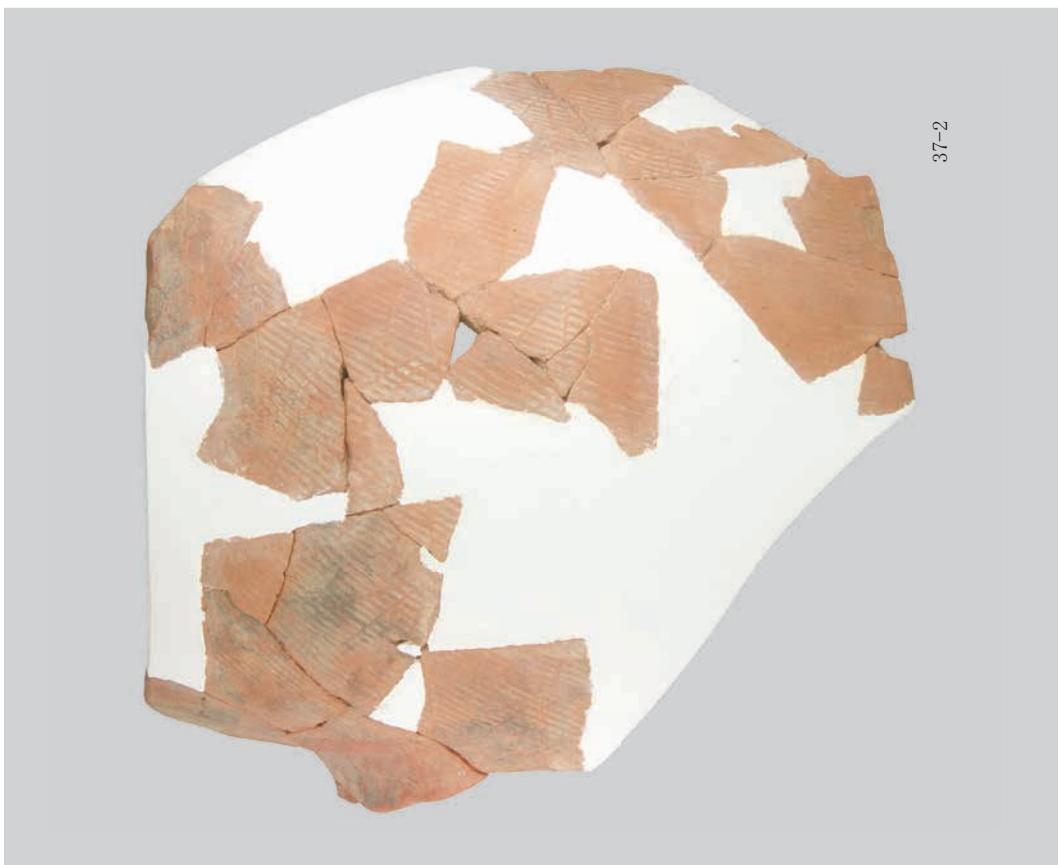


31

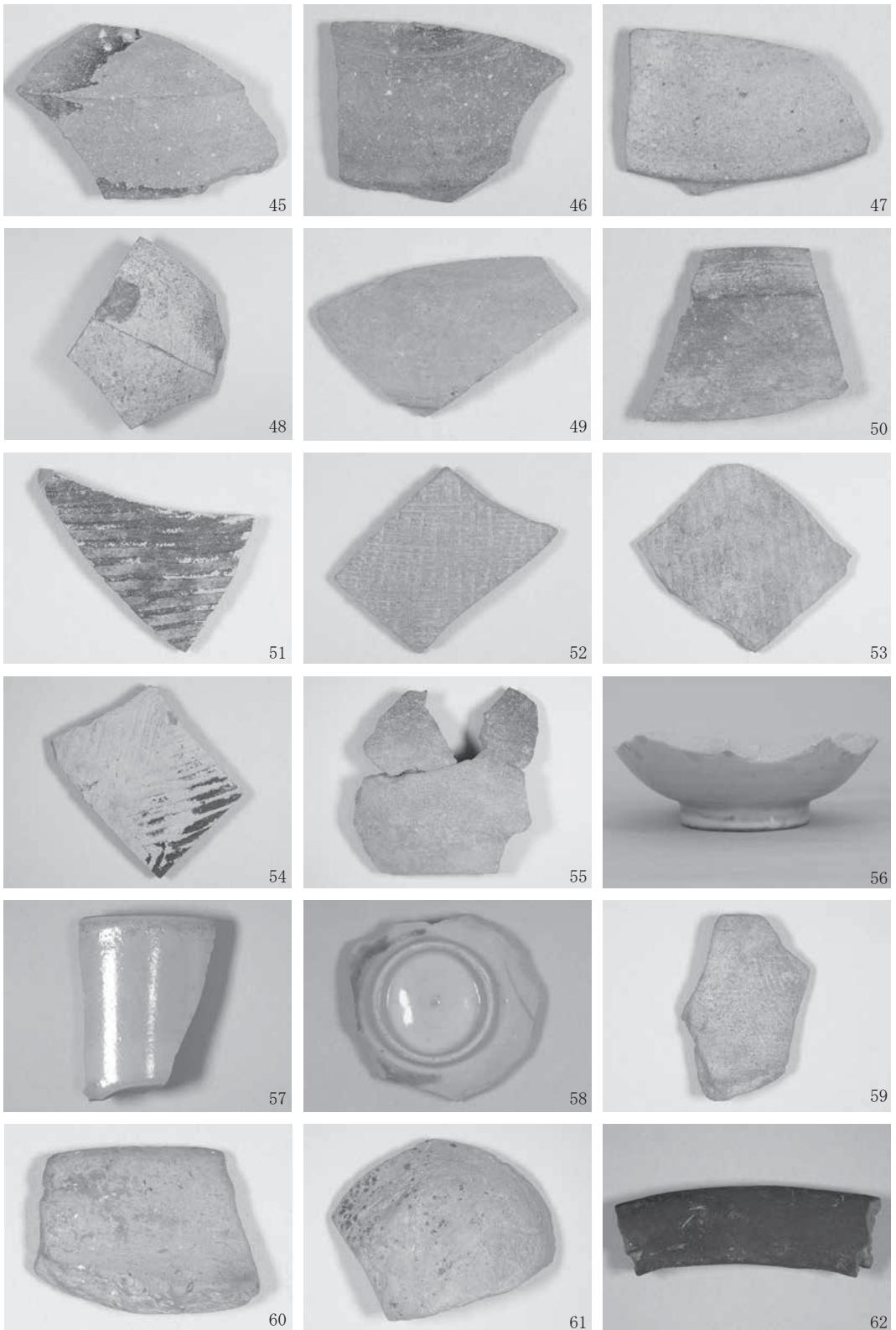
出土遺物③(土器)



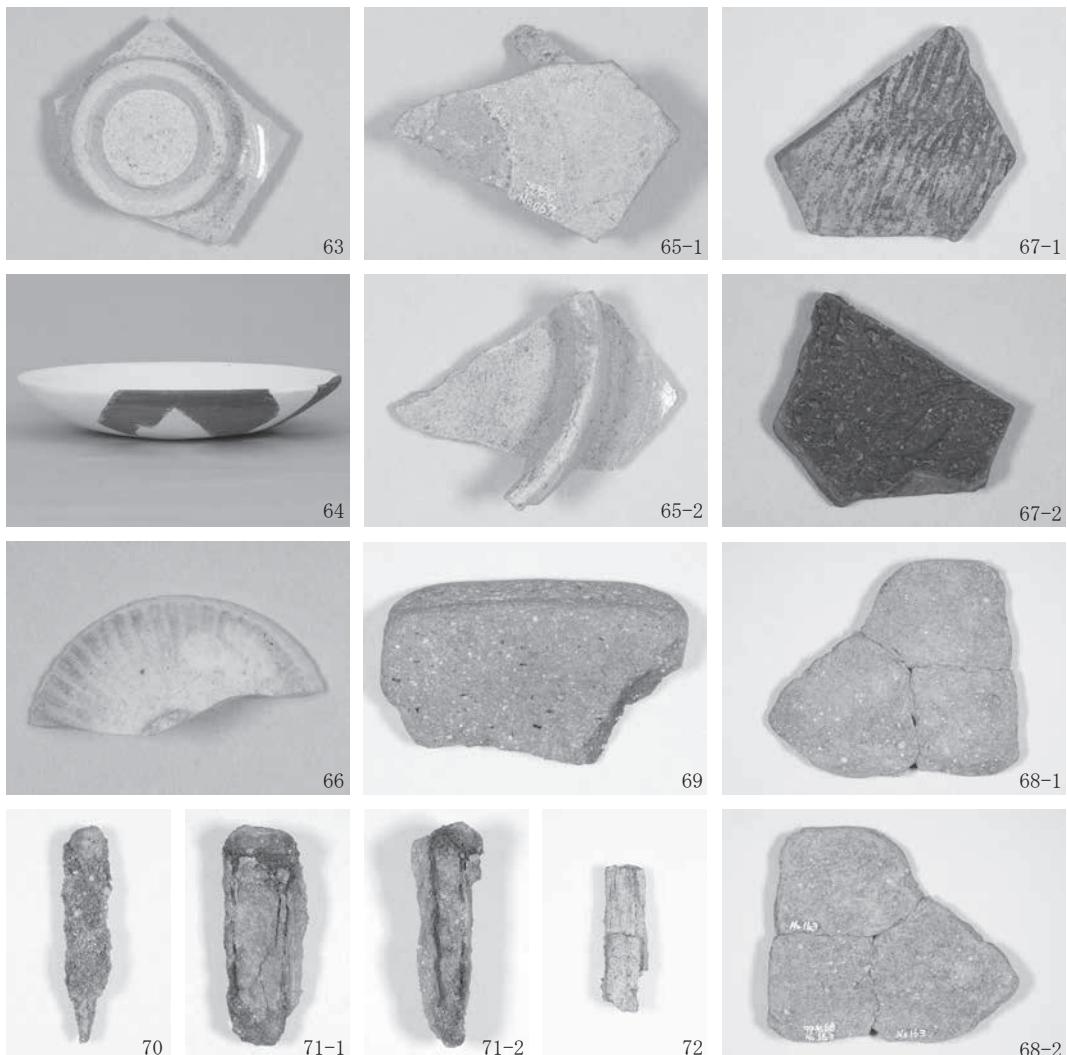
出土遺物④(土器)



出土遺物⑤(土器)



出土遺物⑥(土器)



出土遺物⑦(土器・鉄製品)

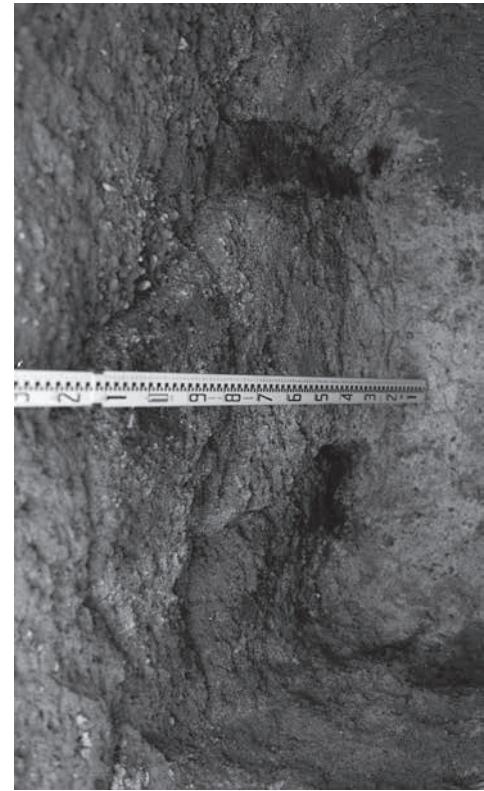
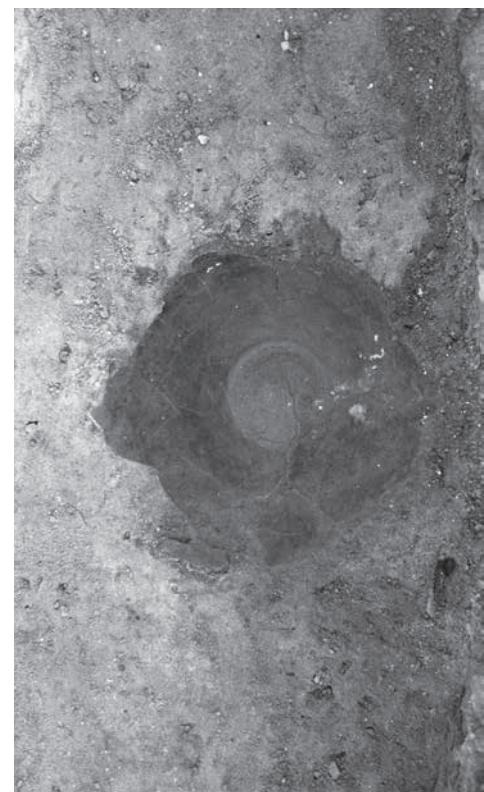
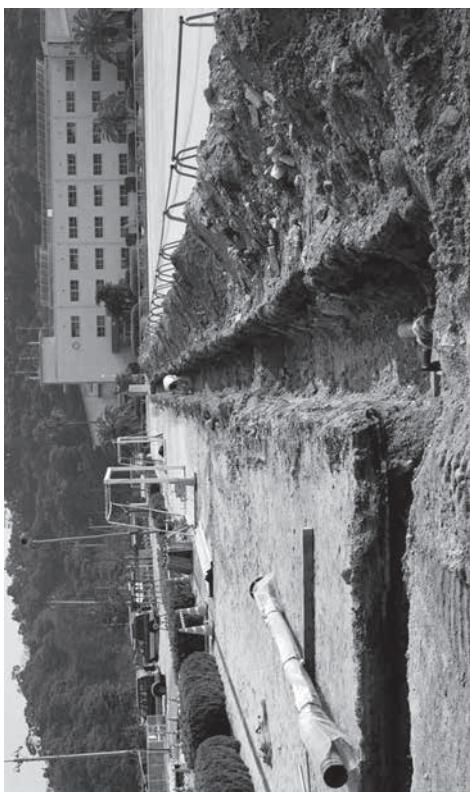
○ I-1 地点（南西から）

○ I-2 地点埋甕検出状況①（南西から）

○ I-3 地点埋甕検出状況②（南西から）

○ I-4 地点埋甕検出状況③（南西から）

○ I-5 地点埋甕検出状況④（南西から）





出土遺物（土器）



吉田構内全景(拡大)



(1) C地点全景（北西から）



(2) C地点第5層検出状況（南から）



(2) C地点遺構完掘状況（南から）



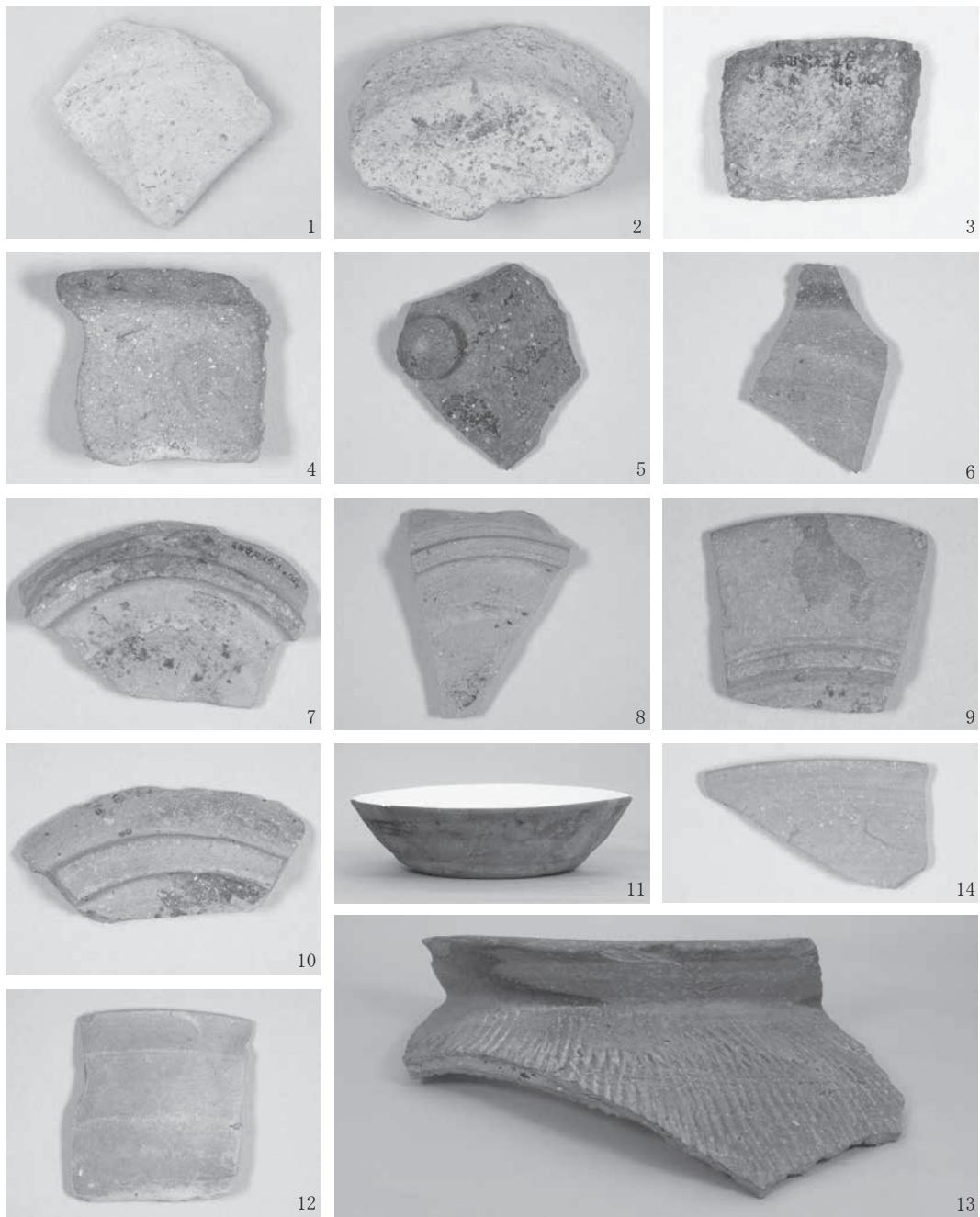
(4) D地点（西から）



(1) C地点遺構検出状況（南から）



(3) C地点北壁土層断面（南から）



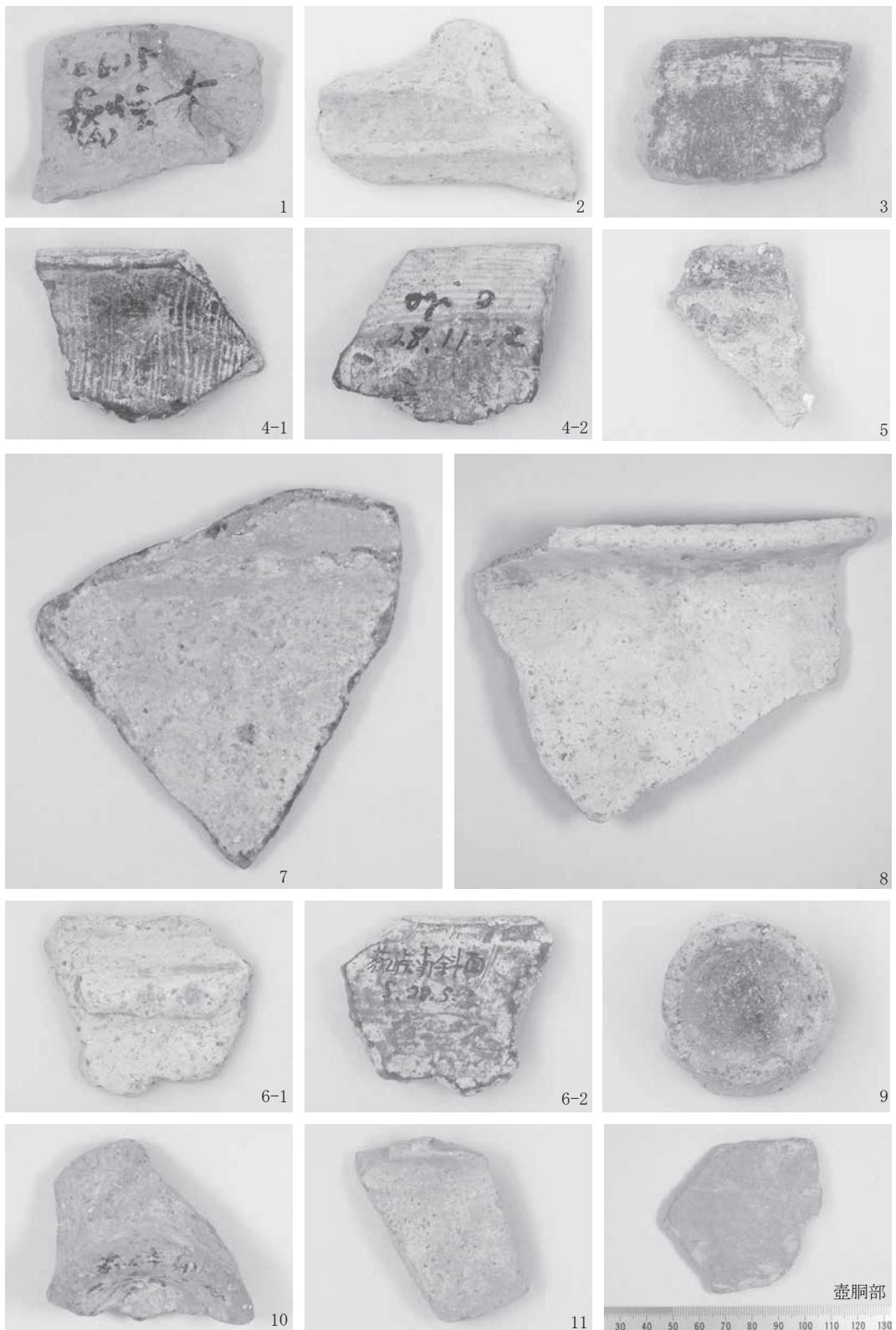
出土遺物（土器）



(1) 荻崎遺跡とその周辺（西から 1947年9月米軍撮影 国土地理院）



(2) 荻崎遺跡遠景（南西から 2021年9月）



出土遺物（土器）

報告書抄録

| | |
|--------|---|
| ふりがな | やまぐちだいがくこうないいせきちょうさけんきゅうねんぽう |
| 書名 | 山口大学構内遺跡調査研究年報 |
| 副書名 | |
| 巻次 | XII |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 田畠直彦 |
| 編集機関 | 山口大学埋蔵文化財資料館 |
| 所在地 | 〒753-8511 山口県山口市大字吉田1677-1 TEL 083-933-5035 |
| 発行年月日 | 西暦2022年（令和4年）2月28日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|-------------|-----------------|-------|----|-----------|------------|-------------------|---------------------|------------------------------|
| | | 市町村 | 遺跡 | | | | | |
| 山口大学医学部構内遺跡 | 山口県宇部市南小串1丁目1-1 | 35202 | | 33度57分39秒 | 131度15分03秒 | 19990526～19990913 | 818.9m ² | 宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線) |
| 御手洗遺跡 | 山口県光市室積8丁目4番1号 | 35210 | | 33度55分13秒 | 131度58分12秒 | 19991115～19991210 | 48.7m ² | 教育学部附属光小・中学校上水道 (給水管)改修工事 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|-------------|---------|-------|-------------|-----------------------------------|------|
| 山口大学医学部構内遺跡 | 散布地 | 近世～近代 | 近世～近代用水路・土坑 | 土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、錢貨 | |
| 御手洗遺跡 | 散布地・集落跡 | 古墳・近世 | 土坑・溝・ピット | 土師器、須恵器、韓式系土器、竈形土器、瓦質土器、陶器、磁器、鐵製品 | |

山口大学構内遺跡調査研究年報 XX

令和4年2月28日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 有限会社 三共印刷

〒759-0204 宇部市大字妻崎開作1953-8

ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES AND STUDIES AT YAMAGUCHI UNIVERSITY Vol.XIX

CONTENTS

Chapter

| | | |
|-----|--|----|
| I | Summary of the archaeological excavations on the Yamaguchi University campuses in the 1999 fiscal year | 1 |
| II | Excavations accompanying the Ube City land readjustment project (Yanagase-Marugouchi line) | 5 |
| III | Test excavation and on-site inspection accompanying the renovation of the water supply(water pipe) for Hikari elementary/junior high school affiliated with the Faculty of Education | 21 |
| IV | On-site inspections on the Yamaguchi University campuses in the 1999 fiscal year | 47 |

Appendix

| | |
|---|----|
| Pottery items discovered at the Ogida site in Yamaguchi City | 55 |
| Guidelines for excavations on the Yamaguchi University campuses | 63 |
| List of excavations on the Yamaguchi University campuses | 66 |
| Summary | 81 |

Published by
Yamaguchi University Archaeological Museum
Yamaguchi, 2022